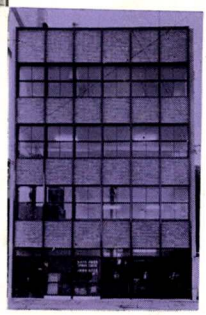
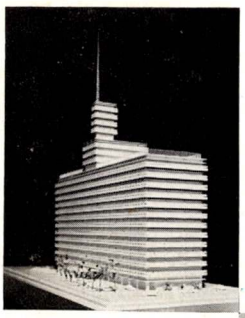
昭和24年3月19日 第三種郵便物認可 昭和34年4月20日印刷 昭和34年4月25日発行 第十四巻第四号 通巻第一四五号 毎月一回二五日発行





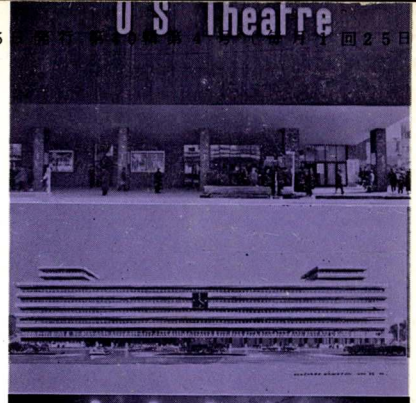


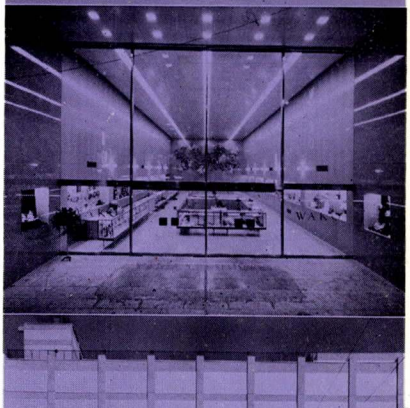
様式・デザイン特集

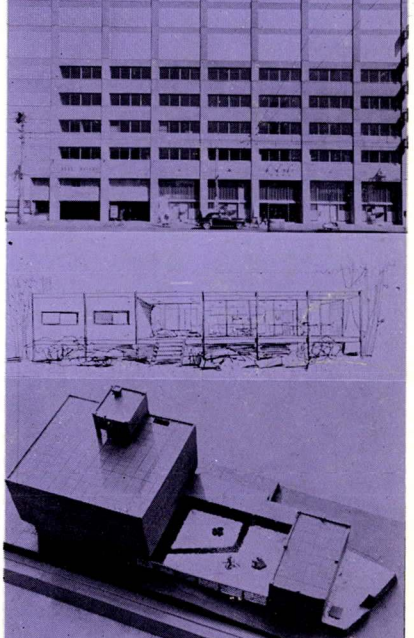




日本建築









近代感覚の先端をゆく！



大阪歌舞伎座納エスカレータ

日立エスカレータ

天井扇　換気扇
蛍光灯　電気設備
送風機　冷凍機
ポンプ　ダムウエータ
エレベータ　エスカレータ

日立製作所

TRADE MARK



DOG

メンブレン式防水

の補強材料は30余年の経厂を誇る

ドッグ印で!!

ドツグ印　アスファルトルーフィング
〃　アスファルトフエルト
〃　石綿ルーフィング
〃　砂付ルーフィング
〃　メルタイトルーフィング
〃　キンマレアタイト（高級瀝青金麻布）
〃　ヘッシャンファブリック（瀝青黄麻布）
〃　コットンファブリック（瀝青綿布）
〃　白麻ファブリック（瀝青苧麻布）
〃　ゲオンタイト（伸縮目地板）

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を発揮して居ります

型録・見本・仕様書御報呈上

株式会社 工英社

本社・工場　大阪市西成区橘通9丁目24番地　電話天下茶屋㊻8861・8862番



新しい
建築には

軽量形鋼

- 耐震、耐風の不燃建築が出来ます。
- 適当な被覆によって耐火構造にも出来ます。
- 軽量なため施工が簡単で工費が低廉です。
- 乾式構造が可能で量産に適し工期が短縮できます。
- 構造品種が豊富なため合理的な設計が出来ます。
- 鋼材の使用量がぐんと節約出来て仕上に十分費用をかけられます。
- 木造並みの予算で、白蟻にも犯されない耐久建築が出来ます。
- 外観が軽快優美で近代的な建築になります。

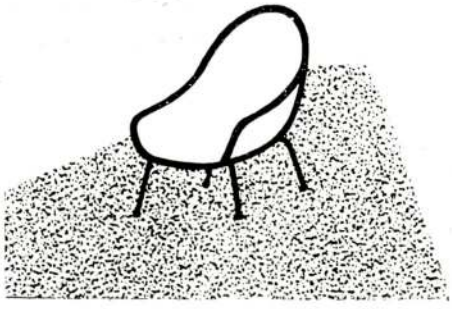
主要製品

軽量形鋼	簡易鋼矢板		
デッキプレート	ガードレール		
サッシバー	サッシフレーム		
電縫鋼管	ロツクシームチユーブ		

中之島製鋼株式会社
本社・工場　大阪市東区弁天町4 電㊿5031—5
東京事務所　東京都中央区西八丁堀4—10 電㊿1515—6

八幡製鐵株式会社

皆様の設計と施工に東洋の床材



リノリユーム
リノタイル
ビニール系新製品
ビニラートタイル
ビニール製
スポンヂシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

カタログ進呈

東洋リノリユーム株式会社

本社工場　兵庫県伊丹市伊丹558
電話伊丹(代)3531・大阪(48)4490
東京支店　東京都中央区銀座4丁目三和ビル
電話京橋 ㊿ 1701・2564
大阪事務所　大阪市東区瓦町2丁目三和ビル
電話北浜 ㉓ 0375～0379



建築用セメダインを用いて施工される
ノンスリップ（大阪・東映会館）

施工法を一変した
“液体のクギ”

セメダイン
NO. 195…木レンガ・ノンスリップ
テックス・ハードボード等
をコンクリート又は木部へ
NO. 601…合板・内装化粧板・クロ
ス類の接着
NO.1500…金属・ガラス・プラスチッ
クスの接着

建築用
セメダイン

発売元 東京セメダイン商事株式会社 東京都千代田区神田五軒町3 (83)3131
大阪セメダイン商事株式会社 大阪市南区大宝寺町東之丁41 (27)3456
名古屋セメダイン商事株式会社 名古屋市中区上前津町 (24)0845

特許

平川-MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る！

経費節減527万円の
利益を生む

☆高性能・輻射型
☆石炭・オイル・ガス焚
☆1年間(7200時間)の燃料節約額

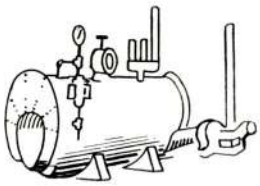
7′×30′ランカシヤボイラと
比較して

527万円益

（但し E.E.2000kg/hr.
6000カロリー石炭6000円/屯
1日24時間1月25日として）

大阪府立工業奨励館
公式試験成績

汽缶効率 81.2%
石炭焚にて
排ガス温度 197℃



◁営業科目▷ 平川～水管ボイラ、平川～機関車型ボイラ
平川～竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

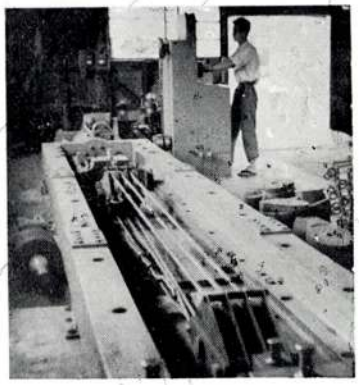
株式會社 平川鉄工所

本社・工場 大阪市大淀区大仁西2の1 電話福島㊸1975－8
東京営業所 東京都中央区八重州6の7 電話㉘5883・7787－8
九州出張所 福岡県小倉市富野545 電話 小倉⑤1362

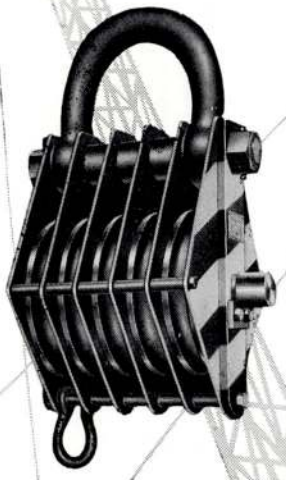
強力型 重荷用 鉄ブロック スナッチ

MKK

技術・性能・信用を誇る
安全度の高い



アムスラー油圧式横型引張試験機
（日本海事協会検定No. 3788）
製品は本機によって試験す





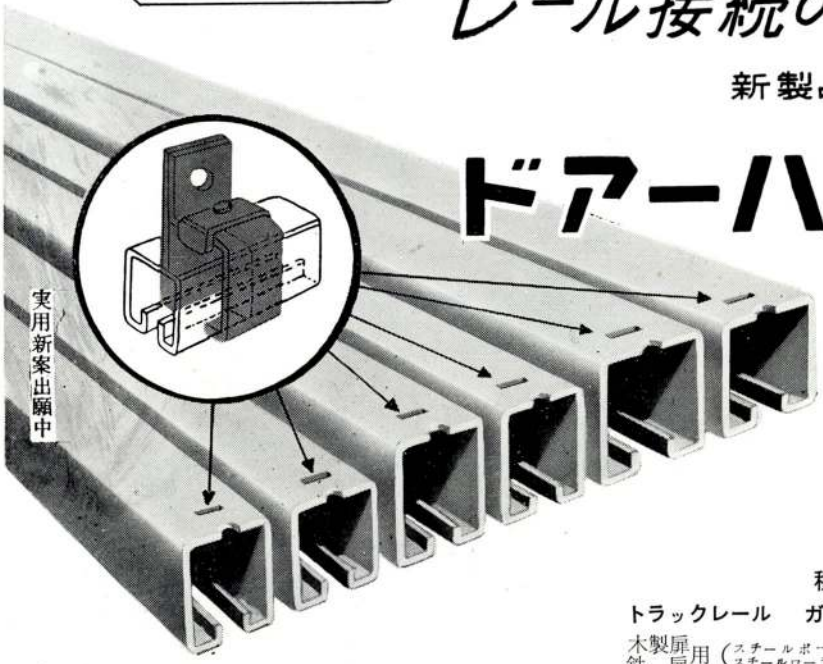
御用命は全国有名土木機械工具
金物店へ御照会願います

MKK

レール接続の革命！

新製品 完全防錆

ドアーハンガー





御用命は全国各地有名建築金物店へ御照会願います

種　目

トラックレール　ガイドレール　カーブレール

木製扉用（スチールボール／スチールローラー入）複車・単車ハンガー
鉄扉用

軽 50㎜, 60㎜, 70㎜

その他ブラケット附属品一切

株式会社 三谷製作所
東京都足立区高野町二一八番地
TEL 足立 (88) 4048・4239

最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル（2粍厚）

新製品



K－タイル（1·5粍厚）

アスタイル

藤森建材株式会社

本　社　東京都中央区日本橋通1ノ2（大倉ビル）
電　話　東京 ㉗ 6432～5
大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1丁目1番地（大同ビル内）
電話　土佐堀 ㊹ 1623·3798·8461～4

ORIENTAL

ASPHALT BLOCK

アスファルトブロック

"For Heavy Duty Floors & Pavements"



用途…橋梁用・プラットフオーム用及耐酸床用
厚サ20-25-38-50粍　巾 120粍 × 長サ 240粍

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長州字稲川新田44	TEL 大阪（48）4947～9·5920
東京支店及工場	埼玉県北足郡蕨町塚越	TEL 蕨(0889)3252～4
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16の2	TEL（八幡）723·2512
東北支店及工場	福島県郡山市外富久山町久保田142	TEL（郡山）267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	TEL 名古屋（88）7674

ORIENTAL

パーカライジング
下地に赤外線焼付加工

ニードルベアリング
使用に依る軽快な開閉

完全防錆シャッター出現！

三和シャッター



日本道路公団名神高速道路試験場

日本住宅公団
日本道路公団
他官庁、一流
建設業者御指定

業界最新最大の設備を誇る

三和式スプリングシャッター
三和式甲種捲上シャッター
} 各種

株式会社 三和シャッター製作所

本社	尼崎市久々知字コエ二三	電話大阪㊽2959・9748
東京	東京都新宿区西大久保一丁目三七〇	電話東京㉞2478・9678
札幌	札幌市南九条西六丁目	電話札幌③1368④4878
仙台	仙台市土樋一一二	電話 仙台 ③ 3296
名古屋	名古屋市中村区広井町二丁目四五	電話 名古屋 ㊺ 2846
代行店	稚内．網走．留朋．名寄．帯広．士別．北見．釧路．旭川．函館． 室蘭．弘前．秋田．盛岡．山形．福島．宇都宮．長岡．松本．甲府 千葉．横浜．焼津．富山．金沢．舞鶴．岐阜．四日市．京都．岡山 高松．広島．米子．小倉．福岡．別府．佐世保．長崎．伊万里．熊本	

（カタログ進呈）

社団法人

日本サッシュ協会

大阪市部賛助会員

スチールシャッター
日本シャッター製作所
小俣製作所大阪出張所
鈴木シヤタア商会

錠前
谷山製作所
昭和金属工業株式会社

サッシュ附属金物
近松金物株式会社

建築金物
渋谷幸雄商店

ドアー・ハンガー・オペレーター
三高製作所

サッシュバー
加納鉄鋼株式会社大阪支店
東都実業株式会社大阪出張所
東鋼商事株式会社大阪営業所
東京シヤリング
株式会社大阪営業所
西村金属株式会社大阪出張所

サッシュ・ドアー諸機械製造
関西鉄工所

パーカー
日本パーカライジング
株式会社大阪出張所

驚異的近代感覚の吸音壁貼材料

新製品

カラド クロース

原紙に着色せる優秀製品

ニッポン クロース

壁

オリエンタル クロース

壁

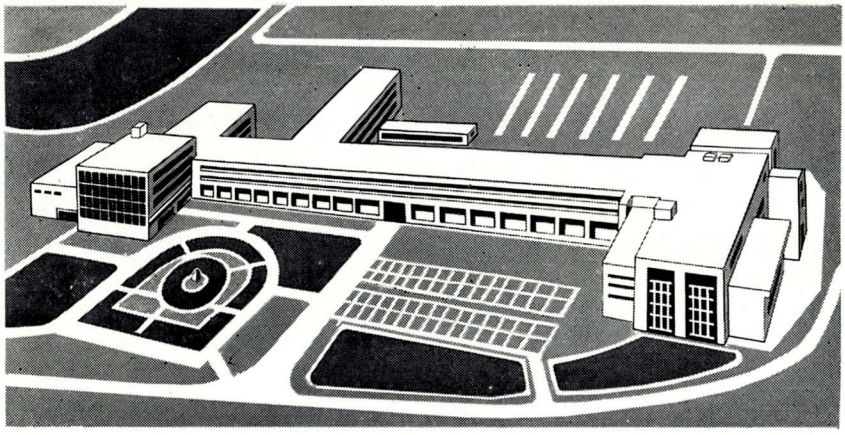
製造発売元

河津装飾株式会社

本社　大阪市北区堂島上一ノ二四　TEL大阪㉞1351—3

東京営業所
東京都千代田区神田猿楽町2の7
TEL ㉙ 9375

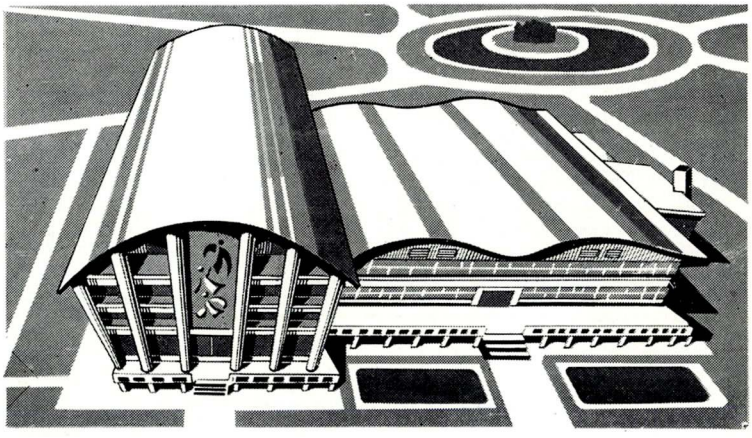
出張所　名古屋・広島・福岡



軽量、緩勾配屋根に
軽快な近代建築材

日泝スーパーアルソイド
日泝ゴールデンルーフイング

伸縮目地材　エキスパンタイト
　　セロタイト
コーギング材　シールセメント



日泝化学工業株式会社

本　　社　東京都中央区八重洲1—3
　　TEL（27）7000・5463～5
営業所及東京工場　東京都荒川区尾久町6—101
　　TEL（807）代表016 1～5

大阪営業所及大阪工場
　　大阪市東淀川区堀上通り3—39
　　TEL(39)0924～5・2045・2079

東陶の衛生陶器と付属金具

L-92 に代る

L-220

オパール



ビル・アパートはもとより一般住宅

にも御採用頂けるよう寸法や価格の点では従来最もよく

Toyotoki 御愛用頂いていた製品L－92を基準として考慮いたしました。

定　価

陶　器(1級)L 220 ¥ 2,750

金　具（Toyotoki印）

立水栓 T205Y
@¥ 600 (2個) ¥ 1,200

止水栓 T4AY
@¥ 670 (2個) ¥ 1,340

排水金具 T6P ¥ 1,210

バックハンガ
取付木ネジTL220D ¥ 200

計 ¥ 6,700

参考定価

陶　器(並級)L 220 ¥ 2,200

金　具（TTK印）

立水栓 K205Y
@¥ 510 (2個) ¥ 1,020

止水栓 K4AY
@¥ 570 (2個) ¥ 1,140

排水金具 K6PC ¥ 1,030

東洋陶器株式会社

本　社
小倉市篠崎町458
TEL ⑤2481～5

大阪営業所　大阪市東区伏見町5の3　TEL ㉓4518～9
各地営業所　東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
TEL 2105～8

いつも新しい感覚で清潔感のある

川口ゴムのビニール建材

硬質塩化ビニールの波板・平板

ロンプレート

丈夫で美しい壁・襖貼材料

ロンフイックス

採光屋根・間仕切・壁体・天井・装飾用等に好適な近代建材です。
明るく美しい，軽くて強い，燃えない，安い

透明・不透明・艶消し・畳り
型押・網入・模様板各種

厚さ：1，1.5，2，3，4，5mm
平板：巾91cm（3尺）×長182cm（6尺）
波板：巾72cm（2.4尺）×長182cm（6尺）
エンドレス：巾121cm（4尺）
（長尺波板）　140cm（4.6尺）×長10m（33尺）

「ビニールが簡単に貼れたら」……
これを解決したのがロンフイックスです。
どんな糊でも誰にでも容易に貼れ（特殊加工）、どんな汚れも石鹸水か、揮発油できれいにとれて変質せず半永久的に新鮮で、優雅な新製品です。（実用新案登録第469550号）
単色・二色・フラノ：巾96cm（3.17尺）×18m（5坪巻）

床材料の決定版！

ロンリウム
ロンタイル

6尺巾長尺の床材
標準寸法　厚さ2.5mm×巾183cm（6尺）×長27.45m（15坪巻）
踏心地がよく疲れない、耐磨耗性は極めて優秀、色彩優美、手入れは水拭きでよく清潔・経済的、暑気・寒気・薬品・油脂等に変質しない。

最高級ビニールタイル
（尺角）30.3cm×30.3cm×2mm
ジヤスペ12色

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区木田四ッ木町54　電話葛飾（69）1946～9

全国有名内装工事店に御照会下さい。

カタログ進呈

監事並びに評議員当選お知らせ

昭和34年2月26日開会の通常総会において監事1名ならびに評議員35名の選挙を執行いたしましたところ，下記の方々がそれぞれ当選せられました。

監　事　（1名）

田辺　信君　（大林組副社長）

本部所属評議員（35名・部門別50音順）

（技術部門）

石川　清君（日本生命相互保険不動産管理課）
乾　亮三君（今宮工業高校教諭）
斧出正隆君（府建築部指導課防災強度係長）
加藤毅夫君（近畿電通局建築部）
佐久間宏君（大成建設大阪支店設計主任）
島田一君（堺市建築課長）
玉置玉彦君（ひちり屋建築事務所長）
手塚二郎君（大阪市大理工学部）
中原茂君（近畿地方建設局計画課長）
中村静夫君（東洋レーヨン施設部）
長田正雄君（大阪建築事務所）
平田定男君（平田建築構造研究所長）
前川敬蔵君（東畑建築事務所取締役）

（綜合部門）

五十嵐芳雄君（大林組専務取締役）
蛯原逸雄君（西松建設関西支店次長）
加藤秋則君（鴻池組常務取締役）
川勝源兵衛君（松村組常務取締役）
島田啓太郎君（清水建設大阪支店次長）
中川宗治君（大成建設大阪支店建築工事係長）
若林季雄君（鹿島建設大阪支店建築部次長）
木村謹次君（木村工務所社長）
中道朝男君（中道組社長）

（電気部門）

今村騰君（中央電気工業社長）
工藤寿男君（工藤電気社長）
助野信三君（三和電気土木社長）

（管工部門）

浅見政一君（昭和温調工業大阪支店長）
池田英太郎君（三機工業大阪支店長）
須賀栄一君（須賀工業営業部長）

（建材部門）

井上武雄君（中央建材社長）
伊藤長太郎君（大阪耐ボード社長）
岩元熊雄君（岩元工業社長）
内田雅秋君（内田商会社長）
橋本末蔵君（ツバメ建材社長）
原正太郎君（アスニユー工業社長）
村上二郎君（サンエス石育大阪営業所長）

なお各支部選出の評議員は下記の方が当選せられました。

（京都支部）

佐々木米太郎氏（京都市管財局住宅営繕課長）
岡野武司君（岡野組社長）
仁張市朗君（仁張工務店社長）

（兵庫支部）

石井一信君（石井建材社長）
加藤太郎君（加藤建築事務所長）
景山正明君（神戸市建築課長）
千葉文雄君（兵庫県建築課長）

（東海支部）

染木正夫君（染木建設社長）
西村勝君（文部省名古屋工事々務所長）

（九州支部）

黒木源次郎君（黒木工務店取締役会長）
薄与荘君（福岡県建築士会々長）

（和歌山　2名・中国　4名未定）

昭和34年3月20日

社団法人　日本建築協会

参　考

昭和34年度留任監事・評議員氏名　（50音順）

監　事　宮脇　晴美君

評議員

（技術）
木村　博巳君　坂内　幾男君　菅　良春君
田公　初夫君　滝本　義一君　竹内　博文君
竹中　米造君　馬場　善雄君　村島　彰君
元木　貞次君　森田　孝雄君　山本　茂君
山本　利雄君

（綜合）
青柳　貞世君　石丸　正名君　坂本　広吉君
杉本　寛治君　七尾　健三君　西村　忠二君
矢野　豊作君　山口　吾郎君　吉本　一夫君

（電気）
浅海　正雄君　中元　清次君　鳴尾　源蔵君

（管工）
菅野　栄君　高須洪一郎君　竹中　清君

（建材）
尾崎　博一君　柏原　国光君　新谷　喜作君
鈴木　松雄君　戸谷　周円君　松井　邦彦君
脇山　静夫君

（兵庫）
森田　康次君　山田　治司君

（京都）
高橋　政吉君

（和歌山）
井崎　梁次君　瀬村　禎二君

昭和34年度役員選任

昭和34年3月24日の定時評議員会において，副会長1名，理事16名の改選を行い，下記のとおりそれぞれ選任されましたのでここに会告いたします。

	新任	留任
会長		尾崎久助君
副会長	鴻池藤一君	東畑謙三君
理事	諫早信夫君	伊東五郎君
	岩崎甚太郎君	河東義方君
	小林清周君	塚本猛次君
	越田正勝君	深尾実郎君
	田中良太郎君	奥島正一君
	小栗賛吾君	浅沼猪之吉君
	大林芳郎君	松村雄吉君
	銭高輝之君	栗原信虎君
	竹中錬一君	佐藤太君
	藤木正一君	菅野栄君
	山本竜太郎君	青木友一君
	菅谷三郎君	向井保晴君
	知見義夫君	
	金光五郎君	
	佐々木米太郎君	
	設楽貞三君	
評議員会議長	青柳貞世君	
同副議長	滝本義一君	

昭和34年4月1日

社団法人　日本建築協会

近畿建築会館設立資金借入金の一部抽籤償還

近畿建築会館の設立については，関係者からこれが資金を借入いたしておりますが，昨年からこの借入金の一部抽籤償還を行っております。3月24日の定時評議員会終了後，評議員諸氏列席の下に榊会館運営委員長の手で本年度の抽籤を行いました結果下記のとおり当選し償還が決定いたしましたからここに会告申し上げます。

記

No. 157	株式会社藤本組	20,000
〃 179	株式会社盛工務店	20,000
〃 93	株式会社大藤組	10,000
〃 143	株式会社間組大阪支店	80,000
〃 84	株式会社田中組	5,000
〃 76	志垣正次	30,000
〃 32	株式会社大林組	200,000
〃 94	大日本土木株式会社大阪支店	40,000
〃 173	株式会社水間組	10,000
〃 128	日建設計工務株式会社	100,000
	合計	515,000

昭和34年度役員選任

近畿建築会館設立資金借入金の一部抽籤償還

明治製菓K. K. 大阪工場見学会

1. と き　4月21日（火）午後2時（集合）—4時30分（解散）
1. 集合所　国電　摂津富田駅北口
1. 見 学　1）操業中のビスケット工場　午後2時10分—3時
　2）工事中のチョコレート工場　午後3時—4時30分
　チョコレート工場建物概要
　設計監理　日建設計工務 K. K.
　施　工　K.K. 大 林 組
　R.C造　1部地下室附・2階建（特に P.S.C 架設状況見学）延　2,230坪

第8回建材工場見学会

大阪金属工業K.K.堺製作所見学会

1. と き　4月23日（木）午後1時（集合）—5時（解散）
1. 集合所　本 会 前
1. 申 込　往復ハガキで11日までにお申込み下さい。抽せんにより参加者（70名）を決定し，お知らせします。
1. 行 程　本会前（13時）発—（大阪金属工業 K.K. ご提供の貸切バスを利用）→大阪金属工業 K.K. 堺製作所—（工場見学・懇談）→（貸切バス）→大阪駅西口（17時）解散。

大阪金属工業K.K.……代表的な製品 "ダイキン冷凍機" は従来のアンモニヤ冷凍機にかわるものとして，ダイフロンガスの研究とともわが国において最古の歴史と優秀なる技術と性能を誇るフレに，オン式冷凍機であり，堺製作所で製造されている。

最近，わが国における冷凍機工業の発展は飛躍的に拡大し，冷凍，冷却，冷蔵装置はもとより温湿度調整，恒温恒湿装置，冷暖房装置，脱湿装置，超低温装置，クレーンキャブクーラ，ヒートポンプ式冷泉加熱装置，電気冷蔵庫，自動車用冷房装置など，あらゆる方面に応用されている。

中速単働竪型圧縮機の製作とともに，高速多気筒圧縮機も製作している。また密閉型圧縮機の完成によりパッケイジドエヤコンディショナーは，従来に見られなかった性能を有し，騒音，振動は皆無，美麗な体裁と相まって据付取扱いが非常に簡単である。

主な製品名は，大型・小型冷凍機，ウィンドクーラー，ヒートポンプ式エヤコン，静電集塵装置付エヤコン，空冷式エヤコン，クーリングタワー，キャブクーラー，等多数の品種がある。

春の桂，修学院離宮見学会

恒例の離宮見学会を催しますから何卒申込方法を熟読の上お申込み下さい。参加者は抽せんにより決定いたします。なお今回より桂離宮は1級建築士の資格者のみとなりましたのでご了承願います。

申込方法

（1）**申込み**は往復ハガキのみとし，希望の離宮名1カ所に限る。
（2）**予定人員**　桂離宮　30名　　修学院離宮　50名
（3）〆　**切**　4月15日（当日の消印有効）
（4）**見学予定日**　5月初―中旬
（5）**申込ハガキに記載の事項**　a）ご希望離宮1カ所名　b）氏名　c）年令　d）勤務先および役職名　e）現住所
（註）桂離宮の申込は1級建築士にかぎります。

本会後援の新建材展示会開催

1．名　　称　新建材展示会
1．主　　催　株式会社　関西原木市場
　　大阪木材センター協同組合
1．場　　所　大阪木材センター
　　大阪市浪速区久保吉町1248
1．期　　間　3月16日――4月15日
1．展示品　「壁面と床」用の建材に限定
1．後　　援　大阪府，市，通産局，本会その他

日本学術会議第5期会員選挙に関し

本年は日本学術会議会員改選の年に当り，来る11月20日に従前のとおり通信によって選挙が行われます。

この選挙で選挙し，または選挙されるためには，日本学術会議事務局に備えた有権者名簿に登録されなければなりません。会員多数の方の登録を期待申し上げます。

なお，このたび日本学術会議会員選挙規則の一部が改正されましたからご注意願います。詳細は本会事務局にご照会下さい。

登録カードの提出：5月8日まで

登録カードの記入の業績に証明を必要とするときは本会において致します。

第4回　建築写真コンクール

（入選作品で「建築と社会」の表紙を飾る写真コンクール）

建築写真コンクールも今回で4回を催すことになりました。こん回は入選作品を「建築と社会」の表紙に使用していただくことになり，意義ある写真コンクールになることと存じます。主題は従来通りであります。奮ってご応募下さい。

第4回　建築写真コンクール募集規定

(1) **主　題**　**建築に関連のあるもの**（建築を中心にしてかもしだされたもの）

(2) **応募資格**　日本建築協会々員に限る

(3) **大きさ**　**四ツ切版以上**，（カラーの場合は自由）応募点数は制限しないが未発表のもの

(4) **〆　切**　**昭和34年6月30日**　ただし当日の消印あるものは有効

(5) **入選者の数並に賞**

入選者10名に日本建築協会賞（記念品・賞状）および富士フィルム賞（富士賞）を贈る。

(6) **審査員**　（順不同）　5名

森　　忠一氏　（村野森建築事務所）
政岡基次氏　（K.K.松村組）
恒成一訓氏　（つねなりすたじお）
多比良敏雄氏　（タイラホート）
および後援者より1名

(7) **入選発表**　本人に通知する外「建築と社会」に入選者氏名を発表する。

入選作品は「建築と社会」表紙に使用並に誌上に掲載する。また適当な場所で展示公開する。

(8) **その他**

(イ) 応募作品は希望者のみ返却する。

(ロ) 応募写真の裏面には暗号（文字に限る）を附し別に暗号，撮影場所，日時，データ，住所，氏名を明記した紙版を密封し，封書表面には暗号のみを記入すること。

(ハ) 入選作品は公表する以前に他で発表することは出来ない。

(ニ) 入選作品を編集し本会で出版する場合の版権は本会に帰属する。

(9) **送り先**　大阪市東区北浜3丁目37
日本建築協会建築写真コンクール係

後援　**富士写真フィルム株式会社**

青年建築家のすいせんについて

本会誌「建築と社会」7月号は，「青年建築家特集号」として企画しておりますが，青年建築家をごすいせん下さる場合は，別掲の「青年建築家のみなさまへ」をご参照の上，下記の要領でごすいせん下さい。

① すいせん用紙に記入の上，編集委員会青年建築家特集号係までお送り下さい。ただし，すいせん用紙は，同係に備えてありますから，切手貼付の返信封筒を同封の上，ご請求下さい。

② すいせんは1人1名にかぎります。

③ すいせん期日は来る4月20日までとします。

なお，参考までにいままでに掲載された青年建築家を下記に掲げました。

日本建築協会編集委員会

青年建築家特集号に掲載された青年建築家

第1回

富家宏泰（富家建築設計事務所）
坂田美郎（事務所）
今西茂雄（今西デザインルーム）
三田一男（三田建築設計事務所）
渡辺禎己（大阪市住宅建設課）
森下祐良（KK大林組）
平生舜一（KK竹中工務店）
長谷川元耶（東畑建築事務所）
吉田隆一（〃）
松村慶三（倉敷レイヨン営繕部）
稲葉蔵明（清水建設KK）
片山光生（近畿地建）
宮武保義（清水建設KK）
小林章（建築世代）
小林盛太（〃）
近藤正志（村野森建築事務所）
太田伝一郎（電々公社）
（昭和29年6月号より）

第2回

鈴木英夫（東畑建築事務所）
梅田孝治（近畿地建）
浜田和夫（電々公社）
富田三樹夫（三座建築事務所）
薬袋公明（日建設計工務KK）
佐久間宏（大成建設KK）
高橋則夫（KK竹中工務店）
節田清（安井建築設計事務所）
栄木一成（KK大林組）
加藤啓治（清水建設KK）
（昭和30年6月号より）

第3回

住田栄次郎（東畑建築事務所）
石中達夫（大阪建築事務所）
井上滉（〃）
鳴村隆次（大成建設KK）
小西敏哲（中国四国地建）
八木彰（〃）
吉岡吉雄（KK大林組）
内藤嶽男（三座建築事務所）
倉石秀夫（KK竹中工務店）
力武利夫（清水建設KK）
（昭和31年6月号より）

第4回

市川宏（東畑建築事務所）
三川栄吉（兵庫県営繕課）
山本智雄（松田平田建築事務所）
陶村功（清水建設KK）
北田正利（円堂建築設計事務所）
山本俊介（清水建設KK）
宮川達郎（日建設計工務KK）
松浦直一，鍛治延男（桂建築設計事務所）
TD グループ（大阪市大都市計画）
後藤摂二（自営）
北村隆夫（KK竹中工務店）
竹原義昭（〃）
坂本勝比古（神戸市建設局）
（昭和32年6月号より）

第5回

外山毅（日建設計工務KK）
小西吉太郎（小西建築設計事務所）
若槻健一（中国四国地建）
内藤一真（大阪府）
根津耕一郎（日建設計工務KK）
山本竜輔，下山和正（近畿地建）
田中孝男（日建設計工務KK）
横井良一（〃）
木内新弥（郵政局）
和田保（村田大旗建築事務所）
田村敏夫（住宅公団大阪支所）
森本光雄（田中小西建築事務所）
大辻真喜夫（KK竹中工務店）
奥山勝（〃）
木村康彦（清水建設KK）
宮本千賀志（大成建設KK）
山田篤（中部地建）
柏原博（石原建築設計事務所）
井関幹雄（三座建築事務所）
松井香路（三田建築設計事務所）
多田英之（日建設計工務KK）
松岡通夫（田中小西建築事務所）
日高輝雄（中川組）
池田彰一郎（東畑建築事務所）
池田武彦（〃）
猪沢徳忠（兵庫県営繕課）
江川好己（山下寿郎設計事務所）
舟橋厳（KK大林組）
山本純孝（安井建築設計事務所）
武藤倫男（倉敷レイヨンKK）
上村一，蓮仏享，吉野正治（京都建築研究所）
金沢弘真（日本住宅公団大阪支所）
（昭和33年7月号より）

青年建築家のみなさまへ

――「建築と社会」1959年7月号
「青年建築家特集号」企画――

創意と工夫にみちた青年建築家のために，「建築と社会」7月号を恒例のとおり「青年建築家特集号」として編集することとなりました。

本年は従来の青年建築家特集・新人特集（昭和29年，30年，31年，32年，33年）の第6年目に当ります。

ねがわくば，つぎの規定により，ふるって応募されんことを！

応　募　規　定

1. 応募される人は，35才ぐらいまでの青年建築家で，本会会員にかぎります。

2. なるべく推せん者を通して応募されんことを希望しますが，その推せん者の見当らない人は，直接当編集委員会にお申出下されば，その任務を代行いたします。

3. **提　出　資　料**

（i）本人の写真・氏名・生れ年・最終学歴・業歴・作品略歴(簡単に)

（ii）**実施作品の場合**

共同設計による作品でも可。

a. 鮮明なる写真
b. プラン（黒インキング）
c. 概要（所在地・設計施工者名・規模・坪数・工期・主要仕上）
d. 設計者としてのことば（400字ていど）

（iii）**デスクプランの場合**

実施にいたらず，机上に埋もれているデスクプランでも，アイデアでも可。

a. その案を表示する資料（パース，プラン，詳細図など）
b. その案の概説（1000字ていど）

（iv）**建築評論の場合**

建築に関連した評論でも可。

枚数400字詰原稿用紙20枚以内（スリ上り 3頁～4頁予定）

4. **提　出　期　間**　昭和34年5月15日までに必着ねがいます。

5. 掲載権およびディスプレイは本委員会に一任ねがいます。

6. 掲載の分は，掲載誌および規定の稿料を呈上します。

7. 提　出　先　　大阪市東区北浜3―37
日本建築協会編集委員会
青年建築家特集号係

昭和34年4月

社団法人　日本建築協会編集委員会



全　　景

大　阪　新　歌　舞　伎　座

設　　計　村野・森建築事務所

施　　工　株式会社　大　　林　　組

ブルーペーン
サーモペン複層硝子 使用
タフライトドアー

日本板硝子株式会社



夜景

大阪新歌舞伎座



シヤタア工事　株式会社　鈴木シヤタア商会



ホール柱：大理石

株式会社　矢橋大理石商店

大阪新歌舞伎座



カーペット・緞通・モケット

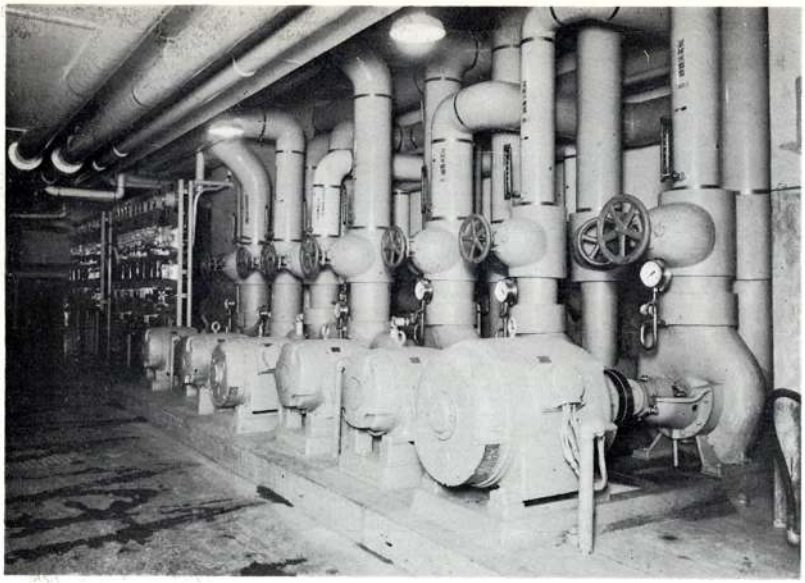
住江織物株式会社



客席

連結椅子

稲田株式会社



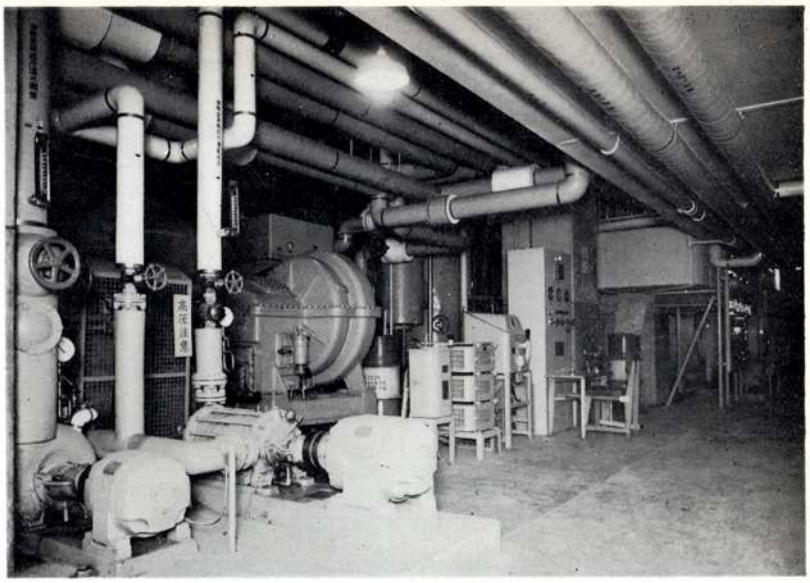
地2階ポンプ室

衛生設備　株式会社　三晃商会

タイル工事

株式会社　平田タイル

建築用装飾金具
ホワイトブロンズ製スクリーン
階段手摺・面格子・その他　株式会社　上野製作所



冷暖房設備工事

高砂熱学工業株式会社大阪支店

電灯動力工事

株式会社　大阪電気商会大阪暖房商会

変電設備工事

工藤電気株式会社

大阪新歌舞伎座

鋼製建具　大阪建材工業株式会社



窯業セメント　大阪窯業セメント株式会社

生コンクリート　大阪生コンクリート株式会社

建物クリーニングの店

住宅美素工事の創始者

◎ビルディングの洗浄工事
◎建物外塗サンドブラスト工事
◎建物外壁各種吹付工事
◎建物外壁シリコーン防水工事
◎月極め清掃工事
◎木造建築洗浄美素仕上工事

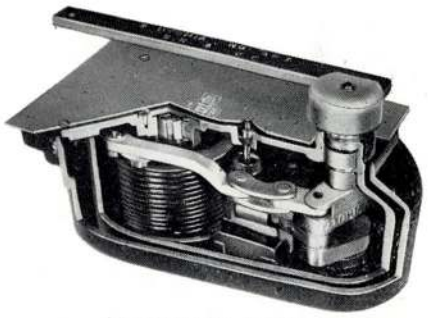
株式会社 **美素工業所**

大阪市東区瓦町二丁目(三和ビル)　電話㉓4938・5888・㊼8050

S.K ユートピア

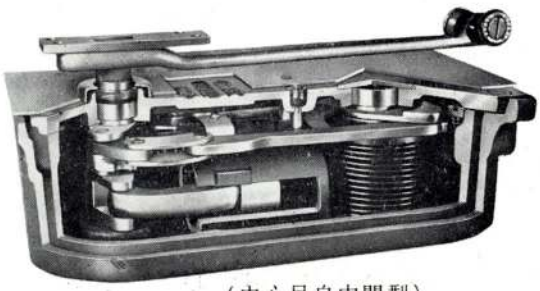
近代人の感覚にマッチする

ユートピア印



(片開持出吊り型)

フロアーヒンヂ　**ピボットヒンヂ**



(中心吊自由開型)



上枠・上扉　　下枠・下扉
(ピボット・ヒンヂ持出し吊り型)

(カタログ御入用の節は御申込下さい)

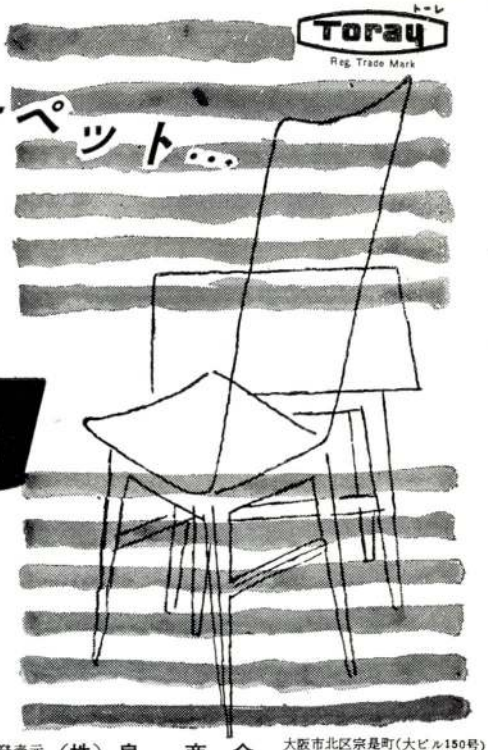
製造元

敷島金物株式会社

布施市横沼町1丁目46番地　電話　布施(72)839番
東京都千代田区神田和泉町1ノ11　電話　東京(866)3051～2番

絶讃！ナイロンカーペット…

東レナイロン絨毯 ・緞通は100%スパンナイロン糸を使用したもので・摩擦に強く
・弾力性に富み・吸塵性が少なく
・虫の害を全く受けません



東レナイロン

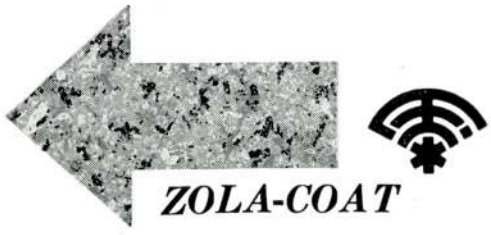
絨毯・緞通

このほか価格低廉な 100%レーヨンによる
東レカーペットも好評を博しております

東洋レーヨン株式会社

発売元 (株)泉　商　会
大阪市北区宗是町(大ビル150号)
電 (44) 2736～9





ZOLA-COAT

新しい塗料から生まれる新しい環境

コンクリート・モルタル・プラスター・木材・金属紙・繊維・皮革・その他あらゆる材料に深さと魅力を与える高分子粒子状多彩塗料

A Plastic Coating, Multi-color Paint

ゾラコート

●カタログ御希望の方は当社宣伝課迄御申付け下さい。

米国特許 No. 2,591,904
英国特許 No. 760,605
日本特許 No. 231,698

関西ペイント
大阪市東区伏見町5丁目27

建築と社会

4

様式・デザイン特集

1 9 5 9 年 4 月 号 目 次

表紙 デザイン：村尾 栄
写真は岩本博行氏の作品ならびに計画案。

巻頭の言……日本の建築近代性……大倉 三郎…14

作品作風

大阪新歌舞伎座…… 設計：村野・森建築事務所…15
施工：株式会社 大林組

建築の眼……20

本文

日本建築の源流雑考……村田 治郎…21

座談会

日本の現代建築の形成過程をめぐって……24
出席者(順不同) 笹川季男・白石博三・西山卯三
光安義光・足立 孝・鳥田家弘

アンケート……33
あなたの作家としての転機について
これからの方向・好きな作家
回答者(順不同) レーモンド・山口 文象・蔵田 周忠
山脇 巌・東畑 謙三・市浦 健
明石 信道・佐藤 重夫・清水 和弥
山根正次郎・薬師寺 厚・森田 茂介
徳永 正三・坂本鹿名夫・中村 登一
本城 和彦・西沢 文隆・岩本 博行
吉阪 隆正・清家 清・佐野 正一
光安 義光・富家 宏泰・天野 太郎
菊竹 清訓

西長堀アパートの壁画を中心として……53
建築と美術についての座談会
出席者(順不同)
吉原 治良・白髪 一雄・吉田 稔郎・矢橋 六郎
池田 宮彦・西嶋徳太郎・諫早 信夫・元吉勇太郎
藤原 巧・小西 嘉夫・田村 敏夫

書評……57
「現代建築を創るもの」川添 登著……相川 浩
「現代建築と芸術」 神代雄一郎著……相川 浩

昭和33年度各委員会活動報告……58
建材審査委員会・出版委員会・法規委員会・事業委員会
編集委員会・住宅委員会・教育委員会・災害委員会
会合(2月分)……64

建築と社会
第40集・第4号
売価 1部180円・送料共
昭和34年4月20日印刷
昭和34年4月25日発行
発行所 社団法人 日本建築協会
大阪市東区北浜3丁目37
電話 北浜㉓ 9648・9649・9640番
振替口座 大阪39975番
発行人 沖田誠一
編集人 松井昭光
印刷所 株式会社研文社
大阪市北区堂山町66
電話 ㉙ 2091～3番
印刷者 網野栄

日本の建築近代性

大倉三郎

〝日本文化の再認識〟という課題が，最近また，しかし切実に浮び上ってきた。海外との交流が活発になるにつれ，他との相異や共通性に直面して、自己省察しようという気配も濃い。国際社会の民族主義的な潮流が，共存を呼びかける声も，機運となっていよう。かくて〝日本的性格〟〝世界と日本〟が改めて問われるのも，ごく自然な形であろう。しかし，日本的といっても，現代を動かす主役が近代性である以上，その眼を通して，われらの足下を注視するものであることは当然である。

では，近代建築における日本的なものとは，一体何であろうか。建築が現代の機能や構造に立脚し，国際共通の言葉を話す以上，そこには英語，フランス語と日本語といったほどの違いはない。しかし，その同じ面や形，色からの受取り方は，またそれ以上に創造面においては，民族性やその感性の伝統によって，かなり違ったものがあると思われる。日本語はやはり日本の生活につながっているのである。極端ないい方をすれば，純粋無色な近代性というものは，現実にはあり得ないといえよう。

ある画家の述懐に，滞欧中の作は他の作品と違ったものができる，日本に帰って描くとタッチが自然に変ってしまう，という話を聞いたことがある。それは身近かな生活のふるまいや感じが，作品の中に自らしみ込んでくるからであろう。同じ建築の機能性といっても，その見方，扱い方には，日本の土や香りを通じて，西欧とは自ら違ったものが，しみ出るはずである。リチャーズの〝時と所と目的との有機的個別性に関する〟ものなのであるが，しかし，それは機能の性格ではなく，むしろ普遍的な機能の受けとり方における日本的姿勢というべきもの。つまりは物心両面を含む日本文化のあり方，その生活のニュアンスに依存するものである。機能をば，普遍固定と考えるところでは，純真な機能性はちっ息され，機能主義的な形式一遍倒に落ちてしまう。いま，ここにあるべき生活機能は，すなおに具象化されて，生きた形式表現となるであろう。

展覧会を見て，日本画と洋画との区別は，ただ絵の具の違いだけだ，という批評を聞いた。なるほど洋画という言葉が，今に通用しているのが，おかしいといえばいえる。しかし絵の具と発想は別々のものではない，深くからみあっている。鉄筋コンクリートで木造の組方を形づくること，それ自身は構法の可能性を示しているに外ならない。そこでは材料はただの手段に過ぎなくなる。材料や構法は手段から出発してはいるが，それが働きを与えられる時，それ自身の性格に応じて，呼吸する肉体となり顔付きとなる。絵の具がその中に生きているのである。また，構造をば，ただの手段として見るところでは，対象は知的にのみ認識され分析され，征服した物，突きはなして作った表われに過ぎなくなる。構造主義の冷たい落穴がそこにある。構造は征服するのでなく，その中に入り込み，そのものとなってともに表れる仕組み，そこに日本的構造の源流がある。ゼムパーは〝構造象徴〟と形容したが，そこにはまだ対象を客体化して見る西欧的な残滓がある。主客が一体となってリズムに乗る境地，しかし現実否定ではなく，むしろ肯定的展開としての日本的レアルなのである。

いま日本文化の表層は複雑混乱している。その流動する多様性の中から，発展的な優性を，たくましい日本的底流をば，近代性の中に引出す必要がある。現代の創造意欲に内から働きかけるもの，オウトの〝内的な必然性から作らるべきもの〟がそれである。むしろ，作られるものではなく，自ら成るものなのである。それは前進的な姿勢において，現実を見つめる時，内に自らしみ出るもの，即ち日本的感覚の教養に帰するものである。

（筆者　本会京都支部長・京都工芸繊維大学教授）

大阪新歌舞伎座

設計監理　村野・森建築事務所
施　工　株式会社大林組

位　置	大阪市南区難波新地5の59
工　期	昭和32年11月12日起工 昭和33年10月30日竣工
敷地面積	2,273.7㎡　689.0坪
建築面積	1,993.2　604.0坪
延床面積	11,088.0　3360.0坪
地2階	801.2　242.8坪
地1階	1,606.8　486.9坪
1階	1,942.7　588.7坪
中2階	368.3　111.6坪
2階	1,923.2　582.8坪
中3階	13.9　4.2坪
3階	920.7　279.0坪
4階	1,054.4　319.5坪
中5階	213.2　64.6坪
5階	990.3　300.1坪
屋階	115.5　35.0坪
構　造	地下2階　地上5階 鉄骨，鉄筋コンクリート造，銅板葺
高　さ	標準地盤より軒高　21m 〃　31m

本建築は，約2,000名を収容する歌舞伎劇場ならびに附属，売店，食堂のほか千土地興行本社事務所を包含し，3,360坪の床面積を有する。

1階にはホワイエ，食堂，バー，茶室，2階以上4階は劇場とし階段の他4基のエスカレーターをもって連続している。5階は本社事務室とし専用エレベーターを有し，地下1階は食堂，売店とし地下2階には電気室・機械室を設けている。

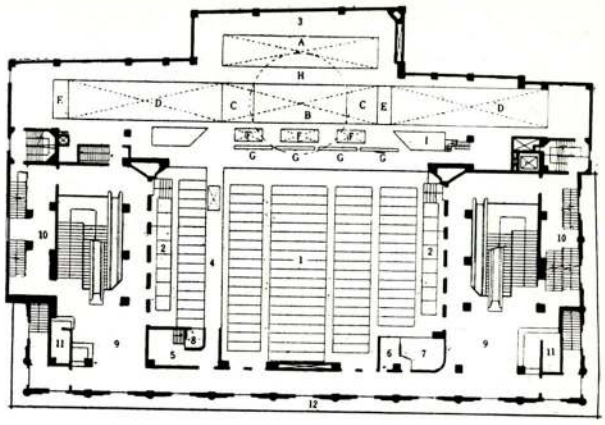
外装として，1階正面アーケードの柱および壁面は中国産大理石，側壁は特殊瓦貼りとし，2階以上はモルタル，ペンキ塗り，一部特殊瓦貼り。

正面の側面の2階以上には，コンクリートブロック飾金物つきの勾欄をまわし，窓には防音のためペアーガラスをはめ込んである。大屋根，唐破風，箱棟は銅板葺，飾金物付き，一部金箔仕上，床下はコンクリート打放の上ペンキ仕上げ。

内装として，1階ホワイエの床は絨緞敷き，壁はゾラコート塗り仕上げ，独立柱には大理石（白玉）を貼り天井の格間は間接照明入。食堂の壁は一部鏡貼りとし，天井はベニヤ下地の上に特製織物貼。2階以上にある劇場内部の壁面は桧ベニヤ貼り，平場の席の側壁は障壁面をもって飾り，舞台の間は防火シャッターをもって仕切られている。凹凸のある桝形天井にして一部着色仕上げ。床はアスタイル貼り，通路は絨緞敷き。地下大食堂，床アスタイル，壁ラウコート，天井ベニヤカンバス貼りペンキ仕上。階段室吹抜ホールは床絨緞敷き，壁白ラワンヅクリ仕上，天井は桧ベニヤの上銀金箔ふり。

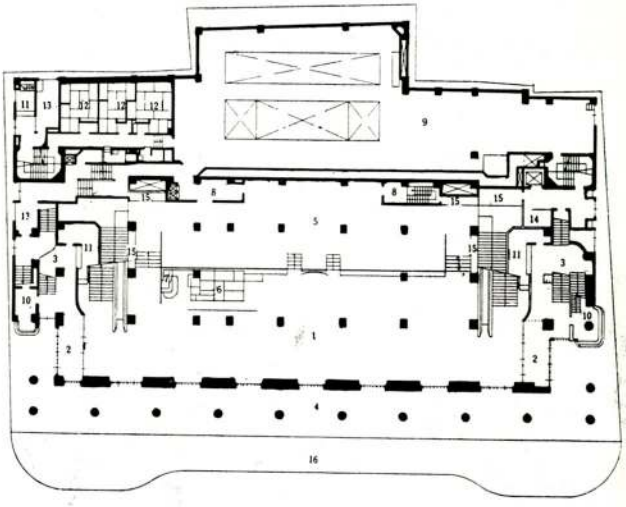
2階平面図

1. 客席
2. 舞台
3. 花道
4. 鳥屋
5. 監視室
6. ミキサー室
7. サービス室
8. 光線室
9. イントロ
10. 段階
11. ロビー
12. 高大中小迫
A. 迫
B. 迫
C. 迫
D. 動迫
E. 移昇降ボックス
F. 所作ボックス
G. 回転ヤシ台
H. ハネ床
I. 床



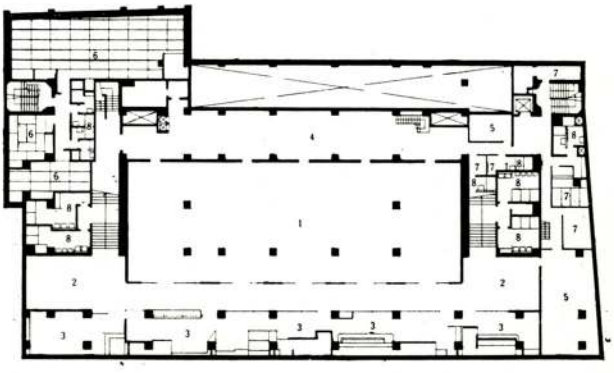
1階平面図

1. ホワイエ
2. 玄関
3. 階段
4. アーケード
5. 食堂
6. 茶席
7. バー
8. 厨房
9. 奈落
10. 切符売場
11. 下足預り場
12. 楽屋
13. 事務室
14. 守衛室
15. ショーウインド
16. 舗道



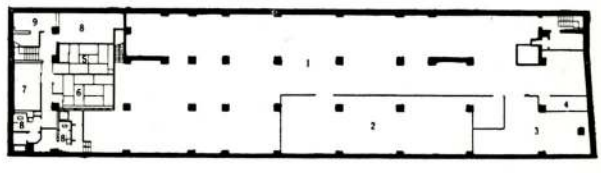
地1階平面図

1. 大食堂
2. 売店
3. お好み食堂
4. 厨房
5. 事務室
6. 楽屋
7. 更衣室
8. 便所



地2階平面図

1. 機械室
2. 変電室
3. 発電機室
4. 電池室
5. 衣裳室
6. 床山室
7. 小道具室
8. 食堂
9. 厨房



暦

わが国の暦は（能田忠亮博士によると）推古12年（604）中国暦の採用に始まり，幾変遷を経て明治5年（1872）11月9日改暦の詔勅とともに発布された太政官布告に「今般太陰暦ヲ廃シ太陽暦御頒行相成候ニ付来ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事」とあるのが現行の暦であるが，筆者が取り上げたのはこの暦のことではなく，暦注すなわち暦書の注記についてである。古い中国では農耕播種に必要な観象授時が帝王政治の重要な部分であり，進んだ科学性をもつ暦が存在したが，一面には陰陽五行説のごとき非科学的な部分があり，わが国はむしろ後者を多分に輸入して冠婚葬祭に日の吉凶を択ぶなどの迷信が平安朝以降昭和の今日まで続き，Modern Architects もまた方位の吉凶地鎮立柱上棟などの祭祀の日取に煩わされている。天文暦航海暦書に日常生活の祝祭日二十四節雑節および年中行事の注記は有意義であるが，何ら科学的根拠のない暦注の除去には建築家がまず触手するよう提唱するものである。（YK）

構造計画偶感

以前は建築設計に構造計画というあらたまった考えはなかったようだ。むしろ一般設計者の計画に従って，骨組，部材，納まりなどを決める構造計算を行う程度で構造図作成の下請のような役割りを演じていたに過ぎない。構造設計と現場施工の豊富な結果と経験を集結してこれを基盤とし，急速に発展しつつある防災上の研究成果を巧みに採入れた構造計画という行為が意識的に為され始めたのはまだ新しいことである。一般計画の重要な分野として全体計画をさえ左右するにまで至った推移で，最近は構造横暴の評さえ聞かれるほどであるが，力学，材料学を背景とし構造学，防災学などをその計画原論として系統的に積上げてゆくあたり確かに大きい強味といえよう。しかしながら，構造計画はまだ各人の経験とある程度の好みによったいわゆる名人芸に属することが多いのも実情である。地盤，基礎，耐震構法など少しづつ明らかになって一日もはやく建物を全立体的に把握できないものだろうか。（GY）



数の魔術

つじつまの合わないことでも，数字や公式をならべて結論を出されると本当らしく思ってしまう習慣は，昔も今も変らないようである。無神論者デドロをへこませてやろうとロシア皇帝が一人の数学者に命じて御前討論をやらせたとき，数学者が冒頭に「$x+y=z$ 故に神は存す」と切り出したところ，デドロ先生は応答できずあわてて退出したという逸話を数学の本でみた記憶がある。現代もこうした数式によるごまかしが，科学的という仮面をかぶって堂々と横行している。建築技術の世界にもこうした事例は多い。特にひとすぢ縄では処理しきれない土を対手にする場合などこの傾向が甚しい。ボーリングをやり各種の土質試験を行ない，それに従来の経験をプラスして杭1本に負担さすべき荷重をきめても，よほどの大先生でないかぎり説得力は弱い。ところが，杭打公式をもち出して，これこれしかじか故にこの杭は何屯の載荷に耐えるとやると，かけ出しの技術者でも対手を納得させることができる。不思議なことである。数式がでてきたときこそ，眉につばをつけなければならない。

（TH）

"余　　韻"

壁は物理的には環境遮断あるいは調節の要素であり，芸術的には表現の素価である。このいづれをも偏重しすぎては論争の種になることは，今日まで多くの新聞雑誌類に現われた通りである。

壁の可動部分が窓あるいは出入口の扉であって，壁としての物理的要素には変りがないが，動くという条件は大きい。

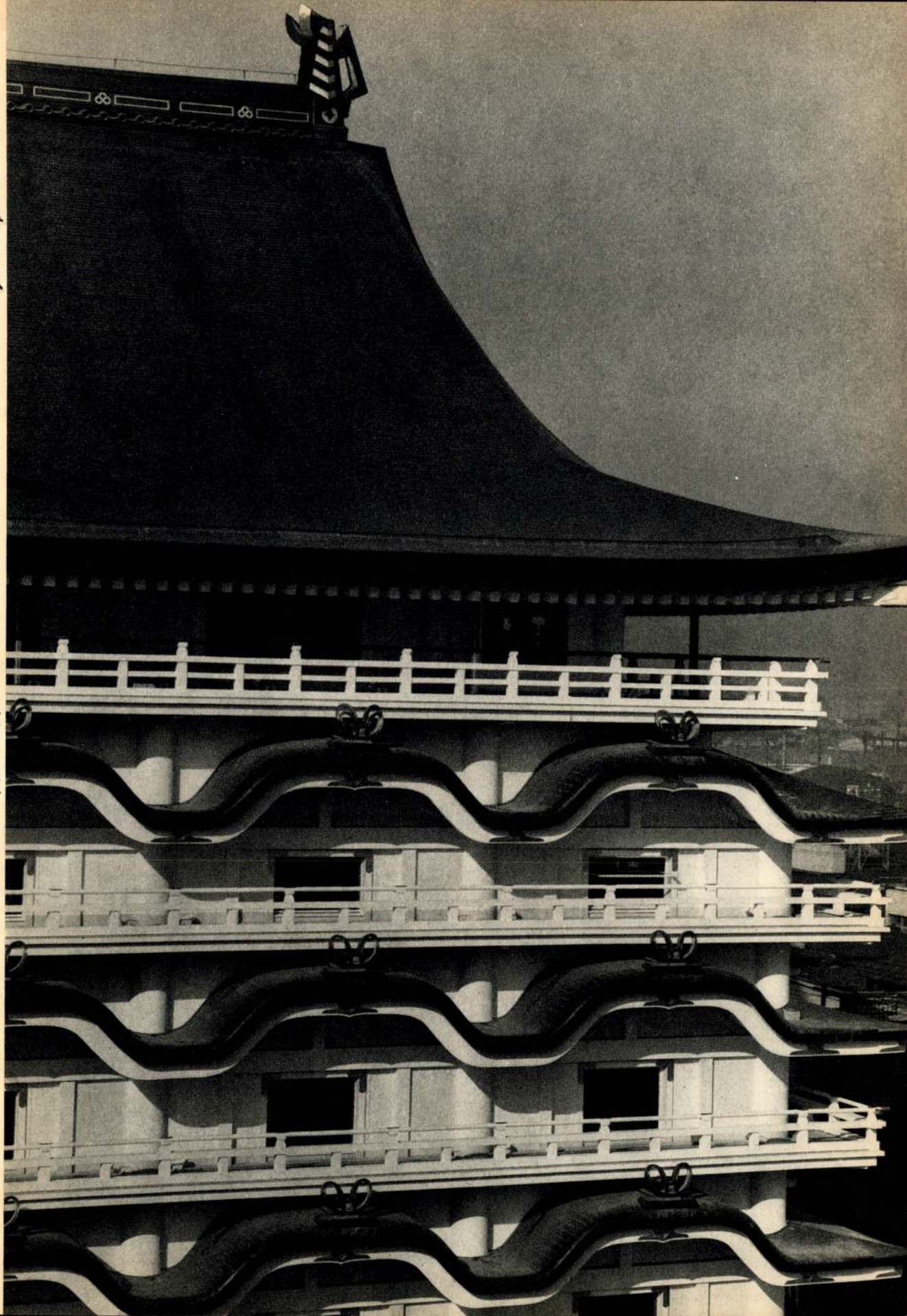
しかしサッシュや扉に対する目的的な要求は時代とともに大いに変遷するのか，随分いろいろなのがみられる。

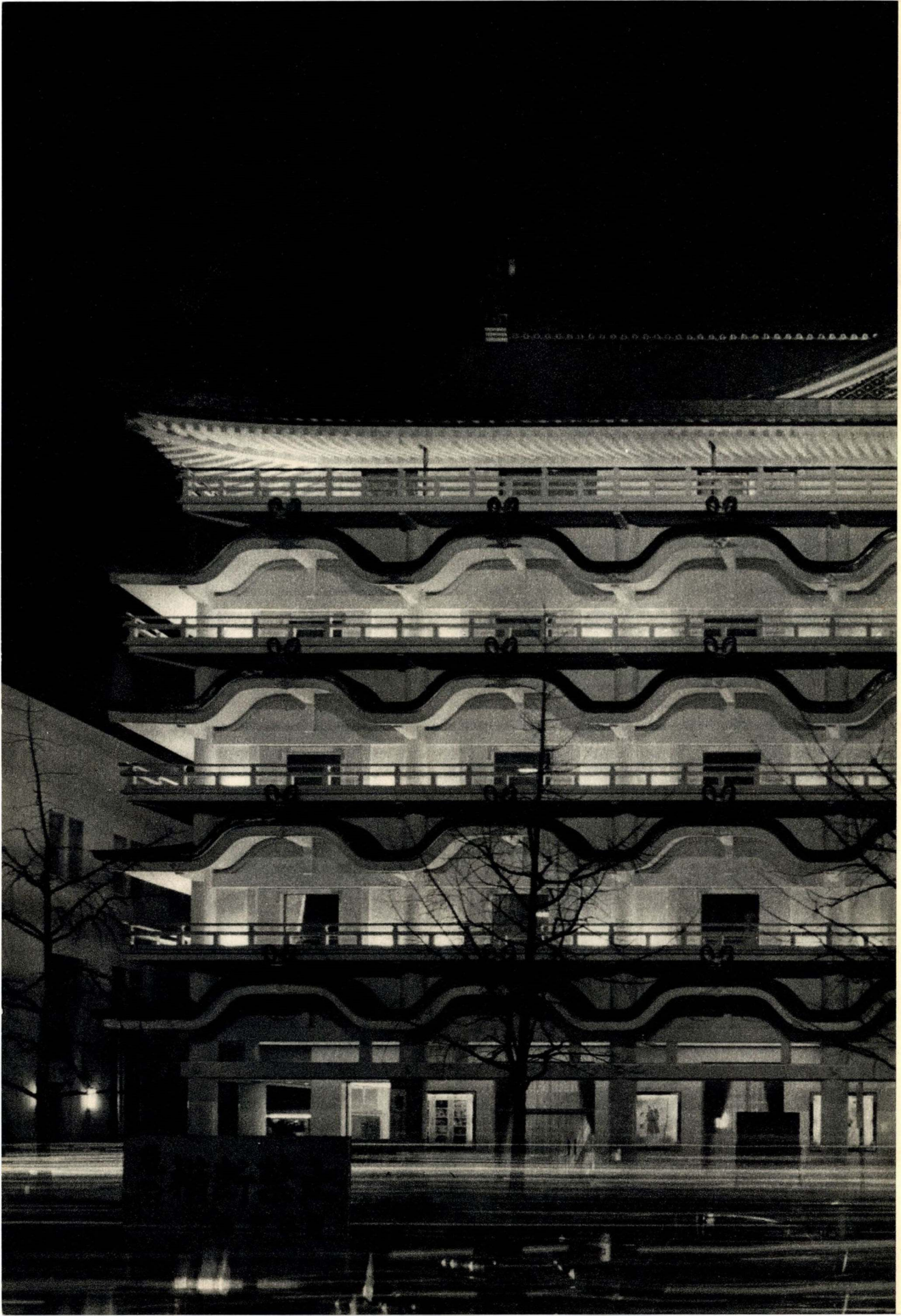
商業主義がサッシュや扉の従来のバランス—物理性，芸術性，合理性，用途性，経済性，等々—に新しい解釈を与えた事実は認めねばならぬ。否定してはいかぬ。

しかし商業主義は分化するに違いない。

いかにバランスがかわっても音楽と同じように建築にも"余韻"が懲しいものだ。芸術的なものだけでなく物理的な余韻も。

（TR）







大阪新歌舞伎座

御堂筋

設計：村野・森建築事務所

施工：株式会社　大林組

撮影：恒成一訓

大阪新歌舞伎座

大阪・御堂筋

設計者のことば　村野藤吾

千鳥破風や唐破風のある建物など、凡そ、吾々には異質のもの〻様に思われ、今まで設計する機会もありませんでしたが、やってみてそうでもないと思いました。

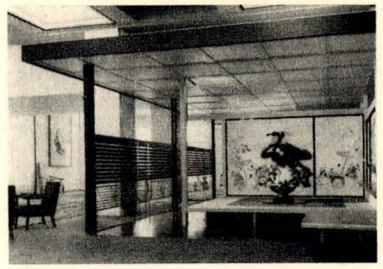
最初、松尾社長（千土地興業株式会社）は、桃山風のものをやって貰いたいと希望されました。社長の所謂桃山風とは、歌舞伎調の事だと思われ、名古屋城や二条城其の他の資料を参考にしましたが、あとは、古式や伝統によらず自由に構想しました。唐破風はどこかにモダーンなところがあり、その連続と大屋根との組合せと云ったところをこの建物の取扱いの重点にしたのです。勿論、大阪とか、関西とかと云った感情は、始終脳裏をはなれなかったことは当然です。

廻り舞台は歌舞伎につきもの〻様に思われていたのが、今度、松尾社長の英断によって、全部『セリ』に代えられ、僅かに小型の「ウワボン」一盆の様な軽い廻り舞台一をつける外は全部大小数個の「セリ」の作用で舞台効果をあげる仕組みに代えられることになったのです。これは、歌舞伎の舞台としては非常な変化をもたらしたことになり、その結果、「カキワリ」は単純になり、演出などにも変化がくるのではないかと思われます。社長の意見は、独り、舞台装置のことにとゞまらず、接客に対する心の配り方は勿論、家具や敷物の色に至るまで、吾々としては、凡て、未知の世界だけに、建物の隅々に至るまで滲透して、教えられるところが多く、いゝ勉強をしたと思って感謝しております。

鬼瓦は建物のアクセサリーの様なもので、昔から色々と工夫されておりますが、この劇場にも、異色ある鬼瓦をつけることになりました。京都美大教授辻晉堂氏の作であって、芝居の「暫（シバラク）」と「鷽（ウワナリ）」からヒントを得られたものです。新歌舞伎座のシンボルになること〻思います。場内には、是又、新制作協会員菊池隆志画伯の努力によって、桃山風の障壁画を以て、桝席のバックを飾ることに致しました。（竣工パンフレットより抜萃）



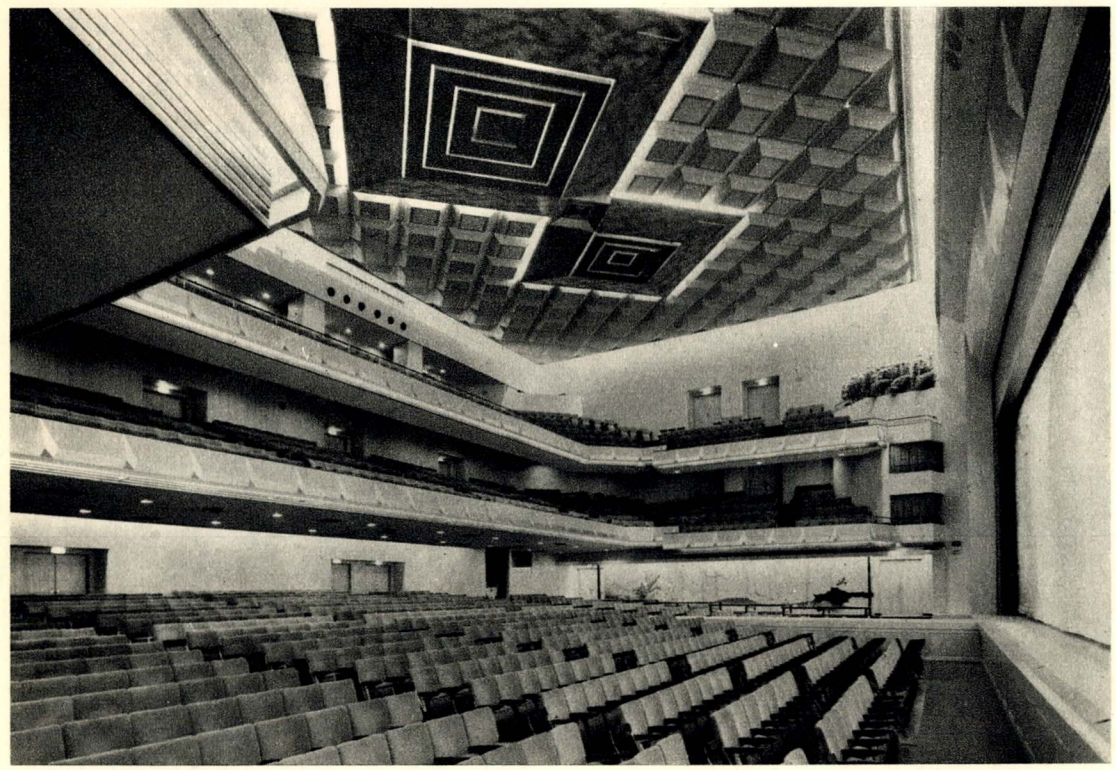
一階ホワイエ



茶席



階段室天井・手摺
エスカレータで2階へ昇る▶



客席

日本建築の源流雑考

村田治郎

まえがき

この表題（ただし最後の2字を除く）を編集者から頂いた私は，これは素人の出題に相違ない，専門家だったらこんな判つたようで判らない題目をつけるはずがなかろうと思つた。判らないというのは，まず日本建築とある点である。学問的にいつて日本建築という一つの型は考えにくい。たとえば奈良時代の仏寺建築は，型という概念から見れば，中国系の建築であつて，日本建築を代表する型というわけに行かない。鎌倉時代の円覚寺舎利殿とか室町時代の醐恩庵本堂のような禅宗建築の場合も，また同様であつて，日本建築という概念からは遠い。ちよつと考えると平安後期の建築，とくに神社建築とか寝殿造などは，いかにも日本建築といつてよい形のようである。かりにそれを採用するとして，表題を見るとその源流を述べよというのだから困る。源流という以上は，どこかに本家がなければならないが，そんな借り物が日本建築と呼ばれてよいものだろうか。寝殿造の屋根の凹曲線とか丹塗などは，確かに中国系建築の影響によるのだから，むしろそれらを除いた残りの部分こそ，まる裸の日本建築，正真正銘の日本建築というべきであろう。真の日本建築に源流などないと私はいいたいくらいである。強いて求めるとすれば，日本人の魂が源流ではないかとさえ私は思つている。

へ理くつはこれくらいにして，さて出題者のご好意を推察すれば，この場合の日本建築というのは，たぶん日本内で造られた建築というほどの軽い意味にすぎなかつたのであろう。そうだとすれば，その源流というのは外来文化を挙げよという意味になると思う。それで私は，結局この表題を「日本に伝来した国外の建築文化」「日本の建築に影響を与えた外来建築文化」というような題目にすりかえて記述することにした。もちろん国外文化は一度だけではなく，大昔から現在までたえることなく流れこんでいるので，日本建築というものの実体が時代時代で異るはずであり，記述は自然に時代順にせざるを得ないが，どの日本建築史でも説明している話をむしかえすのは気がきかないことで，私の性に合わない。そこであまり問題視されていないが，実は問題だというような点を走り書きして見よう。

先史時代の家

このごろの日本建築史では，先史時代の住居の復元図として，円錐形または隅丸の方錐形の上に，外ころびの切妻形をのせた屋根が，いきなり地上におかれた竪穴住居を想定している。私などが学生時代には，天地根元宮造という江戸時代の大工の伝えが引用されるのを常としたが，それにくらべて非常な成長ぶりである。しかし，この場合にも日本国中のすべての住居が，どこへいつても同じ形だという考え方が支配しているのは，はなはだ心もとない話である。現に江戸時代までの民家の形を見わたして見ても，それぞれ地方色があつて，屋根の形だけでも同一などといえないのは明らかである。まして江戸時代にくらべて交通不便だった先史時代に，長野県や関東地方の家が奈良県の家と同形ばかりだったなどと，考えようがないくらいのことは誰でも肯定できよう。

最近，石原憲治さんがこの点をついて，あんな大きな切妻屋根の煙ぬきがいたるところで使われたと考えるのはよくない，煙ぬきのない家が普通だったのではないかという趣旨を主張された（民俗建築23—24号）のは正しい。同じ意味のことは早く私もいつており（建築史研究・京都版1，昭和25年），そして渋谷泰彦さんが美作の津山における先史時代住宅の復元で，同地方の民家の屋根を参考にしたのであった。

日本民族は天降ったんだという人があったら，今日では気が狂ってるとしか批評されまい。ところが日本建築史のこの部分の考え方には，多分にそれがあるのを指摘したい。私は日本民族の原人は大陸から渡ってきたと考える。もちろん日本へ渡ってきてはじめて家を発明したのではなく，すでに大陸で経験した家をそのまま造ったに相違なかろう。そうすると大陸で見られる原始的な竪穴住居を，いままでまるで参照しなかった欠点が少しは判りそうなものである。

北海道のアイヌは早く日本化して駄目だが，千島アイヌや樺太アイヌが今年まで使っていた竪穴住居は，円錐形の泥屋根で煙ぬきはなかった。同様のものは19世紀末までシベリア東北部，とくにカムチャッカ半島やアリューシャン列島の原住民が用いていたし，アラスカをはじめ北アメリカ大陸のエスキモー族，北アメリカのインディアンの一部分なども使っていた。ただし円錐形屋根の頂上に孔をあけて，煙ぬき兼出入口にした場合はある。それは積雪の多い地方では横の出入口が塞がれて使えなくなるからであるが，その場合にも切妻屋根を加えた例はどこにもない。

これと同系で少し発達した家（四角プランで方錐形の屋根，低い壁）は朝鮮にもあるが，中国でも大昔は使ったものと見えて，揚子江以南の農村における氷庫が同系であって，以前新潟県下の雪倉がほとんどそっくり同じであったのも興味ふかい。以上のような諸例を見わたして，私は先史時代の竪穴住居の最初の型は，たぶん円錐形系であったものと推定している。そしてそれは，かなり永く続いたはずであって，ところによっては現在のわらぶき民家の屋根に反映していると思う。東北地方や北陸地方の民家の屋根は，ほぼ寄せ棟に近いものが普通で

あって，切妻を大きくつける例はむしろ少ない。同じことは渋谷さんが岡山県下などの民家について述べている。保守的な農民生活だから，それをもって遠古からの流れと見ても大過なさそうに考えざるをえない。

私が大陸の竪穴の諸例をもち出して，上のような説を述べたのに対して，村田説はおもしろいが限界があるとケチをつけた人がある。限界のない学説などというものはまれにしかないもので，ケチをつけたご当人の学説だって限界がないなど，口はばったいことはいえまい。限界があることくらい知らない私ではない。しかし先史時代の日本原住居を考えるときにだけは，私の考え方を無視する説は，最初いった天降り的だと非難せざるをえない。私の説はどこまでも起原にからむものであり，それが永く尾をひくことを主張するだけである。

円錐形などの上に切妻をのせた屋根の形は，円錐形系と切妻系との2種の複合である。複合は切妻系が日本へ伝来して後に，日本で成立したものであって，その時期は先史時代のうちのよほど後であろうと私は思っている。いきなり私のいわゆる複合形が現われたというような考え方が，日本建築史のどの本にも十分吟味をしないで述べてあるのは，起原という問題をまるで考えない誤説としかいえまい。

原史時代の家

高塚時代ころの住居になると，円錐形系の上に切妻ののる屋根，つまり入母屋屋根形の家が少なくとも近畿地方で行なわれていたことは，証拠もあることだから，認めてよい説である。ただし，その場合にもその型しかなかったかのように強く主張する説に，私は同調できかねること先述のとおりであり，むしろ円錐形系の種々な小変化を考えに入れなければなるまいと思う。この時代に日本的な建築性格の基礎が形成されたらしく，それに対しては続々と大陸から建築文化が流入して影響を与えたかと推察するが，その具体的説明は容易でない。とにかく竪穴住居のほかに壁，基壇，ベランダー，2階建てに近いものまで備わった，佐味田古墳から出た鏡に見るような建築に達したのは，一切当時の日本人の独創に基くというよりも，先進文化を摂取したと考える方が合理的だろうと思う。校倉風のものは埴輪（はにわ）に少しも現われない点から考えて，伝来は意外におそいのだろう。雄略天皇の泊瀬朝倉の宮の朝倉が校倉から発した名称だという説は，どうもいささか強弁にすぎる感じがするけれども（故・足立康さんは朝倉は地名で校倉と無関係だと主張したが，朝倉という地名の起原が校倉をはじめて建てて異常であったのに基くかも知れない，これまでも否定するのは容易でないので）案外，校倉は雄略ころに伝来したかも知れないとも想像する。いうまでもなく，校倉は早くから南朝鮮で用いていたし，現在なお日本に一番近い慶尚道の山中にあるのだから，それが伝来したことは十分ありうると思う。

大和朝廷の武力が何時，どうして伸びたのか不明であるけれども，朝鮮半島南端の任那（みまな）が4，5世紀ころ日本の領土であったことは事実である。任那地方は未開発であって，中国文化を最もおそく採り入れた土地であるけれども，日本民族は任那を中継地として，半島でもっとも高度だった平壌の文化を吸収しようとした。平壌というところは前漢の武帝が楽浪郡治をおいて以来，何世紀間も中国文化のもっとも有力な植民都市であったから，低文化の近隣民族のあこがれの的であって，のちに高句麗が占領して，ついに首都としたのも当然である。平壌にはもちろん早くから中国系の建築が現われたことは漢式の瓦が発見されるのでも判る。京大考古学教室の人達が発掘した伊賀の古墳から，斗束の形が線刻された家形埴輪の断片を発見したことは，まだ正式な学術報告書が出ないけれども，非常に興味ある問題を呈供したものといってよい。埴輪の年代は5世紀ころらしいが，それでも飛鳥時代をかなりさかのぼる。すなわち中国系の建築文化さえ早く伝来していたらしいのであって，それはもちろん朝鮮半島から伝えられたものと，一応認定して大過なかろうと思う。

そうして見ると，雄略天皇のとき楼閣をたてたという「日本書紀」の記事なども，外来文化の現われを示すものかと思う。それにしても，まだ瓦が造られなかったことを思えば，中国系の文化といっても，ほんの一小部分の模倣にとどまり，かなり縁遠いとさえいいたいくらいのものだったのだろう。私は日本建築史を扱う場合に，飛鳥時代の仏寺に用いた中国系建築に対立するものとしてそれ以前の建築を日本固有の系統と名づけることにしている。つまり，この時代の建築を一括して固有建築というのであるから，多くの点で大陸文化を受け入れたと主張する自説と，はなはだしい前後矛盾であるけれども，固有としたのはほかによい文字が考え出せない結果にすぎないのと，この時代における中国系建築はまだその特色を形成するまでの域に達せず，むしろ大陸建築の諸要素が日本建築の形成の資料になったというような考え方をとるならば，あえて固有といってもそれほど強くとがめ立てしなくてよいのではないかとも思うからである。

飛鳥時代の諸問題

日本建築史を私は，固有系と中国系との2様式の対立と融合との歴史として扱うことにしている。そしてその中国系の出現を，どの建築史家も採用しておられるように飛鳥時代におくことに，私も異議はないけれども，しかし飛鳥時代の開始期を欽明天皇のときの仏教伝来とするのには反対したい。日本の仏寺でほんとうに中国系建築を採用しはじめたのは，6世紀の最後ちかく，580よ

りも後のことである。「日本書紀」の安閑，宣化，欽明紀には錯簡があるとして，仏教伝来を欽明7年（538）と是正した平子鐸嶺説，またはそれに近い説が今日では一般にとられているが，それとても「日本書紀」を中心とした一つの伝説的記事にとどまり，確証のある話とは私には考えられない。もっとも怪しいのは538年であって，それでは百済へ仏教が入った年代とほとんど同時ということになり，百済では仏教の功徳を十分理解しないうちに，たちまち日本へ流したことになる。さらに「日本書紀」では欽明13年と同時に敏達13年にも，よく似た記事を掲げており，どうも欽明のときにばかり限定できかねるように思う。そんな次第で仏教伝来の時期がすでに不確定であるばかりか，仏寺に中国系が容易に入らなかったとすれば，仏教伝来期をもって飛鳥時代の開始とすること自体が不自然になるのはいうまでもない。建築史としてはどこまでも，建築の動きが中心になるのは当然である。したがって私は飛鳥時代を6世紀末からの開始とし，その終結を白鳳末期まで持って行こうと思うが話が長くなるから終結については議論しないでおく。

近年，飛鳥寺址が発掘されて伽藍配置に新例が加えられたのは，建築史の研究の上に大きな収獲だったが，同時にそれが百済（くだら）の遺跡に見ず，平壌附近の高句麗（こうくり）の寺址にのみ先例がある点が問題になってきた。飛鳥時代の古瓦に高句麗系のあることは，早く私が指摘し，その後にさらに詳細な記述がほかの学者達によって発表されているので，別に不思議はないようであるが，しかし奈良の興福寺とか海竜王寺など少数の例しかない中金堂・東西両金堂の伽藍配置が，飛鳥寺にさかのぼることによって，同時代の高句麗に結びつくところに価値がある。そして，日本であまり流行しなかったゆえんも，百済系でなかった点にあるかもしれない。

ここで日本の学者が，案外見のがしている点を一つ指摘しておこう。それは高句麗のような東西金堂をもつ配置は，中国の宮殿，諸宗教建築はもちろん住宅にいたるまで，もっとも一般的で基本ともいうべきものであるのに反し，百済系ともいうべき四天王寺式の配置は，中国の宮殿のうちの一部分に見る程度で，中国の住宅ではむしろ略式とされているに過ぎない点である。それにもかかわらず，百済ではなぜ，略式ともいうべき配置ばかり用いたのか，むしろ東西金堂のある配置があってしかるべきなのになぜないのか，という疑問が今後の研究課題になってくる。あるいは中金堂ばかりの配置こそ西域から中国へ伝来した本質的なプランであって，東西金堂を加えるのは中国的プランの影響だといえるかとも思うしあるいは百済的配置は中国の南朝系，高句麗の配置は北朝系という仮説が立てられるかもしれないが，ここでは深く論じないでおこう。

法隆寺の金堂・五重塔・中門の様式の源流について，故・関野貞先生が百済からさらに中国南朝にさかのぼるという仮説を出されたのは，北朝の文物にばかり目を注いでいた学界にとって，大変な驚異であって影響はいまなお続いているが，残念ながら南朝の建築様式そのものが不明なので，仮説の実証ができかねる。私はそんなふうに単一様式と見ないで，むしろ種々な時代の，種々な様式が混合したものであり，その混合は法隆寺で行なわれたのがあると同時に，朝鮮でも行なわれたと推定している（拙稿，宝雲36号）。具体的にいえば，雲形斗栱の系統は1～2世紀の後漢ころの様式，皿斗は5世紀後半～6世紀前半の北魏系様式，曲線的な割り束は6世紀後半～8世紀の北斉～唐の様式である。このうち最後にあげた割り束は朝鮮から伝わったか否か明らかでなく，中国の随唐様式の直接的伝来かもしれない。問題は雲形斗栱であり，そんな古い時代の様式が，どこで生き残っていたのか，どんな経路で伝来したのか判らないのだが，平壌附近の墓から四川省製の漢代の漆器が発掘されること，雲形斗栱系のものは四川省の後漢時代（1～2世紀）の墓の石闕，磨崖墓にだけ見出せることを考えれば，楽浪文化でも雲形斗栱が存在したらしく想像され，4世紀はじめ高句麗が楽浪郡を征服したとき，楽浪郡の少なからざる中国人が南の旧真番郡へ逃避し，その中国文化が基になって百済が成立したようなものだから，それであるいは雲形斗栱のような古式がまず楽浪に伝わり、のち百済に残存していたとすれば，この難問題がすらすらと解けるわけだが，残念ながらこれも仮説の域を一歩も出ない。

白鳳様式序説

不用意に法隆寺様式を説きはじめてしまったが，私は法隆寺再建説をとる者であるから，いまの金堂以下の建築を670～710，すなわち白鳳末期におく。したがってその様式は白鳳様式といわなければならないが，私の考えでは白鳳様式に2系統あって，法隆寺様式は旧派に属し，旧派はいわゆる飛鳥様式の伝統を保守していたとする。それで，法隆寺様式の諸要素のうちの少なからぬものが，飛鳥様式系と認めるわけである。白鳳様式の源流は，

中国南北朝→高句麗・百済→飛鳥様式→白鳳旧派
　　↘　　↘
　　中国隋唐……→白鳳新派

白鳳時代にも都はあらまし飛鳥地方を中心としていたので，一般の日本史では白鳳時代を飛鳥時代のうちに入れている。建築史の場合もそれにしたがっておきたいが様式の変化を重視すると二つに区分した方が都合がよいので，私は従来の飛鳥を飛鳥前期，白鳳を飛鳥後期と名づけたい。もはや与えられた頁が尽きたので，飛鳥後期以後の話は次の機会にゆずろう。（東京の旅館にて）

（筆者　京都大学名誉教授）

座　談　会

日本の現代建築の形成過程をめぐって

植民地建築から出発――明治初期――
創造性の薄い折衷様式――明治後期――
活発だった大正時代
分離派――個性の発端
構造派を抬頭させた関東大震災
日本のデザインを変える外国雑誌
合理主義――沈黙のデザイン
日本的なものの動きは自動か他動か
日本人は幸福な便宜折衷屋
現代の課題――
モニュメンタル
デラツクスかアッといわす
新しい空間

2月18日（火）午後3時～6時　於　北浜北水
出席者（順不同・敬称略）

笹川季男（大成建設）
白石博三（京都工芸繊維大学）
西山卯三（京都大学）
光安義光（兵庫県庁）
鳥田家弘（神戸大学）――編集側
足立孝（大阪大学）――〃

この座談会に対する反論なり批判なりのご意見をお寄せ下さい。

鳥田　本日は皆様お忙しいところをお集まり下さいましてどうも。実は四月のデザイン特集号のアンケートで，現在活躍されている中堅作家に，考え方や作品の上での転機をうかがっているのですが，それと併せて，今日の座談会では日本の近代建築の形成過程を振り返った上で，現在や今後の方向を探る手掛りを自由に話していただければ幸いなのですが……。まづ明治のはじめからの建築界の動きが，いまから見ると，どういう意味を持っているだろうかというところからはじめていただきましょうか。

植民地建築から出発——明治初期——

足立　最初の区切りは，明治元年から明治20年位まで，その間は大体外人ばかりがやっていた時代で，外国技術をそのまま持ってきていた。それ以後になると，日本人が自分でやり出したので，大体明治20年頃が一つの転換点だと思うのですが。

（一同）そうですね。

足立　活躍した外人は一国とは限らぬのですが，まづ英国系が主な流れではありませんか。

白石　そういう建築家をどういうふうにして日本へ呼んできたのでしょうね。どういう人をどういう招き方で呼んだかがまづ問題だと思うんですが……。あの有名なムテジウスも，向うの文献を見ると，日本政府のお傭い建築家として，日本にやってきたようなのですが，その状況がこちらでは全然分らないんですよ。

鳥田　エンデかベツクマンだったか，本国で日本建築の紹介記事を書いていますね。しかし招請した人事の状況はよく分らない。建築としては，地中海沿岸から印度などの植民地建築のスタイルが日本にたどりついたというふうに思えるんですが……。日本人が学び出してから本格的なものがはじまる。

足立　とにかく世は文明開化で，西欧のものをどんどん吸収した。これは日本人の特性でもあり，日本の文化現象の一般ですが，その吸収の方向に，何か一つの主流があったかどうか，私はとくにあったように思えないのですが。

白石　はじめは吹き放しが前面にある熱帯風的な木造ですね。

笹川　日本で植民地的な形でとっつきやすいのは，まづ木造で建築材料的な考えからいうなら木材からはじまって煉瓦・石，それからコンクリートと次々に発展してくるわけですね。そこで近代建築の様式の変遷を決定するのは材料からくる要素が強く，様式より前に材料的制約を検討する必要があるのじゃないだろうか。様式論だけでは一律にいえないのが近代性じゃないのだろうか。

鳥田　材料の発言が優先するという考えは確かにそうだが，当時はどうですかね。もっとも，大工・左官と一緒に新材料の吸収は大事な研究対象だったし，そういう本も沢山でている。しかし材料と様式のからみ合いまではっきりしてはいないでしょう。だからイギリスふうなどという妙なことになった。

ところで，ちょっと話が変りますが，良きを取り悪しきを捨てるという明治の折衷時代が，外国の折衷主義とちょうど一致していたということ，つまり日本が広く眼を開く近代化のはじめに外国の歴史をへんぱなしに眺められたということ，これは幸いだったといえませんか？

足立　いまはマスコミの力で向うの先端的なものが入ってくるが，当時は来日した外人を通してだから，その個人的なものが中心になっていたでしょう。

西山　だからといって，二級品がもちこまれたとはいえますまい。ウオートルスの造幣寮や泉布観などを見ても，個性的というより向うのちゃんとしたものを持ってきている。流れはいろいろあるでしょうが，ちゃちじゃないですよ。

足立　そのことで，この前，滝沢先生が東大に招いたコンドル先生はちゃんとした本格的なものを持っておられた方で，その点日本の建築界には幸いだった，といっておられた。その意味で個人を通じては入ってきた。



鳥田家弘氏　　足立　孝氏　　西山卯三氏

光安　当時は欧米に大きく目を向けていたので，熱帯を通った植民地建築が日本にやってきたのではなく，欧米の様式と政府の威厳を示すこととが，あり方が似ていて，それで採用されてきたのじゃないですか？

足立　明治政府はまだ国家の意識より，人心の一新と把握がまづ第一だった。それで日本の過去と違うものを求めた。現在アフリカの建築に目新しいものができるのと似ている。

鳥田　当時の欧米の吸収の仕方と，現在のとを比べたら？

足立　やはりマスコミの関係で，振巾は激しいけれども冷静にみると現在の方が本格的なものを識別しやすくなっているといえるんじゃないでしょうか。

鳥田　だけど当時の方が混乱がなく，スムーズだったともいえるでしょう。

創造性の薄い折衷様式——明治後期——

足立　一般的にいうと，やはり外人がやっていたころより，日本人が外国から学んで帰ってきてから日本での本物がはじまったといっていいんじゃないか。その学んできてから作ったものに，はっきりした様式の意識があったんでしょうか？

鳥田　辰野金吾さんは，はじめゴシック派に学びながら，次は日本銀行が代表作ですね。特定の意識はなかった。

白石　あれは全くバンク・オブ・イングランドの模倣ですよ。実によく似ている。銀行というシステム自身向うのものそっくりそのままで，内容も器もそのままを持ってきた。

鳥田　課題によってスタイルを選ぶ。それは外国でも当時そうだった。

白石　ヨーロッパの学校は僧院から発達してきたでしょう。ですからそのスタイルはゴシックを使う。銀行は



白石博三氏　　笹川季男氏

ルネサンスというふうにね。そういうきまりもそのまま持ってきた。

鳥田　そういういろんな様式を当時は同じ地盤で見てこられたのですが，もう一歩突き進んだ次句としてエクレクティシズムを考えて持ってきたのでしょうか？

笹川　スタイルを選ぶという以上の論議はなく，銀行はこれだ，ときまっていて，様式の根拠もなく，そっくり素直にうけ入れていた。

白石　外国におけるように，様式の変遷に立ってエクレクティシズムを考えるのではなくて，あの当時はすべての様式が一緒に入っていたので，様式に対するシビヤな考えはなかったんだと思う。

鳥田　京大の井島さんがこの間，日本の洋画は外国の珍らしいものに感心して，適当に取捨選択したのであって，美術史上の必然性はなかった，といっておられた。当時の建築も単純に，これはいいといって受け入れたのでしょうね。ただああいう時期だから日本人が行っても狭い見解でなく，広く見渡せたのが日本の国際的視野には幸いだった。

西山　もう明治も後期になると，はっきりとスタイルが決ってしまっていましたね。

笹川　分離派の時代に入る前に，クラシックなスタイルを十分に突っ込んで消化しようとした時代があったと思うが。たとえば佐藤功一さんはルネサンスを，長谷部さんはロマネスクをよく勉強しておられたように，様式を模索していた時代があったはずだ。

鳥田　2，30年間そういう外国のものをそしゃくして自分の趣味に合わせたものをずっとやっていた。本当の折衷主義だ。

足立　そのあたりに建築非芸術論がでる伏線がでてくる。

笹川　とにかく木割を勉強するように，装飾法のきまりを自分のものにしようとして，ディテールを研究していたということでしょう。

白石　欧米でも新しい様式を創り出そうと努力したのは非常に近代だし，日本では昔から自分で形を創り出したということは少ない。天竺様・唐様・その他すべて輸入が契機となっている。新様式を創ろうという意欲はなかったといえるでしょう。

（一同）そうですね。

西山　武田さんがアールヌーボーをもちこまれたのもそうした動きのつづきでしょう。明治43年に議事堂の建築計画を機会に日本様式を創り出そうと観念的に努力しましたが，新しいものはでてきませんでしたね。

光安　それは国策に結びついたんじゃないんでしょうか？

足立　明治はじめは民衆であり，それが国民という言葉になったのは明治30年頃からで，そこに新様式への気運がでてくるのだが，しかし新しいものは生まれなかった。そのころに進化論が思想として輸入されたが，伊東忠太さんの建築進化論はどうなんですか？

西山　伊東さんは日本の古建築をずっとやっておられて，南方や印度などを見てこられ，そのつながり方に生物の進化論と同じような結論を出されたのでしょう。

笹川　私はその造形的様式が建築の歴史を決定付けたばかりでなく，やはりそれを裏付ける根本的な要素に，火災や地震に対する方策がすでにあったんじゃないかと思ってるんですがね。

白石　関東大震災までは，まだ日本では耐火性や耐震性の認識は薄いんじゃないかと思うんですが，そういう材料や構造や都市への意識よりも，洋風にしようという意識の方が強かったんじゃないかと思う。

西山　明治5年の銀座の大火とか，明治24年の濃美大地震などが明治時代にありますが，濃美などは学会でも調査をやっていますが，はっきり結論も出しておらず，部分的で，あまり発展していないようです。やはり日本

では笹川さんのいわれるようなことは，関東大震災以来でしょうね。

白石　明治時代は江戸時代からの続きで，近代的な防火はまだなくて，火よけや消火の段階でしょうね。

足立　明治時代の住宅の傾向は，西山さんどうだったんですか？　新しい方向の芽生えは？

西山　明治時代の住宅の新しい動き・洋風住宅は，明治20～30年代で，洋館は主に接客構えとして，それを中流住宅に入れようと，明治32年に和洋折衷住宅論が出てきました。このころまでは構造や材料から様式の問題だった。プランニングの上での新しい傾向はもっと遅れ，大正時代になって，中廊下式がはっきりとしてきます。この中廊下は，はじめは接客と家族部分を分離する方法としてでてきていますが，やがて私生活の確立，プライバシーの意識の方向にすすみます。

活発だった大正時代

足立　ぼつぼつ大正時代に入っていただきましようか。当時は何かを求めて活発だったのですが，大正時代は住宅関係にまで新しい時代の波が滲透してきてますね。

西山　確かに住宅問題が活発になり出しましたね。

鳥田　市街地建築物法や都市計画法も大正時代にできましたね。本格的に建築の内容をこの時代になると問題にしだしたんで，建築の内容の巾が広くなりましたね。

白石　欧州大戦で日本も近代国家の仲間入りができたという気分も影響してますよ。景気もよくなりましたし。

光安　建築の最初の卒業生が，このころになると三十代の活動期に入ったということが第一じゃないですか。

鳥田　このころになると，外国を模倣しながらも，自分の足で立って考え出して行けたんですね。二世も出るころですしね。

足立　第二のジエネレーションの時代で材料や構造も一応消化してきている。ここでまづ分離派をあげねばなりませんね。

分離派――個性の発端――

足立　私は分離派は理想主義的な芸術意識が中心だったと思ってるんですが，日本でイデーを持った旗じるしをかかげた最初の人達でしょうね。

白石　私は分離派は日本の建築家の個人主義のはじまりのような気がする。それまではデザインはディテールにあって，大きなスタイルの枠の中で考えていたが，ここで自由に個性を打ち出したんだ。

鳥田　つまり職人意識から離れて，独立した人格を建築家として考えはじめた。

白石　しかし欧州のセセッションと違って，分離派のいきさつはもとは伊東忠太さんから刺戟されたようですね。

足立　分離派の運動も，大正4年に出た野田さんの建築非芸術論等があったから，様式を打破するという点で抵抗への地均しができていて，様式否定がやりやすかったと，森田，滝沢両先生の対談（本誌昭和33年3月号所載）で語っておられました。けっしてわれわれがはじめからやったのではないと謙遜されておられましたが。私は白樺派と分離派の人々の歩み方がよく似ているように思え，その時それについて質問したんですが，われわれにはそんな意識はなかったが，先頭に立っていた堀口捨巳さんにはそのような傾向はあったようだといっておられた。分離派として運動はしたが，いまのようなグループ活動ではなく，各人それぞれの個性を成長させてこられたところに学ぶべきものがあると思うのです。

白石　いまから見ると，多分に観念的で一つ前の唯美主義運動ともいえますね。

足立　大正時代の文化主義の流れの中のやはり時代の



足立　孝氏　　西山卯三氏

子で，その時代の限界といってよいのでは……。

白石　一種のデイレッタンテイズムですかね。

足立　分離派はほかの社会まで通用するという巾の広いものではなく，同一階層の中でのみ通用するものだった。

白石　当時の建築家自身エリート意識の上に立っていた。

笹川　分離派運動には社会的なものの考え方の素地はなかったんでしょうか？

西山　分離派はまだ建築実現の社会的な面にまで行かず，自分自分の個々の良心の中に本質的なものがあるとしていたんじゃないですかね。

足立　日本の建築家に社会的な意識が出てくるのはいつごろからでしょうかね。

笹川　私は分離派にもう社会的なものの芽があったんじゃないかと想像してるんですがね。

西山　その社会的な意識がはっきりするのは，創宇社あたりからでしょうね。創宇社は分離派の連鎖反応みた

いなもので，同じ流れを汲んでいますが，もう一つ若い層で，このあたりから建物のテーマや課題自体が社会的なものをとりあげています。インターナショナル建築会となると，ずっと実利主義的，合理主義的になってきます。

白石　西欧の近代建築は多分に社会主義の方向で，エリート意識を除こうという傾向が強かったですけどね。

西山　分離派はやはり一つの芸術運動で，社会的な方向を打ち出したのは創宇社あたりからだと思います。

足立　時代的にはマルキシズムが流行し，ストも活発だったが，分離派は遊ったところに立っていますね。

西山　分離派はやっぱりロマンチックですよ。深刻さがない。

構造派を抬頭させた関東大震災

足立　関東大震災が社会的なものの意識にも一つのモーメントになったんじゃないでしょうか。とにかく大正12年9月1日に起った関東大震災が日本の建築界を大き



光安義光氏　　白石博三氏

く転換させましたね。

西山　これは歴史的ですね。日本の建築界で構造が重要なファクターとしてのし上ってくる契機となっている。

白石　これまでは建築の形が中心だったが，ここから構造派が俄然勢いを持ってきた。以後の日本の建築に構造派が広く強く出てくるチャンスとなった。そしてこれがある意味では日本を近代化するのに大きな役割を果したといえる。

足立　建築で構造とデザインの分岐点となった。

西山　ここで芸術的な動きが薄れ，与えられたものを忠実に解決するという技術的なものが中心になり，もとどおりのおかかえ大工的なものが主要な流れを占めるようになった。社会に対して建築家として独自の発言をすることがうすれてきた。分離派も地震で消えちゃった。

白石　しかし建築の芸術意識は減ったが，それを表面から引っ込めたのは意味がある。というのは後に近代化にあっさり乗り移れる素地がそこでつくられたから。

鳥田　そういう点はあるでしょうね。耐震・耐火，科学技術的なものをモラルとして，そういう合理性を通してないと，デザインなどとはいえないという気持だ。

足立　そういう点では日本人というのは，何事によらず頑固さが少い，非常にプラグマチックな面がある。

西山　そういう性格はプラスとマイナスの両面がありましたね。

日本のデザインを変える外国雑誌

足立　話しは変りますが，ライトがやってきたのも，大正ですね。

笹川　ライトの弟子の遠藤新さんは，ライトそっくりの作風を残して，他と離れて建築の社会性をとなえながら，孤立していた。人間としても個性の強い人だった。

足立　ロマンチックな，初期の社会主義的思想がうかがえてライトの孤立と同じですね。というより日本におけるライト，全くライトそのものですよ。頑固な人の一人ですね。

鳥田　孤高の予言者……。

笹川　個人的に，ライトと遠藤は，コルビュジェと日本のだれそれといえるように，作品も人柄もそっくりですね。

白石　日本というと，訪ねた外人ばかりでなく，当時入っていた外国雑誌の影響もずい分強かっただろうと思うのですが。

笹川　House & Garden はずい分古くから入っていましたよ。ほかにも英国系のものが古いんじゃないですか？

鳥田　そう，そのころの英誌はおとなしい記事が多かったですね。

白石　そこへドイツ系のものが入ってきた。それとともに英国系からドイツ型に日本の建築が変ってきている。

西山　私達の学生時代はもっぱら「モデバウ」(Moderne Bauformen) だった。

鳥田　それからバウハウス叢書だ。

足立　バウハウスの主張から日本インターナショナル建築会が生まれたのは周知のとおりですが，自然に解消しちゃった。

鳥田　解消したというよりも，一般にディストリビュートしちゃったんじゃないですか？　一般に当然のこととして常識になってうけとられてしまったという感じだ。

合理主義——沈黙のデザイン——

足立　もう昭和時代に話しが入っちゃっているんですが，このころになると，皆さんは建築の道を歩まれていますし，これからは問題点をあげながら進めていただき

ましょう。

鳥田　技術的な問題で，乾式構造がやられはじめたのは，昭和のはじめでしょう？

西山　そう，市浦健さんの大崎の自邸がはじめでしょう。

笹川　トロッケンですね。構成教育主張の川喜多さんも盛んにやっておられた。

西山　材料や雨じまいなどの点で，2，3年で途絶えちゃった。

光安　しかし日本の風土に合うように，換気や湿度にも大きな関心を示していたのでしょう。

鳥田　そのころは，いまのようなモデュールや生産寸法という考えはあったんでしょうか？

西山　建築を工業化するということで，工場の生産材を使おうというのだが，日本の在来のタタミ割を再認識する程度でモデュールまでは行かなかった。

白石　合理主義をつきつめて，芸術意識を排除しようとして工業的なものをねらったが，コルビュジェのリリシズムまでは理解し得ず，非常に合理主義的に理解していた。

西山　しかし形はどうでもよかったのではなく，形を単純化することの中に形はやはり考えていたでしょう。いままでの装飾を否定した無装飾主義で，すっきりした形を作ったんだが，デザインということは表には出していわなかった。

白石　甘いものを除こうと意識してやったんだ。

笹川　美しさや造形は追求したかもしれぬが，甘い装飾や造形を否定しちゃって，機能主義的なものを強調した。

白石　ここでは従来の造形意識を排除し，人情やセンチメントを無視して振り捨てた。造形性を意識する人ほど造形性を否定して，構造屋さんなんかが自由にデザインを考えていましたね。

鳥田　デザインはやったが，デザインの奥にあるものは捨てちゃっている。向うではキュービズムからスムーズにそういう抽象的な形がきているでしょう。日本でうけ入れた時はもっとシンプルに技術的なものとしてうけ入れている。もっともわれわれの学生のころは，合理性からじゃなく，明快なすきっとした形が好きで模倣していた。

白石　その合理的な形は，日本では装飾とともに色までも排除している。あの白い壁は外国雑誌の黒白写真の影響も大きいんじゃないでしょうか。当時は色刷りの写真なんかなかったでしょうし，白っぽく写っている壁はこちらでは真白になって，色がなくなっちゃったんだ。

（一同笑い）そういうこともありましようね。

笹川　別の話しになりますが，そのころは住宅の生活様式も変えようとしていた時代ですね。

鳥田　あのころは，たたみ排撃も強かったですね。

白石　これも合理主義的追求ですね。生活改善の努力なんでしようが，このころはあまりいいませんね。

鳥田　震災以来，技術的な問題が中心になり，デザインはその合理性を追求したというモラルを通じてでなければ行かれないというふうになっていた。

足立　機能だ，合理だとかんかちになって，せっせと日本人は四角い箱を作っていたんだ。ところが戦後，ロンシャンの教会みたいな自由なものを見て，ああああんな自由があったんだなと愕然としちゃった，というのが日本の状態だ。自由はあったんだが，自由に行動したり発言し得なかったんだ。

（一同笑い）

白石　当時の日本の建築家は，技術的な制約を強くうけて，あまり自由にはできず，フラットな単純な形になっちゃったんだ，とはいえませんか？

鳥田　こういうこともいえるんじゃないかと思うんですが。ヨーロッパでは近代の様式を新しいスペースを創



近代建築史年表（島田勝次編）を見て話を進めている座談会

り出すデザインとして追求したが，日本で考えれば，それは古くから非常に親しく馴れ切っているものに近い。そこで，デザインを強く唱えず，技術的モラルに傾いた。日本と外国とではどうも同じものでも多少フェーズが違う。コンポジションも技術的な理由をつけないととおらなかったし，内容主義が外国よりもっと単純にとおった一つの理由がその辺にもあるんじゃないか。

日本的なものの動きは自動か他動か

足立　昭和時代に入ると，軍人会館とか帝室博物館の日本様式の古典的な，記念性のあるものが出てきますし日本再発見も生まれる。

白石　その日本様式というのは，政府に押されて出てきた国粋主義からきているのでしょう。日本とドイツに顕著ですね。

西山　その日本再発見と，コンクリートに瓦屋根式の軍人会館や帝室博物館とは，質的には違ったものでしょう。日本再発見はタウトが機縁になっているが，近代建

築の流れの展開ですね。軍人会館あたりはまだ折衷主義とつながっている。

鳥田　丹下健三さんあたりの日泰文化会館や大東亜記念計画のコンペ入選案なんかはどうなんでしようね。前のとはまた変っている。

西山　昭和17年ごろからのは，昭和初期の国粋の動きとは少し系統がちがっている。

足立　それはまた，戦後の日本的なものにつながる？

西山　若干断層はあるが，そうですね。

白石　私は戦前の日本様式はどうも建築そのものとは別なところから出発していると思う。それをどうせ強制されるものなら納得のいくものにしようとしたんだ。国粋主義と合理主義の妥協なんだ。戦後とはやはり大きな断層がある。日本主義と合理主義の結びつけにちょうど都合よくタウトがきたんだ。

西山　いや結局，軍人会館や帝室博物館はまだ前時代的なんだ。博物館のコンペでは，そのアンテイとして前川国男が国際的なデザインを出したが，それは日本的なものはこれなんだという説明で提示したんだ。これはタウトの日本再発見にも，丹下さんのコンペ案にもつながっている別の系統なんだ。

鳥田　日本的なものと近代的なものは対立するのではなく，インターナショナル・ローカリテイが日本的なんだ。

笹川　そのころはもう近代建築にローカリテイの問題の考えが入ってきた時代でしよう。

足立　私は当時日本的なものに興味があり，堀口捨巳さんの作品や文章など興味深かったし，昭和12年のパリ博での坂倉さんの日本館におっ！　と思った。

白石　どうも私は戦前の日本的なものというのを見てると，いわゆる国策への妥協精神が強いように思うんですが……。

西山　私は妥協性はむしろ薄かったと思っている。客観的には妥協かもしれぬが，それに屈服したのではなく建築家自身が提示したところからはじまっている。

足立　進んで求めたんです。やはり時代の子だったのかもしれぬが，とにかく西欧のものでない日本的な何かを摑みたいと思っていた。

光安　しかしやはり妥協はあったと思います。シュールやアブストラクトをやっていた画家なんかが，弾圧を食って，引っ張られた時代でしたから，妥協せざるを得なかったという面もあった。

西山　新興建築家連盟が解散させられてから，そういう条件の中でベストなものを考えさせられてきたということですね。そういうと，また日本的なものを出そうと努力したということが，妥協といえば妥協なんだ。

白石　こういう現象は，建築以外のほかの権威からきているので，建築家自体から考え出されたのではない。西欧の近代建築はラデイカルに行き過ぎたのに対して，民衆の反撃を食っているが，日本の建築家は社会の後からついていったんだ。

鳥田　だけどあちこちなびきながらも，建築の根は太く生長して行くものだ。

笹川　その時代性や社会性に応じた制約というものは何時も確かにある。そしてその課題の立て方によって，変なものにされるということなんだ。

日本人は幸福な便宜折衷屋

足立　それと関連して建築ジャーナリズムはテーマのとりかたに美術界のあおりをくっている傾向が強い。建築界に主体性はないんだろうかと疑う場合も少くなかったのですが。

白石　日本の建築界は模倣意識が強くて，新しい様式や理念を創造せずに輸入から出発している。

足立　元来日本人は折衷派なりですか。

西山　すぐれた折衷派ですよ。「銀行はルネサンス・スタイル！」というのはすぐれた美学だ。それが装飾否定となり，いままた美しさの機能をとりあげねばならぬようになってきている。ただいままでの建築を飾りものとして見，ぜいたくな，リッチなものに美しさを見てきたものに，社会的なものが裏付けになってきたという変化はある。建築を置物として考えるのではなく，環境としての新しい美しさを獲得しなければならないという。

白石　さきにいわれていた折衷主義というのは主義なのだろうか，便宜のためなんだろうか。一つの様式も持たないで建築論もない。日本では主義主張も建築論もなかったでしよう。便宜主義なんだ。日本人は神社へもお寺へもお参りするということなんだ。ほんとうの宗教心なんてないんだ。

足立　日本人は宗教的な国民ではないという説を読みましたが，宗教を利用した匂いは強い。それが日本人の特徴なんだ。ゴシックは罪の意識を感じさせるように設計されていて，人を恐がらせるが，こちらのお寺は親しみを与えるんだ。怖れを与えるのは後期になってからだ。

白石　他力本願ですね。宗教心は薄いし，建築様式に関しても意識が薄い。

笹川　その点，日本人は幸福な国民ですよ。便宜で動いていて，罪の意識が薄い。

足立　結局，いまでも折衷主義だという結論が出ましたが，現実の解決という問題意識に立脚した折衷は日本独自のすぐれたものだと説いている思想研究家がいますよ。

現代の課題——モニユメンタル
——デラックスかアッといわす
——新しい空間

鳥田　もう一つうかがいたいのですが，これまでの間ずっと象徴や，モニユメンタリテイという厄介なものを排除してきましたが，現代にきても，そういうものは社会的な課題とする必要はないんでしょうか？　このところ市庁舎ブームで，いまの社会ではちょっとぜいたくなものをやっていますが，そこには現代のモニユメンタルなものが求められていないだろうかと思う。市庁舎は現代の城じゃないか。

白石　4，5年前でしたか，そのモニユメンタルの問題が出ていましたね。しかし現代のモニユメンタルなものは金力ですよ。市庁舎もビルも金力の表現なんだ。

足立　現代の日本人は皆ばらばらで，目的があるとすれば生活を楽しむことだ。その人達のシンボルとはなかなかむつかしい問題だ。建築家が現代のモニユマンを市庁舎で表わそうとするのは，庁舎が一つの中心である点もあるが，空間的に比較的自由にデザインができるものだからだ。

西山　いまでも建築家は良心を持っており，恥辱のないものを創ろうというモラルを持っており，理想を追求している。どういう創造をするかの問題意識が大事なんだ。

足立　建築家の良心といえば，分離派では自我の追求だった。そして当時はそれでよかった。いまは社会性の強調されるモラルに変ってきている。

白石　私はいまの建築家の一般の目標は，「デラックス」か，さもなくば，マスコミを「アッといわす」ことだと思う。

笹川　私はデラックスは表現としては共鳴するところはあるんだが，現代どう設計を表現して行くべきかを考えると，設備を重視しなければ駄目だと思う。近代科学から生まれたという意識が大事なんで，内容の乏しいものはいくら表現がデラックスでもいけない。内容が伴わなければひからびて行く。最近あるアパートを見学したが，室内は貧弱だが，廊下が豪華で広過ぎるというアンバランスを感じ，どうも新しい世界に対する奇抜なものを創ろうとする創造への過剰のようにも思える。

西山　先の白石さんの意見ですが，現にどうあるかではなくて，本質的な現代建築の目標は何であるべきであるかということになるとどうですか？。

白石　デラックスかアッといわす，というのではなく真面目にものを創るということを建築の本筋として考えると，それは人間的なものを摑むということだと思う。

足立　どうも抽象的に人間的なものを摑むことなんていわれると，ホロリとはするけれども何かふわっと浮いてしまう。

笹川　しかし，とにかく人間的なものの追求ということは大事だと思います。アパートなんかだと，まづ室内構成が快的であることが第一で，建築家の工夫とか計画のイメージがいかに現在の基盤から将来のものにアプローチできるかという範囲が問題になるので，現在を無視した無駄をするというのは一つの罪を犯していると思うんですが。現在の立脚点をよく考えることが大切だ。

西山　私は笹川さんの意見には必ずしも同意できない。将来その廊下やホールなどが社会的機能を持つようになると，廊下やホールの考え方も変り，そこに別の空間が生まれてくると想像される。その時になると，それはまた人間的空間をよくしようとしていたということになる。笹川さんのようなふうに考えると，みみっちいものばかりしかできない。いまの制約と同時に将来の新しい方向を見なければ……

笹川　いまの経済状態に立脚して計画されたからといってみみっちいものを想像することが僕には不思議に思われるので，現在の生活環境を無視した建物の方が陳腐になるおそれがあると思うのですが。

足立　西山さんと笹川さんの中間に，いまの建築家は将来の新しいイメージを適確に摑んでいるかという問題が入ると手掛りが出てきませんか？　イメージをはっきり摑んでいないということになると笹川さんのおっしゃることが十分浮び上ってくる。

西山　イメージをはっきり摑んでいないということはあるでしよう。しかしそれはそれとして現在のところでは一般的に未熟でしようが，新しい空間をとり上げて創っていくという意欲は必要です。ただそれが権威ある建築家でないとできぬ。だから建築家の中でお互になれあいででも権威を盛り立てていこうじゃないか，そこに創造の基盤があるといった論理にしか展開しないのが，なさけないですね。

鳥田　そのトップレベルの人達の冒険は，個人的な機能以外の新しいモニユメントになるような社会空間をつかまえようとしている。ともかく，取り組むべき課題です。

足立　そのイメージは下手をすると中世に戻っちゃう。そこが苦しいところだ。

西山　シンボルとかモニユメンタルというとまずいんだが，そういう新しい空間の創造というところへ問題が移ってきている。

笹川　その新しい空間と各部屋の構成や生活との差にどうも錯誤を感ずるんだがね。

白石　建築は機能性だけにかたよってもいけないし，造形性だけでも，経済性だけでもいかぬ。その全体を綜合した妥当性に立つものなんだ。そのバランスをくずしてやれるのは官庁だけだ。アッといわす官庁建築の革新性は，官庁も経済性を度外視できないように見えて，実は経済性を度外視し得るところにあるんじゃないか。このたぐいのはみ出しが日本ではどうも多過ぎる。

足立　白石さんの話しで，もっと摑み方がはっきりす

ると，それが無駄か無駄でないかの判定がつくと思うんだ。

鳥田　官庁建築家として，光安さんが日ごろからいっておられる官庁建築家こそ，日本では真の建築家だというご意見をひろうして下さい。

光安　アッという建築が公共建築に多いというのは，税金で無駄をしているのでなく，純粋な建築の方向を摑んでやるには公共建築が最適なコースになっていると思う。たとえば施主個人のために奉仕するわけでなく，純粋に建築目的で思考し，それをもって県良国民に奉仕すればよいわけだから。新しい視野と希望の表現が公共建築にとられて，それにアッというのも当然だと思う。商業建築においても安易な妥協でなく，それを純粋に建築思考のコースにのせた作品には同様にアッといっていると思う。そういう作家が一廻りも二廻りも大きい村野さん，前川さん，丹下さんの例ではないでしょうか。

鳥田　いままでのところ，分離派以来の個人的な作家主義の行き方と，別な社会的な動きとが混在して，それがどこかではみ出すんです。もう少し整理すればその辺からもっと具合よくなりませんか？

足立　実際には社会性に乏しいといってよいのじゃありませんか。

白石　いまの建築のモデルはもっぱらアメリカで，日本とは社会的基盤が大いに違うから形だけの真似になっちゃう。英国はあまりぱっとしないが，新しさのない中に着実な進展がある。もっと英国流に行く方が日本に合っていると思う。

足立　歴史的な進み方にはだんだんと一歩一歩歩いていく進み方と，いっぺんに行き過ぎては後に戻り，また飛び出すという二つの行き方がある。個々の場合に論議しないと一般論ではむつかしい。

白石　いまの日本は後の方の行き方だから建築家横暴論が出るんだ。

笹川　それと，いまの建築家は一人で劇場も住宅も病院も何でもやっていることに，問題があるので，これからはもっと人によって専門化して行く方が本当じゃないだろうか。

（一同）そうですね。

足立　いまのところ建築家は芸術家で，社会性に乏しく，さらにまだ確信のない折衷派そのものだということになりそうですが，いま苦しんでいるんだといってよい。

白石　そうなんだ。それに新しいアイデァには「社会性」ということが造形のかくれみのによく使われる。その人個人の主観的社会性ですよ。時代が変ると民衆広場は国粋広場になっちゃう。

足立　外部の光りでものの色が変るということなんだろうが，人間なり社会の摑み方の勉強が不足しているんだ。

西山　いや，はっきりした解決がつかなくてもやらねばならないという実践者としての宿命もあるんですよ。

光安　丹下さんとか，ミドあたりの行き方は私はやはりあれでいいと思っている。雨もりがしたというような小さなことよりもわれわれに予期しなかった道を開いてくれることが大きいと思います。それをわれわれは足掛りにして前進できる。

白石　そういうパイオニヤとしての価値は大きい。

足立　結局そういう人々のやっていることのまづい繰返しが問題なんだ，いかなる時代にもエピゴーネンの問題がある。

鳥田　しかし，少しでも可能性があれば，それは深めていくべきだ。

白石　ただどうも皆が皆，そのパイオニヤになりたがっているようでいけない。

鳥田　話しが佳境に入ってきたのですが，時間も大分過ぎましたので，一応この辺で記録を止めたいと思います。長い間どうも有難うございました。

天井・間仕切には軽量鉄骨を・軽量鉄骨は日進式を御採用下さい・

耐震・耐火・軽量・堅牢

防錆完全・中空防音

合理的工法・責任施工

株式会社 奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町五六番地

電話北㉞四一三一～四

杭

株式会社 武智工務所

取締役社長 福留並喜

大阪市東区瓦町3ノ11(井池筋)旭洋ビル3階

電話 ㉖ 3606・4089

アンケート

あなたは作家として，これまで設計上多くの転機を経てこられたと思いますが，そのうち特に重要とお考えになるものについて下記のおたづねをいたします。

多数の作家のお答えを集めて，われわれの近代建築形成の過程を顧りみ，かつ創作の機微に触れることができればと思ったからです。

1. あなたの作家としての転機について
   その時期
   その理由
   その頃の作品，論説例など
   また当時とくに影響をうけた作家をお示し下さい。
2. あなたの考えておられる，これからの方向をお示し下さい。併せて，現在好きな作家を1，2名あげて下さい。

アンケート　1. あなたの作家としての転機について　2. これからの方向・好きな作家

レーモンド建築設計事務所長

アントニン・レーモンド

私の作家としての転機は1923年，関東大震災の年です。その頃私は五反田の星製薬学校の講堂や麻布の後藤新平子爵の邸宅（この邸宅は後に満州国大使館となり，戦災に会い，戦後は中華民国政府により使われているが，その修復工事は好ましくない）や吉祥寺の東京女子大学その他いくつかの住宅を設計していました。上記の仕事にはどれもフランク・ロイド・ライトの影響が多分に見られます。いくら一生懸命努力してもライトのマナリズムの影響から脱け切ることができませんでした。

大震災の直後，私は自分の家を赤坂霊南坂に建てることにし，ライトの影響から解放され自由を取得するためにあらゆる努力を払って設計しました。その結果は世界最初の本当に近代的な住宅となりました。一本石の鉄筋コンクリートで，外側はコンクリート打放しの仕上げとし，全部の部屋を南向きとし，それぞれの庭を持ち，建物全体が大変簡素な自然な感じでした。それ以後，私は絶対に妥協をせず，ついに完全な自由を取得しました。

私の設計への影響は欧州の伝統，とくに中世期のものです。私は中世期から受けつがれてきた美しい建築の都プラハに生まれたためです。つぎの影響は私がニューヨークで働いた，1910年—1916年の頃の米国の建築技術です。第三の影響は，私が米国と日本でライトのために働いた間に得た影響です。最も強い影響，そしてそれは今もなお生きていますが，日本の建築設計の原理です。それは私が1920年に日本へきて以来，今もなおずっと学び続けており，多くの恩恵にあづかっており，深く感謝しています。

私の好きな作家はフランク・ロイド・ライトと丹下健三です。理由は前者は90才になりますが，大変勇敢で，絶対に妥協せず，絶対に営利主義にならなかったことで，後者はまだ若く彼の本当の仕事はこれからだと思いますが，ライトに劣らぬ妥協のない天才だからです。

建築綜合研究所（RIA）所長

山口文象

1. 敗戦で国中が社会的にも経済的にも経験したことのない混乱におちいりました。しかし間もなくだんだんと落付いてはきましたが，私の仕事も生活も立ち直るどころのさわぎではありませんでした。戦中のよく圧された苦しみから，引きつづいての生活的困きゅうや，アメリカへの社会思潮の傾斜のものすごさに対する私なりの非力な抵抗やらで全く弱りはててしまいました。今考えてみますと，この渦中のもがきが本当に私に不幸であったかどうかはわかりません。というのはこのいろいろの意味でのどん底の生活の中で〝建築家〟について，のんきなはなしですがゆっくり考える機会が与えられたということです。いってみれば，人間，生活，社会の三つのサークルと建築との関係，そしてこれらの統体と建築家との対決についてなど，むづかしくいえばフィロソヒィーレンしえたことです。

その結果ともいえましょうか。RIA（The Research Institute of Architecture）のグループ活動が生れました。昔と違って建築をささえ，あるいは構成する技術が非常な広範囲にひろがってきますと，一人の建築家では手のとどかないところがますますふえて来ます。複雑な機能をもった建築はたくさんの技術者の協同によって創られるので，それを一人の建築家の作品として考え発表するのは間違っていないか，この19世紀的な英雄主義的な考えが正しいかどうかには多くの問題がふくまれておりましょう。営業体としてのRIAグループも従来の建築設計事務所のあり方とは必然的に違った組織で運営されています。

私たちのこの方向の正否を，出発して7，8年にすぎない今日では，まだ云々するのは早いかも知れませんが，一日一日の苦しい積み重ねが必らず近い将来に本当の建築リアリズムをさぐり当て得ると確信しております。

2. 以上のような理由から，見てくれ本位のはでばでしい建築家を好みません。イタリーに2，3好きな作家がおります。

武蔵工業大学教授
蔵　田　周　忠

1. 古い歴史的な様式（スタイル）を，そのままわれわれ自身の手で再び建てることはしない。という強い自戒を話し合った「分離派建築会」に参加を誘われたことから，私の建築設計家（作家）としての立場が確立したのでした。

これはスタートであって，強いて転機といえば，それまでの模索から自覚した時代に入ったということでしょう。欧州における表現主義に感激していた時代です。時期は大正10年頃（1925）。

理由は新時代の日本の建築の道を拓きたいため。

その後昭和5，6年（1930）ドイツでグロピウスを主とするバウハウスをはじめ，各地でいわゆる合理主義の「国際建築」に強く影響され信奉した時代が次の転機でした。

作品は分離派建築会展覧会出品から，当時の不動貯金銀行の諸支店。東京多摩川の京王閣など。

論説は「近代建築思潮」・洪洋社・建築文化叢書。「現代建築」1935・東学社・実用建築講座。等々。

戦中戦後は専ら今日の武蔵工大にて後進育成に傾倒。作家活動は大体開店休業。

2. 合理性をもった，自然なもの。

グロピウス，ブロイヤア，ミース・ファン・デル・ローエ，丹下健三，芦原義信のみなさん。

ただし作品の中でオール好きとはいいきれないものもあります。

× × × ×

× × × ×

日本大学教授・東京教育大学講師
山　脇　巌

1) 私は大正15年に旧東京美術学校（現東京芸大）建築科を卒業しました。その頃もいまと同じで一組が極めて小人数でした。クラスは7人で自然に個人教授のかたちになります。その7人の中でも故岡田信一郎先生には一番に叱られた方でしょう。

卒業後すぐ東京の横河工務所にはいり，故横河民輔先生と中村伝治先生に職業としての設計監理のご指導を受けました。6年目にグロピウス教授の「バウハウス・デッサウ」へ入学しました。この頃からアーキテクトはただの会社員ではないと自分だけで考えはじめました。それからのち教職以外は一度も就職しません。随分苦しい生活も味わいました。

また，子供の頃，亡兄の親友で当時建築界の鬼才といわれ，また絵もうまかった後藤慶二氏――工大の後藤一雄氏の御親父――には非常に可愛がられ，明治の末期から大正にかけて誰れでもが描いた絵はがきをわたし宛に沢山貰っています。いまでも書棚に大切に飾ってあります。当時，私は姓を藤田と名乗っていました。作家になりたかったのはその頃からかも知れません。別に難かしい動機はなにもありません。ただ考えたものを紙の上で計画しては実際に作りたいだけです。

「バウハウス・デッサウ」へ出かけたのも，このままではいけないと考えただけであり，その頃のグロピウス教授，とくにミース・ファン・デル・ローエ教授には一番ながく師事しました。

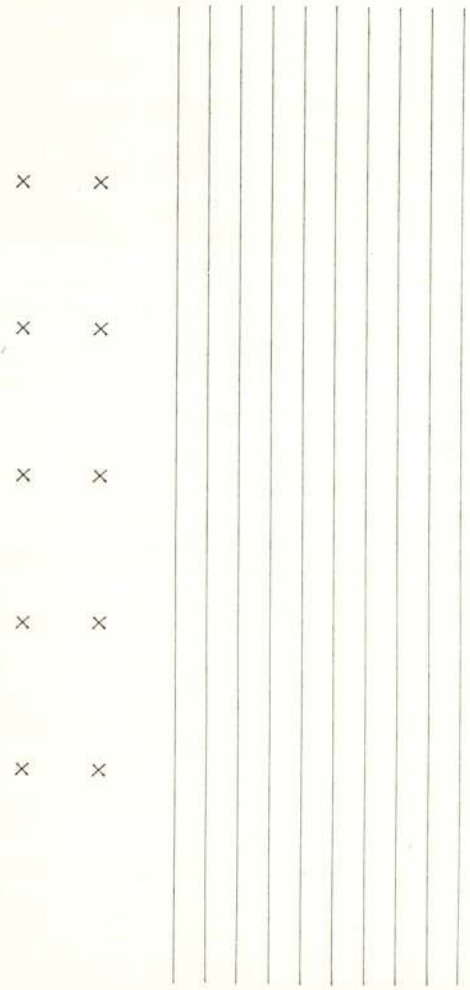
2) これからの建築の方向などあまり力んで考えるとかえって類型的な形式を生みます。成長していく自分の考えと進んでいく社会生活に歩調をそろえて日本人として正直にまとめるだけです。しかし先きをみる眼はいつも大切です。

現在の作家では谷口吉郎氏などのすなおな作品がいまの気持では好きです。

東畑建築事務所所長
東　畑　謙　三

正直なところ作家といわれると何だかとまどった感じである。やはり建築技師といわれた方が自分自らを表わしているように感じる。たとえ作家として他人からみられても，転機とは批評家からいわれる言葉であって，ことに当っている者にとっては徐々に来るもので自らはいわゆる転機をそう意識していないのではなかろうか。

これが純粋の文学であったり，あるいは絵画や図案のような純粋な造型芸術であったならば，作家なる者の心境の変化とか新しき経験などにより，作品の転機はだれにもあり得ると思うが，私は建築家はやはり技術の統合的な企画だと信じている。またそこに建築の面白味があり，転機にあらずして進歩があり，個人崇拝に非ずして技術者としての学問があると思う。



市浦建築設計事務所所長
市　浦　　健

私は，いわゆる「作家」ではありません。ただの「建築家」です。私の建築家としての考え方は，私たちが学校を出る頃の建築論が一番つよく作用していると思います。丁度その頃はといえば，グロピウス，ル・コルビュジェで代表される新建築運動が世界の若い建築家――ないし建築青年を夢中にさせていた時です。この時代の以前のものや，最近の考え方とはかなりはっきりしたちがいがあると思いますが，その影響の中に育ったものの中でも，個人により，またその住んでいる国により，またおかれている環境によってちがった表現の建築の設計をしたり，ちがった生き方をしているわけです。従ってその後の転機などというものは別に経験しません。徐々に変っているに違いないとも思いますが，ふりかえって見ていまの自分の考え方とも根本的には大した差がないと思うのは，私があまり進歩していないことを示しているのかも知れません。

私の建築家としてとくにデザインというものに対する態度については何といっても堀口捨己，岸田日出刀両先生の感化を否定できません。とくに堀口先輩の洗練された簡素な感覚，謙虚な態度，強い正義感は工作文化連盟の長いおつき合いの間にしらずしらずの間に影響をうけました。私の設計したものにはその影響が出ていないのは私の能力の足りないせいでしょう。私の建築家としての社会に対する考え方は佐野利器先生の技術論の感化を少なからずうけました。これは建築論としての合理主義にも通じるもので，昭和10年頃の建築雑誌にだした「建築生産の合理化」という論文などはこの現われの一つであり，これが乾式建築の試みから戦時中の組立建築に発展し，さらに建築家の働き場所としては住宅――それも庶民のための住宅の建設，さらに都市計画の実施に協力しようという私の現在とっている方向であり，また将来変らないと思う方向もそれらのいくつかの影響の綜合であると思います。さらに一言，これは主に戦時中からいろいろの団体内での活動に参加してから，伊藤滋先輩に非常に有益な感化をうけていることを白状します。この影響はだんだんこれから現われることと期待しています。

私は前にのべたように「作家」ではありません。いわゆる「作家」の中にはとくに好きな人もいません。強いていえばどれもあまり好きではありませんし，またあまりきらいでもありません。

早稲田大学教授
明　石　信　道

ご質問は興味のある点をつかれています。作家遍歴の出発からあらましお答えしましょう。1928年に早大建築科を卒え，すでに30年余。前半15カ年は設計事務所自営，後半15カ年余は大学の教職という立場におかれました。卒業時には強いて作家志望ではなかったのです。在学中（1925～1928）はオリブリッヒやライトやエリーエサリーネン（現在のサリーネンの父）の新しさに魅せられました。1927年頃バウハウスビッヘルのインターナショナルバウテンという小冊子とエリッヒ・メンデルゾーンの作品集を入手してから鉄・コンクリート・硝子の美というものを知り，ともにヴィヴァン誌に掲載のペレーの教会やガルニエーの競技場や美術館にあこがれたものでした。コルビュジェはたしか1928年の夏ごろに印象づけられたと記憶します。たまたま1927年の秋に学生の身でありながら，1200人収容の映画館「新宿武蔵野館」の設計委託があり，四苦八苦してこれを作り就職の機を失いました。この処女作はメンデルゾーンとウイン派のホフマンやファーレンカンプの影響を多分にうけた化物のようなものであって，失敗作と認めています。知の足りぬ者が，流派や作家の影響のみで完成することは誤りが多いと感得したのはこの時です。これではいけない。学生時代の器用さにまかせて憧憬や能力のみで世渡りするのは危険と思い，大いに反省しました。処女作は10カ年ほどの経験と慚愧をもたらし，これが第一回目の転機であったようです（1929）。洋風建築のスタイルはやはり古典を習得した過程から出発すべきものと考え建築の教義・秩序・その他の思想・沢山の技術を知らなければ，たとえ流派の人となるにも，ことに新しい創造をするにはその知識の庫がなければ建築をやりえない。ためにもっと技術的経験を，それから過去の発生過程を知って始めて開始されるものだと思いました。幸い田辺泰先生の協同でやる浜口吉右衛門邸（住宅とはいいながら四百坪の鉄骨鉄筋コンクリート造）の設計をやりました。プランは和田順賢氏のもので外観や室内の設計ですけれど，各室がゴシック・ルネッサンス・バロッコ・ロココというふうに古典様式の羅列にすぎません。ここで一応，比例・均衡・素材・深浅・触覚を思索することができ，非才は少し前進させることができたようです。けれど，自分のこれからの作品を過去の様式で復原させようとは考えませんでした。この浜口邸（1932年）が第二の転機でしょう。それから浜口別邸・横浜開港記念博覧会・森屋百貨店を続けて設計してゆきましたが，絶えずコルビュジェやステアンやアンドレーリュルサという一派のクララハイトとオランダ一派の煉瓦による壁の陰翳がいつも離れず，いづれにつくか去就に迷った時代が第二次大戦の直前まで続きました。戦争中は設計しても自ら監理も許されず暗黒時代で，自ら日本建築史，ことに床の間の造型に興味をもち出しました。戦争中から母校の講師をつとめ，戦後専任となり「建築教育」ということに腰をすえようと思いましたが，設計の部門は文献でのみでは物足りなく，年に二つ三つと設計を手がけないといけないと思います。自分は戦後始めて（1951）愛泉教会を設計したのです。設計というものはとことんまで心をこめて考えてやるべきものと，このとき知りました（これが第三の転機と思います）。そんならば，それまでの自らのやった建築設計は努力をしていたが，中途半端で，解決したかといえばそうかもしれません。ちょうどそのころ彰国社の世界の現代建築や国際建築誌（月刊）の復刊をみましたが，富める国の富裕を感じるだけで別に若いときのような魅力を覚えません。反って地道に営まれている芸術衝動の作為に志した小作品に心がひかれてゆきました。顧みて自分の転機は書籍の発表による印象というより，むしろ自らの体験で転機してきたようです。これは建築家は実際において始めて「してはいけないこと」「してよいこと」の区別をつけるときでないでしょうか。

2. 現在好きな作家といわれても困ります。各人にはそれぞれの持味があって態度や作品や思向で決められそうもありません。が，知っている範囲では，ペルスキー（米），ライディ（ブラジル），ブロイヤー（米）で，日本では村野藤吾氏と清家清氏。そんならば，君はこれからはどう……といわれると，ますます反省期に入っていると答えます。この老年にいたって建築設計というものは，なまやさしく取組んではいけないとしりました。が，けっして萎縮はしないつもりです。自分のしっている範囲では大胆なる意志や感情を発表していきたいと念願しています。ただし，意味のない模倣だけは避けていきます。やはり，よいものをつくるにはそれだけ努力しなければできないようですから，意識ある努力のほかは方法がないと思っています。

広島大学教授
佐　藤　重　夫

作家といっても，いろいろの段階があり，多作家も寡作作家もある。また建築は実用性がはなはだ重要であるから，何をもって作家といってよいのかしらない。従って私自身がいずれに当るのか自信もないが，とにかくに一生に一つくらいはましなものでも作ってみたいと思っているので，あえてお答えしましょう。だから転機のごときものを内省してみて，その様子がはっきりするわけでもなく，お恥かしいことながら，実はいつとはなしにいろいろと振動し，思い悩んんできたともいえよう。また影響を受けた作家といっても，その範囲はまことに広く，多少とも私には響き与えられており，すべてのかたがたが恩人であり，師であるといいたい。そのうち思いつくままに主だったことや，かたがたを想い起し，感謝をこめてつづってみよう。

第一に思い出される私の突き当った悩みというものは学生のころから卒業後暫くの間，昭和8年ごろのモダンと日本風の問題であった。日本風といっても日本橋高島屋や，後の軍人会館のようなものには関心はなかったけれども，純日本味のものにはなにか心魅かれる思いであった。日本の民家や城の窓，城の石垣などに通うデザインを，ある競技設計にしておいでであった恩師（この設計はおしくも出されなかったようですが）を垣間見たときの驚きに似たすばらしさや，後のことではあったが，丹下氏の忠霊塔の入賞などは，今も当時の思い出の一つである。

しかし，こういった日本の気風と洋風に刺戟されていた平素のわれわれのモダンとの間の問題は，当時の自分にはなかなか及ばない，解決しえない迷いとして，しかしいつも心の内に引掛っている問題であった。皇紀2600年記念建国館三等の愚作と建築学会50周年記念競技佳作の画廊案や，愛育研究所佳作の愚案等の，つまらぬ当時のものは，そのまま未熟の私の迷いそのものの恥ざらしであったと思う。

影響を受けた作家としては，伊東先生をはじめ岸田先生，および当時奈良朝風の屋根を持った東大弓道場などを作られた内田先生であったと思うが，ことに恩師の方々の満州開発都市計画案などは忘れられない名作であったと思う。

つぎに突当った問題としては渡辺仁先生の下で第一生命本館の設計に関与さしていただいた時であるが，この建物の中にある当時の石坂泰三専務室関係の諸室の設計を折衷主義で設計したことである。あらゆる詳細や現寸まで書いたが，この時こういったクラシックなものの味，柔らかみ，面白さ，比例によりつつ比例に束縛されないデザインのよさ，という問題について，渡辺先生よりぼけねばいけないという表現での，解脱の意を教わった。これは今も私は金言として大切にしている。これらの室へやは戦後 GHQ，マッカーサー室として使用されたが，この室へやのマントルピースに，私は上述の渡辺先生の金言を思いつつ，今も愛着を最ももっているものである。

第三に思い出す転機は航空局に入ってからの戦前期からのことであるが，民間にあって今までやっていたような制約のものと違い，敷地の選定からブロックプランに入る，より大きな機会にあたることができたことであった。これは私にとって，より広く深い教えを与えてくれた。当時の主任技師の級友片山隆三氏，その他多くの方がたのプランニングに対する検討の問題は，それ以後通信関係を通じて敷衍されたもので，伝統の末端にふれ，私は外廻りをしつつ，それでも今まで見捨られがちであった規格性とか，極めて普通な材料や工法の統一的使用というものが醸し出す何物かに驚ろき，またそれに眼を瞠かされた。しかもそれに徹しきれない非力にも泣いたけれども。また吉田鉄郎氏や山田守氏にはそれぞれその奥にある清楚と熱心さとに瞠目し，また木村栄次郎氏よりは言葉にも出せない素直さを教わったと思う。ことに病あつい吉田氏を病床に見舞った時に「佐藤君，今はアメリカだが，建築はやはりドイツだよ」といわれた吉田さんの私にとっての最後のお話は忘れることはできない。

戦後私は岡山に，そうして広島大学へと移ってみると心の一隅に無形の形で引掛っていた郷土味というものが再びよみがえってくるのをどうすることもできなかった。戦後のアメリカニズムの吹きまくる間にあって私はむしろ逆に向う迷いを続けていた。それは建築文化（昭22．10）の床の間についての文や，同誌（昭.32．9）の拙文，また少数の作品などにも多少あらわれてきたかもしれない。これはまた倉敷を中心とした民芸運動に刺戟されたことも多く，外村吉之助氏や浦辺鎮太郎氏に教わったことも多い。また岡山県文化財委員としてや，以前より少しづつ手がけていた民家探訪で，中国地方を，時を作っては歩き回るうちに育くまれていく思いであった。一方昭和29年に欧米，ことにドイツ，スイスと伊太利を比較的長く田舎回りしてみて，ドイツの固さと，中世ことに初期ローマネスクに面白味を発見してからは，いよいよそれがつのるのみであった。学会の正月号にも書いたので重複をさけたいが，材料そのものの落付いた堂々たる建物，ねらったものでない建物というものに今はますます私は傾いている。安価なありふれた材料で作

山下寿郎設計事務所大阪支社長
清　水　和　弥

大変むつかしい質問で，常に周囲からの影響を受けながら，暗中模索しているような状態の私にとっては，適切な答が直ぐには見付かりません。

強いていえば，年令に従っての人生観，社会観の変化が，建築創作の心構えに多少の動きを与えて来ているようです。

戦争の経験だとか，大病中の思索だとかは，その意味ではやはり私を転機せしめているのでしょうか？

いずれにせよ御質問のようにはハッキリと答えられない有様です。「お前は何の目的を以て人間に生れてきたのか？　何のために生きているのか？」と聞かされたような気持です。

日建設計工務KK名古屋事務所所長
山　根　正　次　郎

1. 制作のその日その日が転機，とでもいいましょうか。（ご質問の意にそえなくて恐縮です）

2. 最も尊敬できる建築家は竹腰健造先生です。

現代のうわっすべりな建築思潮に一番欠けているものそれを先生は正しく確実に身につけておられると思います。その他にも立派な方があることでしょうが，直接そのひととなりを知りませんので，作品の写真だけでは私には尊敬できるかどうか判断がつきかねます。

郵政大臣官房建築部設計課長
薬　師　寺　　厚

とくにはっきりした転機というようなものはなかったようですが4～5年前ごろ，つまり40才を過ぎたころから，だんだん自分の考え方に自信ができてきたようです。

人がやっていることが気にならなくなり，人は人，自分は自分だと思うようになってきました。

よくいえば自己が確立してきたことであり，悪くいえば感受性がにぶくなり頑固になってきたんでしょう。

進歩か，退歩か疑問です。

ミース・フアン・デル・ローエの作品がずっと前から好きです。昨年アメリカで実際にそのいくつかを見てますます感心しました。それと日本の古建築，最近では社寺建築に心をひかれています。

数年前からの引き続いての考えとして，鉄，コンクリートを使って，気候，風土にあった感覚的にも日本らしい建築をつくっていきたいと思っています。

異った風土，伝統をもつ日本で，外国の新しい建築をただ目先が変っていることだけで無反省に真似をする傾向が激しすぎると思います。進歩的という美名にかくれてこんな傾向がのさばるのは寒心すべきことと思います。

もっとわれわれのもつものを大切にして気永に育てて普遍的な，本格的な建築をつくっていきたいものです。

よい意味でのアカデミズムが日本の建築界にあってほしいと考えています。

（前頁より）

っても，安物にならないもの，これができないものかなと思っている。そこの味，それは貧相でない味を，馥郁として悠々たる，堂々たる気風を，と私は希っている。小さくとも心にこたえるもの，大小にかかわらずそこには質実，すなわち健実と質素とが見出されねばならぬと思う。トルヒヨモニュメント（建築と社会昭31.6）や広島発明会館（同 昭33.12），中江大部先生台座などに少しは私の主張が見られれば幸である。

現在私の好きな作家はいろいろの意味で多い。しかし私はそのうちで，ロジヤース（伊）とJ・デカルロ（伊）およびA・アールト（フインランド）をまず挙げたい。日本ではやはり岸田先生，前川氏，丹下氏であるが，他にも多い。

法政大学教授
森田茂介

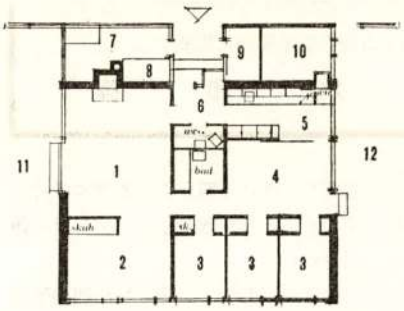
わたくしは作家と呼ばれるに価しないと自認しています。しかし30ほどの住宅と 5，6 のビルの設計をしており，少くともそれらの建物の建主，使用者には建築家としての責任を感じています。その意味で自分のメンタリティ（心的態度）を告白する社会的責任もあると思います。

住宅設計者としてのメンタリティの変転を省みますとこのごろは建主の希望をできるだけ巾広く取入れて設計を纏めていきたい。住宅は建主と建築家の共同作品であるべきだ，そんな風に感じています。建主の希望を巾広く取入れられ得るということは建築家の節を曲げるということとは違うのであってむしろ建築家の共鳴帯が巾広であることを意味すると考えるようになりました。学校を出たてのころはそうした巾より，自分の建築を確立したいといったことの方を主に感じていたようです。これは年令の影響でしょうか。もっとも現在でもわたくしは人に頑固だといわれますし，一方こうしたメンタリティの変化が進歩だという気はありません。

住宅の平面計画についての考えも随分変転しています。戦後はスカンジナビアの住宅平面のあり方に家庭生活の最も妥当な把握があるように考えるようになりました。その好例は最近のデンマークやスエーデンのものに見られると考えます。親子分化の平面計画とわたくしが呼んでいるものです。これは Byggmästaren や Arkitekten などに出ている平面図をときおり眺めているうちに感得したものです。（掲画参照）ウィリアム・ジェイムスの心理学に「仕事の些事に携っている時，知らず知らずの中に，その種類の事柄についての判断力が自分の中にできてきてけっして失われることのない自分の所有となる」とありますが，転機とはむしろそうしたことではないかと考えます。

建築の考え方についてはマンフォードから多分の影響を受けたかも知れません。しかし影響と感じるより，マンフォードによって自己発見をさせて貰ったといった感じです。転機といえば建築家としても戦争によって眼を開けさせられたことが大きなことだったと思います。既存の建築型が戦後の激動には通じないこと，それゆえ建築型の再認識，再構成が必要なことを考えはじめたことそれと戦後プロレタリアートになったためか，社会主義社会の建築および建築群のあり方を思うようになったことなどです。ところでわたくしの宅地内にはわたくしの家と，家内の母の家と，わたしの家の増築部分とあり，それぞれ1942，52，55年の建築です。いまそれらを眺めますとわたくしのデザインというより以上に，それぞれがその時期のデザイン傾向を示しているのに愕然たる思いです。たとえばフラット・ルーフ，厚型スレート，鉄板瓦棒葺といった具合です。目下小さい製図室を別棟で計画中ですが，それも十年後に見たらどう感じることでしょうか。

好きな建築家としては，アールネ・エールヴィ，アルヴァール・アールト，アルネ・ヤコブセン，スヴェン・マルケリウスなどです。学生のころ好きだったウィリアム・ウイルスン・ワースタに数年前東京で会えたり，戦前から作品は好きだったニールス・アールボムが，最近東京のスエーデン大使館の現場監督にきたのに一日中立会ったりして見ると，好きというのも作品なのか人なのかはっきりしませんが。



デンマークの住宅。建築家 Jørgen と Ib Rasmussen。物置等を除き住居部分 103.8m²，方位の条件は別として平面の分化，家庭生活の把え方には同感する。ARKITKTEN 58—22



スウエーデンの住宅。
建築家 Erik Ahnborg の自宅。親子分離が行われており，左側が両親の寝室。もつとも浴室は離れて子供部分にある。壁体はコンクリートの規格製品。NYA SUENSKA VILLOR, 58

三座建築事務所所長
徳　永　正　三

1. 中学3年生の時，New York より久し振りに帰朝した叔父に，将来飛行機の設計家になることをすすめられた。その時まで自分の将来のことなどは全然考えたことのなかった私にとって，この叔父のすすめは，強く脳裡に焼きつけられたといってよい。叔父のすすめの根拠は，将来どんなに発展するか測りしれないということであった。こんなことが動機になって，中学3年生ごろから真面目に自分の将来を考えるようになった。

当時私は四国の中学に籍をおいて，漕艇の選手としてレース前—春と夏—はもちろんのこと，秋も冬も瀬戸内海の上で暮らしていたのだが，宮内さんという早大漕艇部 OB コックスの方や，アムステルダム・オリンピックに出場した浜田さんなどのコーチを受けて，田舎の中学としては，珍らしく本格的なオアズマン・シップをたたき込まれた。その当時の状況は中学同窓生はよく知っていると思います。

このような二つの渦巻を心の中にもって，いろいろ考えたあげく，自分で将来建築家になるように決心した。その時期は中学3年の末期から中学4年の前期にかけてであつたと思う。

紺がすりに小倉の袴をはいて早稲田第一高等学院を受験して，私は幸に補欠入学を許された。昭和6年のことである。受験当時の紺がすりに小倉の袴のいでたちで，3カ月以上も通学して，夏休みに帰省して以降はじめてサージの学生服をつくってもらったことも，今は思い出となっている。

その秋から，私は早大漕艇部に入部して，本格的にスライディング・シートの各種の競艇を漕ぐようになり，墨堤の合宿生活がはじまった。

昭和7年の春，復活第3回早慶レガッタの3番を漕いでカンバスの差で勝った。昭和9年学部の建築科に入学を許されるまで，私の生活は墨堤でその大半を終ったと思ってさしつかえない。

いよいよ建築科のコースに入って，私は，対校選手をやめて，一生懸命に建築家になる勉強をしようと思った。幸に，New York にいる叔父からは，フォーラムやドードルジュイやペンシルポイントが送られて来た。しかし今考えてみても非常によく勉強をした学生ではなかったと思う。

やはりむりに暇をつくっては墨堤に出かけたり，校内レガッタのコーチをしたり，よくあそんだと思う。

昭和11年のベルリン・オリンピックに母校がフォアーの選手をおくるに当って，私は参加をすすめられたが，何かふんぎりのつかぬまま，辞退をして参加しなかったし，夏期休暇を利用して，New York にあそびにくるようにすすめてくれた叔父のすすめにも応じる決心がつかぬままに，昭和12年に学業を終えて，長谷部・竹腰建築事務所に入所することになった。

いわば，私は建築家になることを考えて，建築家になるためのコースを歩いてきたことになる。その間，馬鹿の一つ覚えの漕艇を自分の力一杯に努力しながら……。

そんな状況で実務についたものの，満州事変から大東亜戦争に発展していったので大した作品などはありません。強いていうならば，昭和17年の静岡復興霊域と昭和18年の日泰文化会館の入選作ぐらいのものでしょう。

論文は「民芸」が満州国建国10周年記念号に書くようにと申出があり，私が自ら採集した民具と満州の民家などを基調にして，かなり長文の工芸論のようなものを発表したことがあります。

当時一番深く影響を与えていただいた建築家は，長谷部鋭吉先生であります。

2. 伝統の問題をとりあげることはよろしいのですが伝統を非常に誇張して表現したり，伝統論をふりまわすために，自らが，その理論にしばられることはどうかと思います。

建築家は本来の使命があり，自由な立場にたって，使命に忠実にかつ創造の面でも自由に充分腕をのばして働くべきであると思っています。

建築家の本当の姿の生き方をする建築家こそ尊敬されるべきであり，建築設計に従事しているとしても，特定の施工会社に勤務している人は，建築家とよばれるべきでないのではないでしょうか。

日本で尊敬している建築家　長谷部鋭吉先生
渡辺　節先生
村野　藤吾先生

海外にいる私の尊敬している建築家
ル・コルビジエ，アルバー・アールト
ミース・ファン・デル・ローエ，マックス・ビル
エーロ・サーリネン，ヂオ・ポンティ

すなわち，作品を通じて作家をみる時に民族性を捨てることができない強い個性と，その創造的精神を学びたいと思います。

私の尊敬している建築家としてここに列記した方々はそれぞれに燃えるようなはげしさで自己を掘り下げつつ建築家の道を歩んでいると思います。またどこの会社にも所属しない，自由な立場の建築家であると存じています。

(34.2.20記)

建築綜合計画研究所取締役社長
坂　本　鹿　名　夫

1. 私の作家としての転機について

私はやはり出身校が東京工業大学という，構造をとくに大事に教えるという校風の影響が強いように思います。もちろん小林政一先生のような計画，谷口吉郎先生のようなデザインの優秀なる方にも有難い教えを受けましたから，その影響も大いにあるかと思います。その後大倉土木の武富英一氏，当時建築部長（後に会長）が大学の施工法の講師でおられたので，とくに嘱望されて昭和12年同社に入社させていただきました。爾後28年まで約17年間，途中海軍に召されて約5年間——しかしここでも建築のあらゆる面の経済合理化，能率化を研究——空白ありといえどもほとんど設計に専念しました。その影響は甚大であり，とくに建物を経済的に造るということに，家庭の躾もあって，——母は米沢出，上杉庸山公の教えをそのままに実践す——工夫をこらすようになりました。

もちろん，建築家として，何か造る際には必ず，その蔭では美しく美しくと祈るに似た気持ちは働いておりますが，一寸の無駄も許せない，厳格なしつけが無意識に働いて今日の作風を築いて来たとでも申せましょうか。

したがって今日，建築専門雑誌に美しい写真によって紹介されているような建築様式には，常に何ともいいようのない嫌悪に似た感情がまづ走り，ついで反感あるいは憎悪にまで近い気持ちを必ず抱くようになっております。第一次世界大戦後ドイツに復興した建築はこのような形式のものではなかったと思います。ナチス抬頭以前のBAU-FORMEN の美しい写真が未だに頭を離れません。日本の諸県庁舎などに見られる事大主義的な，あるいは古典趣味的な附而装飾の建物は何とも鼻持ちのならぬ気持ちで眺めております。

日本が敗れたからといって全然意匠を施してはいけないといっているのではありません。その気持ちは前にも述べてあります。しかし現状はどうでしょう。機能も合理性も無視して，唯々美に耽る。あるいは日本美と称して伊勢の大神宮を，あるいは古城を真似る。キャンティレヴァー（片持梁）の先端まで同じ太さで造るコンクリート造は四面全部増築を考慮しているのではありますまい。話が余談になって申訳ありません。

私の作品は円形校舎ぐらいなものですが，これはハッタリやケレンのものではありません。私なりの解釈で全く必要から生じたものです。これからも必要な場所へは建てるつもりです。しかし角形でも，円形と同じくらい，経済的に例えば，坪当り四万円前後で私なりに満足した立派なものができるようになりましたから——例，府中市在，私立明星学苑（理事長，児玉九十氏），宝塚市立長尾小学校など——安価という点だけではどちらでもよくなりました。

円形校舎も私の本当の満足したものはまだまだです。しかし，昭和23年ころ設計した中央に角形の共通部門を持った眼鏡型の校舎は，当時文部省や学会から面白いけれども奇抜すぎるといって棚上げさせられましたが，現在では青森県の大湊と福井県の小浜の両方から同時に依頼を受けて目下四分どおり竣工しつつある。このとおり自分で信じたものはいつか芽が出ることを身をもって体験しているが，当時，故遠藤新先生より真赤に加筆された青写真を見せて激励を受けたことは，涙の出るほどありがたい感激でありました。

私の作風といえば，前記のとおり，意匠というようなものははとんどなく，全く，使う人の身になって，例えばガラスの割れた時の経費まで考えて設計するので，いま流行の様式からは程遠い独自のものといえましょうか。論説というほどでもありませんが，詳しくは建設省建築研究所編集：建築技術1955—4月号，国際建築54—6月号，近代建築55—3，病院56—7，57—1，7，58—4，などをご覧下さい。

このように私の作家としての転機はまず，日本の建築の基盤をなしている請負施工会社を研究し，官庁の急先峰となった海軍を身をもって経験し，いよいよ信念を固めて発足したもので，常に現代に直結した建築を，最も経済的にと意図しつつ設計するために，様式とかいわゆるデザインなどにとくにこだわらず，その都度最も合理的な意匠を独創的に考え出すことに努めている。それは丁度自動車，飛行機などのごとく考えている（このごろの自動車には随分と頽廃的な意匠が見られるが）。従って意匠は素直に，清潔にということを常に所員にもいい聞かせているくらいである。

2. シドニー国立劇場のヨルン・ウッツオン氏，トロント市庁舎および市民広場のビリオ・レベール氏は，いづれも近来まれな二大国際公開競技設計の当選者でありその自由な意匠（意匠というものがあれば）は私の前記信念と全く一致する。このことは私の作品と比較すれば全く雲泥の差にも等しく汗顔のいたりであるが，過去の作品，例えばO.S.K. 円形大劇場や，国立国会図書館入選作その他円形建物と比較していただければ，わずかながら私の気持ちを判っていただけることと思う。

以上でお答えは尽きたことと思うが，さらに将来の方向を予想すると我田引水ながら，この自由な独創的な方向へ，すなわち正統機能主義とでも申すべき方向へ進むことは当然と考えます。しかしまた今日のごとく文化の進んだ時代でもまだ民芸趣味などの流行することあるのを思えば，まちがつた日本趣味，東洋趣味といつた建築もまだまだ残るだろうとは考えます。

中村建築研究所所長
中　村　登　一

1. アンケートにお答えしようと考えると，本当にまよいまよって，今日にありながら未だに自分の方向がわからない巡礼者であることを痛感いたします。転機について順次を追って書きます。

第1回　美校在学2年，中学時代から近代建築に夢を持って入学したが，当時の美校はクラシックの先生方でモダンな建築では適切な指導はえられなかった。そのおりに，図案科の広川松五郎教授と親しかったところから「君はクラシックをいやがるが，クラシックは近代建築の基礎となるはずだ。幸いクラシックではよい教授がおられるのだから，いま勉強しなくては当校に在校する意義がない。一つ勉強したらどうかね」とさとされた。学校から教えてもらいたい気持の多い時だったので，それ以後クラシックの作品を勉強した。

第2回　美校卒業時，卒業制作として，フランス・ルネッサンス様式で美術館を計画して下図を完成した。諸先生方には喜ばれた。そのおり水谷武彦先生より「人間の一生の裡で，自己を転換するよい時期は2回ある。一つは卒業，いま一つは結婚だ。君はこの卒業にあたってクラシックで卒業することについて考えてほしい」とさとされた。友人からも点取り的な作品の非を指摘された。そこで近代建築に転向，短時間の裡に「海岸に建つカジノ」を近代建築で設計した。先輩の石川恒雄氏の卒業作品を水谷先生の指導で参考にしたが，近代建築を内容的に理解できないで，表現的にしがならず，体は昔のままで着物から洋服に着替えた姿であった。

第3回　昭和13年4月～12月，卒業してすぐ東京市の臨時建築部で，東京オリンピック〝主競技場〟設計を担当した。そこで横山不学先生より，建築の表現と構造は有機的な関係であることをさとされた。僕は驚きと喜びをともにした。情熱を持って仕事したが中止となった。次いで大手町に建つ新庁舎を横山先生の指導で計画した。その時始めて，計画について各種のデーターを作ることを教えられる。とくに当時の鉄道省庁舎の調査で動線・交通量・組織図・経済断面などについて大切なことを知り，近代建築の内容を理解するようになる。

第4回　昭和17年，4年の軍隊生活のブランクの後帰国，幸い国土会のメンバーとなり，坂倉事務所で行うデスカッションに出席。そこで恥しいながら，機能主義の意義がはっきり認識した。コルビジュエ，グロピュース，ピーターベェレンスの研究をする。同時に個性の問題と日本的表現の問題で，吉田五十八先生の門をたたきお教えを受ける。当時の作品；日泰文化会館の懸賞佳作作品および東京市忠霊塔の当選作品。

第5回　昭和30年，おりから Architectural Review で東欧と西欧との論戦中の民族様式の問題に共鳴して，伝統の問題をとり上げる。近代主義建築を否定する立場となる。そこを進むうちに，理論と実践のギャップに苦しみだす結果を生じる。

論文　「グロピウスと日本文化」の中で P.252 の「ソシアリズムの立場から伝統の問題を考える」

作品　総評会館（共同設計であるが）

第6回　昭和33年5月，大阪の国際見本市にソ連からイエ・スタモが来朝した。幸いに彼と討論する機会を得た。そのおりに私自身の創作上の壁について，その解決する問題点について話し合った。彼はいう「人工衛星の飛ぶ今日，狭義の民族様式を誇るようなことなく，全世界的に考えよう」と。

2. 私はいまみずから動きつつある。かすかだが今に至って建築らしきものが感じられつつある。

1) 建築は用途に対して正しく計画されること。
2) 建築は経済的に計画されること。
3) 建築は生産方法との有機的な関連において計画されること。
4) 建築は地方の生産材料，生活の伝統，気候，風土など，その建設される土地と密接な関係で計画されること。
5) 建築は美しく計画され，そこに新しい建築造型の発展に寄与し，その国民の幸福になるように計画されること。
6) 建築は，一個の建築でなく，都市計画，地方計画との一連として計画されること。

以上が今後の方向と思っている。

現在すきな作家は，故オーギュスト・ペレーである。それは，機能主義以後の建築の発展に対して，正しいもの，引継ぐものを発見して，故オーギュスト・ペレーの上にプラスして，新しい創造を新しい社会のために作りたいからです。その意味で創作上の参考となるものがあるという点で現代の作家の中で尊敬する人々は

1) 建築空間の表現力において
吉田五十八，谷口吉郎，村野藤吾，丹下健三，ローエ，コルビジュエ，ヨルン・ウッツォン，ブロイヤー。
2) 建築技術の積み上げにおいて
リチャード・ノイトラ，山口文象，前川国男，吉田鉄郎，小坂秀雄。
3) 基本計画のデーターの蓄積と研究において
吉武泰水，池辺陽，横山不学。

日本住宅公団建築部設計課長
本　城　和　彦

いま私は「作家」ではありません。それにまだ過去のことを語るような年令でもありません。それでご返事をすることがためらわれます。

系譜からいえば私は逓信系です。学校を出てすぐ逓信省に入り，山田守，吉田鉄郎，木村栄二郎，小坂秀雄，薬師寺厚などの人たちにいろいろと感化をうけました。山田さんの意慾的な制作態度や，吉田さんの沈潜したそれなど，ふかく心にきざまれています。しかし，とくにそこで学んだものはプランニングの厳正さと，機能に対する忠実なアプローチということでしょう。

私は大学の同級生にも極めて恵まれていました。丹下健三君の仕事など，私は傍から見ているだけですが，いつも全く感心させられます。大江宏君や入江雄太郎君もそうです。入江君についてはそのファイトと実用に対する忠実さに感心しています。学校を出て間もないころ，私は丹下君などがそれ以前の人たちと運命的に一つの断層をもっているような気がしてなりませんでした。私はおそらく前の人たちにちかいカテゴリーに入るのでしょう。しかしそうした人を傍に見ていられることはたいへん幸せだったと思います。

「現代建築」の編集に関係して，日本工作文化連盟の人たちに接する機会をもったことも私には幸せでした。とくに編集主任の市浦健氏にはいろいろな面で，例えば豊かな生活の仕方といった点でも，ずいぶん教えられる点が多かったと思います。

私の建築家としての形成はおそらくそのころのことに多く負っているのでしょう。戦後私は経済安定本部などに移り，7年間を建築家でなく過しました。しかし思いは常に建築にありました。昭和28年に建設省営繕局に移り，再び建築家になりましたが，そこで驚いたのは若い人たちのプランニングへの新らしいアプローチの確かさでした。私のその後の建築家としての形成は主としてその人たちに負っていると思います。

逓信省にいる時，山田守さんから教わった芭蕉の次の言葉がいまでも私には忘れられません。「不易流行」という言葉です。新らしい言葉でいえば「リアリティの追求」ということでしょう。私自身に関するかぎりはこれを今後とも方向としてもっていきたいと思っています。

坂倉準三建築研究所大阪事務所
西　沢　文　隆

1. 作家としての転機について

私は一つのスランプ状態を経て極端から極端へと飛躍して行くという性質ではなく，一歩一歩積み上げて行く方であるから，ご質問のような華麗な転機というものはない。お答えとしては私のささやかな遍歴の跡を記すより仕方あるまい。

Ⅰ）建築家を志すに至った動機―高校時代

いよいよ大学の志望を決めるに至ってから，さて何になるべきかと考え，自分に不適当と思われるものを除いて行くと建築科だけが残った。これより他に取る途はなかった。当時芸術家になるつもりであった。担任の先生が丁度建築家で小生を呼び出し，「芸術家になるつもりで建築科に入ったら大間違いだ」といって叱られた。その意味を解するに至ったのは，大学に入ってから一年以上経過してからのことである。（この先生は間もなく夭逝された。今にして会えたらとつくづく思うのである）

Ⅱ）現代建築精神の認識と批判―大学時代

近代建築精神なるものを叩き込まれ，漸くにして，先ず先生の言葉の意味がわかってきた。しかしそれはむしろイズムとしてであり，概念としてであって，本当のみづみづしい近代建築精神の断面に体を浸せたわけではない。「近代建築精神批判」なる卒論を書こうとして Deta を収集し始めたのは，とくに盲人蛇におぢすの感があった。したがって Corbusier の Planning のうまさ，Elevation との結びつけなどがわかったつもりでも，ほんの皮相的なものにすぎなかったわけである。

Ⅲ）生み出すということの体験―卒業，入所

大学三年の時に設計事務所に入ることは決めていた。しかし誰に師事するかという段になると迷った。迷うというより，結局どこもなくて当惑していたのである。丁度そのころ坂倉がパリーから帰って来ていたのである。当時新京の都市計画をやっていて，浜口さんから手伝に行ってみないかと勧誘を受けた。そして通いはじめこの人こそ師事すべき人であると思い定めたのであった。1940年春，ただ一人の所員として入所した。ある日坂倉は微笑しながらいった。「丁度植物と同じように建築も一つの有機体であるから，どこを切っても汁が出るようでなければいけない」――しかしまだよりどころもなく漠然としていて，本当の言葉の意味が判ったのは後

々のことである。——今でも判るために努力しつづけているといった方が適当であろう。Le Corbusier の作品集もその時に至って見直され，始めて真の意味での役に立ってきたのである。

IV）合理主義精神—Periand の来朝

合理主義の意味が判ったのも坂倉に師事してからである。Periand 女史の来朝はそれをもっとはっきりした形で私の前に呈示してくれた。造形性と合理性は表裏一体となり不可分なものであった。中にはほほえましいほのかな誤りも発見された——にもかかわらず筋は通っていたし，事実美しいものであった。当時煉瓦造の家を設計していて，法規上のバットレスでにっちもさっちも行かなくなっているのを見て，なぜバットレスをつけるかと切り込んで来た。そして母のために設計した二つの平行した曲面でできた家のスケッチを提示してくれた。

V）日本的なるもの—大東亜戦争，終戦後の混乱期

紫禁城，アンコール，ボルブドール，そして伊勢神宮のプロポーションの研究，桂離宮の比例，木造木割の比例，比島の山中では大自然の中に程よく散在した民家——四本の太い丸太と竹製 Panel によって組立てられた——をしげしげと眺めた。

終戦後，大阪にあって木造の組立建築の手伝いをした。上村松園邸は戦後初めての本建築であった。それを機に改めて茶室建築の勉強をやり直し，書院造を眺め，木造建築のもつ日本的処理法の美しさ，その空間構成の在り方など研究した。

VI）庭園の研究

このころ私はよく病気した。過労がたまっては倒れる。倒れると少くとも一カ月はかかった。労働には不適当だが本を読むには差支えない程度のものであったので随分と本を読む機会があった。森蘊氏の「平安朝時代の庭園」を本気に読んだのはこのころであった。それは庭園への異常な興味を与えてくれた。それを機に片っぱしから庭園の本を読み，丁度名園名庭めぐりの会があって，毎日曜に写真機をもって観賞に出かけた。建築の Space の延長としての庭園，さらに庭園それ自身での一つの空間生成——それは建築を造るごとに周辺の庭園造成に役立つばかりでなく，建築自身を庭園化することに役立ったし，のちほど Augsburg へ贈呈されることになった Diesel の記念園造成にも役立つこととなった。

一方イタリア式庭園を初め支那庭園，印度庭園など世界各国の造園にも強い食慾を生じ，見付け次第読みふけった。

VII）Constructive Design 次々と入ってくる若い人々からの刺戟もあった。Mailart や Nervi の作品などが入ってきた。新らしい空間獲得の方法として新らしい構造造型への意欲は世界的にもり上っている。

VIII）Mies van der Rohe

Lake Shore Drive，Farnsworth 邸，Manheim の劇場競技設計など，渡米後 Mies の発表する建築にはとくにショッキングなものがある。その冷厳な空間性に打たれぬものはあるまい。

IX）Le Corbusier

戦後次々と発表される Corbusier の作品にはどこか寄りつき難い皮膚ざわりがあった。むしろ第三巻あたりの方が親しみがしてたのである。ところが実物をみて驚いた。1957年 Diesel 記念園造成のため渡欧して，始めてその実物に接して打たれた。これこそ20世紀の建築作品として未来に残るべきものであったのである。かつて感激した Swiss Pavillion などはその前には影が薄れた。それはむしろ悪い意味での現代建築の範疇に属すべきものではないかと思われたほどである。素材はゴシック寺院のように立派ではない。しかしそれは正に現代のものであり，しかも堂々と対抗して建築的に遙かに優れたものである。不幸にして Rohe のものには未だ接していないがやはりそのように堂々たる現代性を有しているのではあるまいかと思う。（Paris のユネスコは Paris における唯一つ Modern 建築であるが，悪い意味における現代建築性をも蔵している）——かつて私はそのあくなき造型性のゆえに Gandi に憧がれた。Spain を訪れたのも Gandi の作品に接することが主目的であった。それは確かに Spain の風土についたみごとなものではあったし，現代建築にともすれば不足勝ちな Organic なみごとさはあったけれども，Corbusier の Ronchamp の教会や Marsailles のアパートに接した後では影がうすれてしまった。——すでに過去のものであったのである。

2. 本当の建築を造りたい。もちろんわが国の人間である以上，わが国のよさはにじみ出なければならないが，それはあくまで現代建築の倫理の上に立ったものである必要がある——この点（日本的という点で）最近の丹下氏の Detail の処理方法には疑問をもつ——本当の建築とはそれがたとえ廃墟と化してもますます美しさが加わるというものでなければならない。昔のような豪華な素材は使えないことはもちろん前提において。

好きな作家というより本当の作家といえばLe Corbusier と Mies の二人を挙げる。

作　品

KK 竹中工務店福岡支店設計部長
岩　本　博　行

1949


①

1950


②

1951

1952

病気療養中

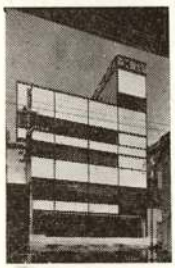
1953

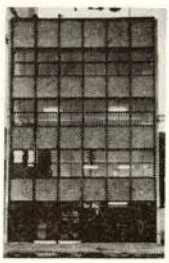


③

1954

1955

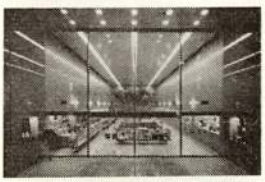

④


⑤

1956


⑥

1957


⑦


⑧

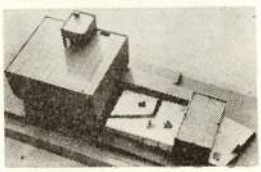
1958

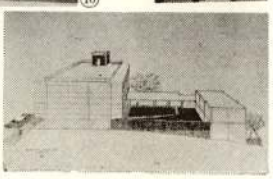

⑨


⑩


⑪

1959


⑫


⑬

1949年　北税務署①—入社後17年目の処女作である。上司に，石川純一郎，広瀬初夫，小川正氏がおられ，その影響を受けていた。それまでは戦争にも行っていたが専らドラフトをやっていた。私の情熱は文学と絵に向けられていたが，その焔はいやにめらめらして青白く低迷するばかりで効果がなかった。恨み多い青春であった。

1950年　アメリカ博産業ホール②—同じ時期に神戸で日本貿易産業博覧会があった。丹下健三，池辺陽，山口文象氏らの作品に接する。私の建築開眼はこのころからであるが病気になった。

1951年　西宮ハイツ⑪--すでに府営アパートが6棟建っていた。戦後の疲弊はまだ深かった。綜合計画を建ててみたものの夢のようなペーパープランであった。今はアパートの群団に充ちているが，それにしても綜合計画がほしかったと惜しまれる。制作意欲のさかんな時期だった。

1952年　こあのある住宅⑮—Mies van der Rohe の Farnsworth 邸に深くうたれる。このころからこあしすてむの住宅が日本にもあらわれるのであるが，そのはしりである。いきなり喰いつくその軽薄さが恥しいと思うが，ミースのオリジナリティを深く心にとどめた。病気療養中であった。静思する時間はあり余っていた。日本の木割とミースのプロポーション（例えばLake shore drive），一室主義の簡明直截な日本のプランとミースのプランの共通性，モンドリアンと例えば京都御所の真壁の表現，ノルの自邸，直線と平面，これらがたえず私の脳裡に去来し積み重った。この時期が私の一番大きな転機であろう。以後私の作品はそれらの範疇に属するものが多い。

1953年　論説「design について」を書く（建築と社会6月号）。住宅D邸⑯—この計画案は実現しなかったが，私の住宅造形の基本みたいになった。

1954年　OS劇場③—病気中に考えていたことがはじめてここに表現される。直線と平面，単純率直が基本になる。

1955年　奈良商工館④・OSパーラー⑱・住宅案⑲⑳㉑㉒㉓—病気中の考えが積み重なりかたまってくるのである。

1956年　関西電力計画案㉔—今までの気持に惰性を持ちながら，新しい何かがほしかった。このころ岡本太郎の縄文土器論があり丹下のコンクリートの表現があった。私の気持もそれにのっている。このころたまたま村野藤吾先生のお教えをいただく機会があった。旱天の雨露のごとく身にしみた。この時のお言葉の一端は1951年の「建築と社会」の7月号にも見られる。私の考え方にミースの真似が沢山ある。「70をすぎた老人の考えを若い人が何故真似るのだ。恥しいね」と先生にいわれ赤面した。心の動揺が大きかった。

1957年　和光⑦—表現しないまたはできない時期であった。茶室⑧をやってみる—簡素でリッチなこの伝統に私は何かを得たはづだ。

1958年　広島朝日ビル⑨⑩・大阪Aビル㉖・K市Qビル㉗—次第に表現的になってきている。はじめて曲線が出てきた。福岡建築資材展示場⑪—またミースが出てくる。この表現にした方がしなかったよりよい。表現を失った時，またできにくい時，切り札になるのがミースである。

1959年　恩給会館⑫⑬—工事中であるが，計画は1957年のものである。今年これを手掛けるわけであるが，detail に表現的なものが加わると思う。

計画案

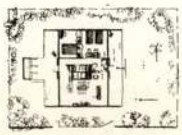

⑭


⑮


⑯


⑰

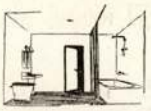

⑱

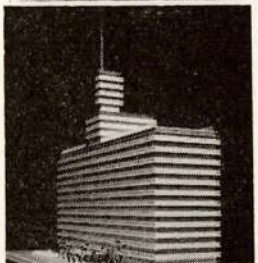

⑲

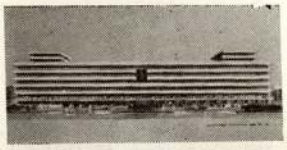

⑳


㉑

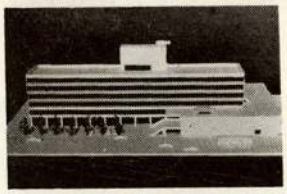

㉒

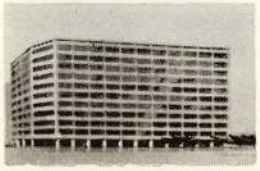

㉓

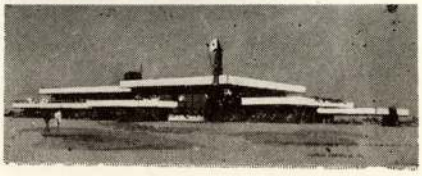

㉔


㉕


㉖


㉗


㉘


㉙

Mゴルフクラブ㉙—丁度到達している表現である。幾何学的表現と有機的抽象性，合理と不合理リアルとロマンス，人間の実際と真実性（または純粋性），自然と人工それらの対立と結合を，人間を土台にして自然に入ってゆき，人間に還して表現してゆく，もっと率直にいうなら人間を物質化した建築（—矛盾した人間を矛盾のままに表現した建築）そんなものを創りたい。そんな考えである。

最後に—私の尊敬している作家は，外国では Mies van der Rohe Le Corbusier。日本では村野藤吾，丹下健三。

東京工業大学助教授（滞米中）
清家清

1. 君子は豹変するといいますが，まして君子でもないものが，そんなに突然変るわけでもありません。近頃転向論などというのが問題になっていますので，あるいはそのようなことも考えられるかもしれませんが，私自身にとって，戦前——といっても学生時代から，戦中の兵役にあった期間，そして戦後にかけて，それほど変ったような気もしません。むしろ荏苒（じんぜん）時を空しくしたような気がしてならないのですが，暦年からいえば十年一昔といいますので，十年ぐらいをペリオッドと考えると建築に志をたててから二つくらい転機があってもよいのかもしれません。

強いていえば，谷口先生の助手をして，例の馬籠の島崎藤村の記念堂とその附属舎のお手伝いをさせていただいて，戦塵を流したのと，それからさらに10年後グロピウス先生のもとで，協働というものの価値と，それから教師という仕事が，どれほど大切なことかということを悟らされたことなどが，転機といえばいえるような気がします。

少年時代，絵かきになろうとしていたのですが，母校の中学（現在の兵庫高校）は，開校以来五十年間に，美術学校へ入ったものは四人，という野蕃な中学で，絵かきなどは以ってのほか，余儀なく建築家になったような仕儀。これなども転機かもしれませんが，機はいつも他力本願で，戦争が始って，その建築家になることもあきらめて，敵米英撃滅に身命を賭したのも転機，それがさらに敗戦によって，またもや，他力による再転を余儀なくされていることになります。

2. 機能主義に対する反動が生れています。新しいバロック建築が始っています。構造のアクロバットやモダンアートが，アカンサスのファサードに代替して反動化しています。現代的な表現ですがバロック的な表現と共通するものがあるのではないでしょうか。生存競争のはげしい階層では，目立つことが必要なので，目新しいとか，変っているとかというようなこと，甚だしい場合には気ちがいや低脳の作品のほうが芸術的価値が高いと思われるようになっています。こういう傾向に対して，民衆は建築家，あるいは芸術に対して不信を感じはじめました。真面目に建築を考えている人達のグループが，気狂いじみた「前衛」ではないとしても，みんなで一緒になって，より人間的な機能主義レアリズムに立った，よいものをつくりだそうと努めています。

早稲田大学助教授
吉阪隆正

「転機」ということについて，とありますが，自分では一つのみちを進んでいるので，果して転機があったかどうか，自覚はされません。他人が見たら，あそこから変ったということは，いってくれるかも知れませんが。しかし，私の人生全体の上では，長期の旅行をするたびに，何かしら新しい世界を見るようになっているかもしれません。

大学を卒業した当時は，雪のことが大きく仕事の上には支配していました。そこへ兵隊という長期欠席があって，帰ったころには日本は廃墟となっていました。都市計画が大きな課題としてあらわれました。それが次第に住生活という方に向いて，そんな方の研究を専らするようになりました。この辺では今和次郎先生の影響が強いでしょう。

そこへ降ってわいたようにフランス政府の招待が私をコルのもとへ連れていってくれました。今さらコルのところへと考えていたにもかかわらず，そこに惹きつけられてしまったのでした。この間も住生活の問題はくすぶり続けていましたが，それを形に表現することの大切さをコルは教えてくれたといえます。

日本へ帰って見たら，大分生活も安定して来て，何ぞ設計を依頼する人もあらわれ出していました。今の若い人達のように卒業後すぐに設計の機会に恵まれるのとは大変な違いですから，大変ぶきっちょな進め方です。しかし10年間，とにかく考える方が多かったということはけっしてマイナスとは思っていません。ことに大学などというところでの教職との関連を思うときは，あまり器用で筆が走ってしまうより，本物がつくれるのではないかと思います。

その内，いつの間にか自然発生的に，よそのよい職場を捨ててまで，私と一緒に仕事をしてくれる人々が集まるようになりました。商売ではないし設計の仕事をとって歩くこともしないので，経済的にはみんな苦労をさせていて申しわけないと思いますが，よい作品をものしようという情熱にはほだされて，また私も彼らの手なしにはできないような立場にもあり，ここで集ったお互の力が，やはりお互に影響し合う結果を生んでいると思います。このことはコルの事務所にいた時も，世界から集った人々の力が彼を中心に結晶していったように，私もそうしたいと思っています。

まず城内君が，次に大竹君が，そして滝沢君が来て，ここ2年前くらいからさらにもう一つ若い松崎君と山口君

安井建築設計事務所取締役
佐　野　正　一

1. 創作をする過程では，作家の理念がすべての中心をなしていることを私は信じます。しかし技術的，社会的な条件の影響の多い建築設計の領域では，技術の進歩や経済背景と無関係な，そういう外的な事情に全く影響を受けない純粋な作家の理念などというものは存在し得ないと思うのです。

転機という言葉を，作品の傾向の転換ぐらいの軽い意味に解するなら，めまぐるしい技術の変化に当面している建築の場合には，一作ごとに転機だともいえるでしょう。転機という言葉とその回数に魅力を感ずる方は，そういう解釈を採られればよいと思うのです。

しかし私には，転機がそんなに生涯に何度もなければならないものなのか。そういうものが深刻がられたり，有難がられたりすることが果して意味のあることなのか大いに疑問をもつものです。

軽い意味でない私の定義に従うなら，私は転機というものを経験していないし，今後も経験するつもりはありません。

2. 北欧の国々のあまり有名でない方々の作品を気をつけて見ています。国土と人と作品の関係について私には教えられることが多いからです。

兵庫県　建築課
光　安　義　光

1. 学生時代抽象絵画に興味をもち，創作の深さに引きつけられ，同時に建築設計の喜びを見出すようになりました。影響をうけた作家；村野藤吾，コルビュジエ，アールト，ノイトラ，ライトなど。

2. 人間の結びつきの場を拡げ，その中に融けこんだ建築を創造することと思う。

すきな作家；ネルヴィ，丹下健三。

（前頁より）

が参加しました。みんなよい建築，すなわちよい生活，そして理想の社会をつくり上げる情熱にもえているのでおそらく今後ともそんな方向に発展し，そのようなものを提案し，実現させる機会を見出したいと考えています。小さくは私の理想を，研究室の人々の理想を，そしてそれがさらに早稲田の，日本のとのびて，世界の人々に何らかの貢献ができたら，喜んで死ぬことができるでしょう。

富家建築設計事務所長
富　家　宏　泰

1. 私の作家としての転機について

(A)　第一の転機

その時期；昭和26年京都大学講師を辞し設計事務所を開設する決心を固めた時。

その理由；京都大学卒業以来，棚橋諒教授に師事し建築に対する根元的な構造に対する先生の学風に多くの影響を受けた結果，多くの作家とは反対にむしろ，構造的な立場から設計に対処する習慣を身につけた。しかしアーキテクトとして建築と対決するためには大学の研究室を背景とすることなく，自由で独立した作家の立場に立たねばならぬことを知った。

その頃の作品；当時は構造体の経済的な設計法に没頭し，一連の学校建築の設計には，ある程度そうした意味での成功を納めたと考えられる。

(B)　第二の転機

その時期；昭和31年頃

その理由；ローコストの建築を追求することにより，建築の本質そのものをスポイルする場合にしばしば遭遇することに気付いた。また他の建築家または研究者の経済設計による作品を見ても，私自身の犯して来た誤りに近いものを発見できるように思われた。気づいて見れば何でもないことであるが，そして正常な建築家の立場としては至極当然なことであるが，私自身にとってこの転機こそは重要な出来ごとであった。建築の本質を追求することこそ，われわれ建築家の作家としての権利であり義務であることにめざめたからである。

その頃の作品；ぎをん「富美代」を始めとするかなり伝統的な数寄屋，観世会館，立命館大学本館など。

2. 現在の考え方および尊敬する作家

設計という仕事が非常に複雑多岐に渉って，とうてい個人のよくするところではないということは先刻承知の上であるが，多くの芸術家および技術者を指揮統合して，建築という一大交響音のタクトをふる者こそ建築家であると思う。作家としての建築家は第一に芸術家であることに変りはないと思う。私は建築事務所が大型化して行くのは止むを得ないとは考えるが，その組織が安易に株式会社になることを不思議に思う。建築家の立場をよく医者や弁護士にたとえる人があるが，医者も弁護士もその組織として株式会社を形成はしていないではないか。もっとも文壇の大御所といわれる人が映画会社の専務であり，有名な劇作家が興行会社の重役である世の中としてみれば，芸術院会員が株式会社の社長であっても

不思議はないのかも知れない。しかし若い建築家の中にこうした現象に抵抗を感じる人はいないのだろうか。

自由にして独立な——建築家——作品とか作風は別として，私と全く同様な建築家の像を夢みる作家として私は大阪の円堂政嘉君の考え方に共感をおぼえる。

工学院大学助教授
天　野　太　郎

1. ——時　期(i)

第2次大戦の最中の学生であった私は，建築の設計などはおるすにして，会津八一先生の東洋美術史に夢中であったようだ。われわれは毎日のように先生に親しんでその話しをむさぼり聞いたものだ。先生が古い芸術そのものを深く愛していたということが何より一番私は印象づけられている。それは物であって，しかも人が心をこめて創ったものだ。それを愛して止まないのだということを印象づけられているわけだ。

もうひとつ私は学生時代で印象の深いことがある。それは津田左右吉博士が東洋史学会という席で「東洋には思想というものがなくて，物が在るだけだ」といわれたことだった。これは少々西欧風な読書をやっていた私には，いかにも東洋に思想がないということは残念だったことを記憶している。しかし，これはかえってベルグソン流の物からはじまる強さを，反対に私に吹込んだようだった。

このような考えも，後で考えれば，実はよい時代の流れの中にある思想であったわけである。私はベルグソンを愛読していたのであったが，これも下から上への哲学といわれる奴で，会津さんや津田さんの考えとともにあるべき思想にほかならない。これらのことから，私は物を創ることの健康な喜びを一生もてる自信を得たといってまちがいない。

私にとって，もうひとつ重大な経験がある。それは家を焼け出され，あちこちを泊り歩き，何等の生活らしいものが出来なかったあの戦後のだれでも知っている経験である。住いがないということがいかに大変なことかということを思い知ったのである。それは帰納的に住いの重大さを私に知らしめたということである。

時　期(ii)

1949年，やっと東京でコンクリートの建物が建ちはじまった。そのころ私は，建物をどんなふうに建ててよいか，まだ途方に暮れていた時だった。遠藤新先生の作品を知っていた私は，彼がコンクリートの教会を建てるために手伝を望んでおられたので，何かそこで得られるだろうと思って，私は真っ先に志願したのであった。期待ははずれなかった。彼は私に日頃目で見て知っているだけの樹木とか丘とか，水とかいうものを建築の空間との関連で教えて下さった。また経験深い猟師がけだもののあらゆる習性を知っているように，人間が空間に示す習性を彼は語ってくれた。そこでの2年間の勉強で，私はこの日本における少数派 (Minority) の頭目のような彼から，シカゴ派に通ずる建築の思想を知ったようだった。

身を投じた理由

学生時代なにげなく，南沢の自由学園を誘われて見に行ったことがあった。それは全く一般人としてであった。その時自由学園の敷地のうねりと木々，芝生，そして建物が私という建築の素人に，何かその建築というものの完璧さを深く印象づけたようだった。その時はよりよい建物を実地に見て歩くことが，どんなに建築家を志す者によいことであるとか，建築の integral な感じというものが単なる一般人にどんなに心の満足を与えるものか，またそれが私が当時うつつをぬかしていたベートーベエンの sonata とか，牧谿の水墨とかの質 (quality) に近いものであることなどは知らなかったのだ。

私が彼を選んだのは chance もあったと思う。が，むしろいうべきことは単なる一般人としての私が彼を選んだということである。そしてまた私が一般人の目というものを今も尊重しているということでもある。

(iii)そのころの作品——河井邸

2.

(i)　遠藤新や F. L. Wright に教わって，何を教わったかといえば，やはり彼らが昔から伝え守ってきた建築に対する思想だといえる。私もこの人間の知慧ともいうべき思想の伝統は失いたくないと思っている。あとは私は私が生きている時代の私で，自から好むことを一生懸命やってみるよりしかたがない。

しかしまあ建築は Shelter であるということと，材料の性格を生々と出すことを当面の目標としてもいいと思ってはいるのであるが。

(ii)　好きな作家

アルバール・アールトォ
スバン・マルケリウス
吉村順三

(1959. 26. FEB.)

菊竹建築研究所所長
菊　竹　清　訓

1.

まだ転機を迎えるほどやっていませんが，強いて挙げれば，1949年の広島平和記念公園競技設計に落選したころではないかと思います。丹下健三案は決定的にすばらしく，それだけに一層打ちのめされもしました。

うまく表現できませんが，建築家としての態度というか，思想をもたなくては，というようなことを，しきりに考えました。おそらく伝統論をもって，おそいかかった川添評論に，すっかり参ってしまったのではなかったかとも思われます。あのころ新建築が出るのが，非常に待遠しかったことを，今にまだはっきり記憶しています。

それまでは，競技設計に落選することが，残念でたまらず，そのくせ落選することが判っていても，参加しようとする気持を押えきれなかったのです。

これ以後は以前よりも計画を大事にしようとしてきたように思いますが，競技設計もまた少くなってしまいました。

2. 好きな作家とこれから

やはり丹下健三の作品には，魅かれます。しかし同じ年代の大高正人，川添登には，とくに大きな関心と期待をもっています。

これからの方向として，空間にたいする設備の因子がもっと追究されてゆくのではないでしょうか。地下にかくされていた設備の諸機械は，人の目に触れるところに引出され，もっと能率的で，美しいものにデザインされ，建築の気候条件を調整していることを，強く印象づけるような方向にすすめられてゆくでしょう。

やがて，設備が構造と同じように，建築表現の分野に大きな影響を与えはじめてくるのではないかと思っています。

アンケートをかえりみて

1. 約80のアンケート依頼のうち，回答数は25であつた。回答者の現在の職場および年代についての内訳はつぎのとおり。

設計事務所	13	70代	1
大学関係	8	60代	0
官公庁設計部	3	50代	7
請負設計部	1	40代	10
		30代	7

示唆深いお答えをいただいたことを深謝し，読者諸賢とともに，一つ一つ深くかみしめてみたいとおもう。

2. 「作家としての転機について」

(i) 70代では（回答者はレーモンド一人だが）大正12年（1923年）の関東大震災のときが，その転機であるとはつきりあげられている。設計への影響は欧州の中世紀の伝統，1920年代の米国の建築技術，ライトの作風，日本の建築設計の原理であるといわれる。

(ii) 50代では，①大正時代後半の表現主義，②昭和はじめから昭和5，6年にかけてのグロピウスのバウハウスの影響，③昭和8年以降のモダンと日本風との影響，の3点にしぼられるのではないか。もちろん，一部は，第2次大戦後，建築は綜合体であるとの関点から，共同体による設計システムを考えたことを転機にしておられる。また，書籍でなく，作品の設計という実際の体験を通じて，第二，第三の転機をへて，設計とはとことんまで考えてやるべきだという人もある。

(iii) 40代では，戦前には「転機」というより，むしろ，コルビジエやマンフォード，武富英一，山田守，吉田鉄郎，吉田五十八，遠藤新，坂倉準三氏ら，関西では長谷部鋭吉氏らによる影響のように，職場や設計事務所での作風に多く影響されてきたといつている。したがつて「転機」というものがありとせば，それは，第二次大戦後であり，この時期に，より多く「建築のあり方」を考えるようになつたり，もつと「社会主義建築」に関心をもつたり，あるいは「自己が確立」したりして，「建築開眼」がみられる。大体昭和24年～28年頃。30年～33年の人もいる。また，請負施工会社を研究し，海軍での経験も通じて，建築の経済合理化を追求してきた人もいる。

(iv) 30代上層の人は，学校卒業期が戦争さなかであり，転機といえばもちろん戦後のことである。特殊かも知れないが，戦後，コルビジエやグロピウスのもとに直接協働することのできた人は，それが大きな影響になつているし，また，30代下層の人は，建築の本質追求や，競技設計につらなつて転機がみられる。大体昭和24年～31年頃。

(v) 一方，「作家としての転機」とは，そんなに重大に解する必要がない，建築家は作家というより建築の綜合的な企画者であつて，作家としての転機などとは評論家のいうところである。軽い意味では，制作の毎日が転機であり，建築の技術の変化が転機だという意見の人がある。これらは回答数の約1/5を占めている。

3. 現在の考え方とか，これからの方向ということについては，「人間・生活・社会」を綜合的に考えて設計できうる組織の必要性，建築を合理性をもつた自然なものとして理解すること等が50代の人の意見である。40代以下では，「自由にして独創的」なること，「正統機能主義」「経済的にしてかつ厳正なる建物」，「プランニングの厳正と機能に忠実」なること，「リアリティの追求」，「機能主義リアリズム」などの考え方がみられる。39代下層の人には，建築家は株式組織によらず自由にして独立性をもつこと，またとくに設備が建築表現の上に大きな影響を与えていく，という人がいる。

4. 現在，好きな作家については，外国人では，コルビジエ，グロピウス，ミースはもちろんであるが，イタリーとか，北欧の人の名がかなりあげられていることは注目される。すなわち，ロジャース（伊），デカルロ（伊），ポンティ（伊），ネルビイ（伊），アールト（フィンランド），ヤコブセン（デンマーク），マルケリウス（スエーデン）……etc。

そのほか，ライト，ブロイア，ベルスキー，ライデイ，マツクスビル，故ペレー，ノイトラ，サーリネン，etcがみられる。異色としては，ウツツオン（シドニー国立劇場競技設計当選者）と，ビリオ・レベール（トロント市庁舎競技設計当選者）がみえる。

日本では，村野藤吾，丹下健三の両氏はさすがに年代にかかわりなく多くの人が好きと答えている。そのほか芦原義信，谷口吉郎，吉田五十八，岸田日出刀，前川国男，竹腰健造，長谷部鋭吉，渡辺節，吉村順三，吉田鉄郎，山口文象，小坂秀雄，吉武泰水，横山不学，池辺陽，清家清。若い所では，大高正人，円堂政嘉，川添登の名がみられる。

（編集部）

彰国社新刊重版案内

新刊 **力学**
建築講座・3
執筆：田中弥寿雄　図と説明に工夫を凝らし構造設計及び計算の基本に役立つよう理論と実際の設計の結びつきを眼目とした好著です
A5判　226頁　上製　　定価　¥350　〒40

映画館
建築写真文庫・80
彰国社編　現代人の娯楽施設として重要な役割をもつ映画館の新しいデザインのものを写真により紹介した新改築に役立つ写真集です
B6判80頁　総アート上製　定価¥300　〒30

事務所
建築写真文庫・81
彰国社編　新しい形式のオフィス建築の中から，本書はそのすぐれたものを選んで収録しまた多くのビルの外観を紹介してあります。
B6判80頁　総アート上製　定価¥300　〒30

保育所・幼稚園
建築写真文庫・89
彰国社編　最近富みに保育所・幼稚園の利用度が高まりその施設の充実が望まれています本書はその施設の各種を紹介した写真集です
B6判80頁　総アート上製　定価¥300　〒30

重版 **建築耐震論**
建築学大系・19
建築学大系編集委員会編　執筆は，耐震構造論—梅村魁・安藤範平・酒井良男，振動障害—中川恭次・大築志夫と最高のメンバーです
A5判464頁　特製函入　定価¥1160　〒120

建築設備計画
建築学大系・23
建築学大系編集委員会編　宮川清・伊藤滋・井上宇市・木村幸一郎・武藤重郎・山越邦彦綾井九州彦・船津弘治・篠原隆政・桜井省吾
A5判504頁　特製函入　定価¥1250　〒130

歴史
建築講座・5
執筆：渡辺保忠・加藤角一　本書は建築の様式・つくり方の発達を理解し，これからの建築を考える基礎となるよう編集されています
A5判　232頁　上製　　定価¥350　〒40

日本篇
世界の現代住宅・6
小池新二・浜口隆一・阿部公正編　1954年度建築学会賞に輝く本シリーズは，わが国はもちろん，広く海外に及んでいる写真図集です
A4横判106頁　総アート　定価¥1000〒100

これからの住生活
塘一郎著　本書は高校・女子大の住居学の教材として書かれたもので，住居と生活，その合理化，衛生より住生活のあり方に及びます
A5判168頁　ビニールカバー　定価¥300〒30

東京都千代田区平河町2-11　電(33)営業-0293・2851　編集-1745・4523　振替東京173401



西長堀アパートの壁画を中心として

建築と美術についての座談会

出席者　(順不同・敬称略)

吉原治良二　(二科会々員具体美術協会)
白髪　一雄　(具体美術協会)
吉田　稔郎　(　〃　)
矢橋　六郎　(矢橋大理石)
池田　宮彦　(大阪建築事務所　社長)
西鴨徳太郎　(同　上　常務取締役)
諫早　信夫　(住宅公団大阪支所　次長)
元吉勇太郎　(同　上　計画部長)
藤原　巧　(同　上　建築部長)
小西　嘉夫　(同　上　設計課長)
司会　田村　敏夫　(住宅公団大阪支所　設計課員)
とき　昭和33年12月2日
ところ　西長堀アパート談話室

西長堀アパートの壁画

司会　住宅公団の西長堀高層アパートの玄関ホールの壁画も完成いたしましたので，これについてご尽力いただきました皆様方にいろいろと話し合っていただき，またもっと広く建築と美術の結びつきというようなことにも話が発展すればと思いまして，お忙しいところをお集り願った次第です。まず小西課長の方からこの壁画の制作のいきさつについてお話し下さいませんでしょうか。

小西　私は当初別の仕事を担当していたので，このアパートの設計には直接タッチしていなかったのですが，最初の設計で玄関ホールの壁の一面が硝子モザイクによる壁画になっていました。これをどのように扱ったらいいかなど考えていましたら，大阪建築事務所の池田社長の方から，大理石のモザイクでやりたいという申出がありまして，図案もいろいろと検討しまして，いつまで見

ていても飽きのこないもの，それにはアブストラクトなものがいいだろうなどと考えまして，池田さんを通じて具体美術協会の吉原先生に非常にお忙しいところをご無理申上げたようなわけです。

司会　では吉原先生これについてどうぞ。

吉原　この話しがありましたのが7月頃で，丁度私の関係しております具体美術協会の作品展をニューヨークでやる予定で，そちらの方へ行く準備で忙しい時でもあり，また作品の性質上，石の材質とも直接とりくむのでなければいい仕事ができないのではないかと思ってご辞退しようと思ったのですが，何か絵以外のものをやってみたいと思っていた際でしたので，この仕事に魅力を感じてお引受けしたようなわけです。しかしいろいろと仕事が多いために充分なことができず，平素から親しい白髪，吉田両君の協力を得ました。また矢橋さんとは以前お目にかかってもいますし，矢橋さんの手で完成された毎日会館玄関ホールの壁画も拝見していたので，協力していただけばできるだろうなんてずるいことを考え，原画で表し得ないところは口頭でもってやっていきたいと思っていました。ご承知のように，私の原画は色紙を手で引裂いて紙に貼りつけたもので，細かいところは白髪，吉田君に伝えて，制作の方は矢橋さんにおまかせして，ニューヨークの方へ発ったのですが，帰国後見てみまして私の考えていた行き方と少々違っていたと思われるところもあるのですが，かえってそれがより以上の効果が出ているところもあり，ともかくこれらの人々の協力で予期以上の効果が出ました。皆様のご期待に沿えなかったのではないかと思いますが，私自身としては絵をモザイクで真似るということでなく，石の性質が絵に訴えるものをと思い，大理石の中に御影石を入れる点に魅力を感じまして，これを使ったわけですが，このような面白さも，この壁画のある室にあとから備える椅子やカーテンなどによって効果が充分に出ると思う。また逆に効果をそこねてしまうかもしれません。理想的には最初から他のものの色などが決っていて，それに合せて考えていけるとよいのです。

司会　では直接制作にたずさわっていただいた矢橋先生に何か。

矢橋　今度の場合原画を渡されて，大体の意向を聞いて作ったのです。やはり作者自身がおやりになるのが一番よいのですが，私が適当に飜訳して第三者の立場で自己流に解釈するために随分と吉原さんのお考えと違った感じになったのではないでしょうか。

諫早　仕事は矢橋さんが直接やられたのですか。

矢橋　仕事をする時は自分でやるのを主義としています。やはり職人まかせでは駄目です。昔のように石でもって絵を画くのは，原画がそれにあわせてできているので合せやすいのですが，今度のような場合はそうではなく，貼紙の原画（コラージュ）を大理石モザイクに直すのですから，例えば原画の紙い貼紙のちぎったような側を御影石材に加工するにはノミではつり，直線の側はノコで引いたのです。御影石の表面は，石を割った感じということでしたが，薄いものでそういうことはなかなかむずかしい点があったので，ノミで叩いたわけです。作者と製作者とがピッタリと合って作者の意志通りできるということはなかなかむずかしいですね。自分でこれだけのものをやって見て，まあまあであったと思っています。吉原さんはどのように考えられたかしりませんが，このような場合ですと作者と制作者の意向というものが4分6分に歩み寄って，そこに見ていただけるものがあれば良いと思います。

吉原　協力の形としてはいろいろありますね。私はよく舞台装置なども頼まれてやるのですが，これなど職人まかせでもいい時がありますが，たいてい私がタッチする時は専門の装置家さんが飜訳してやってくれますが非常にうまくやってくれて案外な効果が出たとよろこぶ場合もあります。今度の場合，私としては矢橋さんの才能で生かされることを期待していたわけで，結果はよかったと思います。

小西　今度の場合は結果的にみてよかったと思うのですが，今度またやると最も常識的なやり方というのはどんなものですか。

吉原　絵描きの立場でいえば，やはり実施される方，この場合ですと矢橋さんの方に相談してこちらの無理も申し入れてやっていくというのが一番いいと思います。

藤原　原寸図は書かれたのですか。

矢橋　私が自分で引きました。この場合でも原画と感じが違いますね。

吉原　朝日会館の緞帳をやった時，織屋で原寸を書いたから見てくれといわれて見たのですが，縦の線を私は真直ぐに引いていたのが原寸では，ゆがんでいるのです。これは拡大するから，こういうことになるので，やはり原寸を引いて貰う場合はできてから一度目を通すことですね。作者の考えと大分違っていることがあります。

諫早　紙をちぎったところなんか，原寸じゃむずかしかったでしょうね。

矢橋　あれは紙をちぎる時に自然に出来た紙ですからそれでなければいけないということではないと思って，自然にやりました。

吉原　結構です。

矢橋　大理石の壁画をやって救われる点は，色ににごりがなく，それぞれの色が深さを持っていることです。自然物をマテリアルに使った時は，アンバラスがなくて非常にやりやすいですね。

諫早　赤い色はどこの大理石ですか。

矢橋　フランス産です。黄色はイタリー，淡桃色はポルトガル，黒はベルギー産です。この黒などは吉原さんの色でしょうね。真黒で深みがあります。

吉原　絵具では出ませんですね。このような黒の感じは。

藤原　大理石は磨かなくては本当の色は出ないのではないですか。

矢橋　磨かなくても大理石の色そのものは変りません。

諫早　室全体として，天井と他の壁との調和が非常にうまくいっていると思いますが。

池田　私もそう思いまして，設計を担当したものとして非常にうれしく思っています。

吉原　偶然の出合いといいますか，壁画の前に人が立ってもいい，植木鉢が置かれてもいい，また家具が置かれてもいい，思いがけない美しさが感じられることがある。

藤原　ところで，この図柄には何か意味があるのですか。

吉原　何も意味はありません。太い線が並んでいるので一寸，竹やぶを連想したり，人間が並んでいるのかと考えられたりするかもしれませんが，そのような意図はなにもありません。むしろ一切具象的な意味が入りこまなくてただの石の壁であり，しかも見あきのしない魅力ある平面であるようにと思ったわけです。

ユネスコ本部

司会　では西長堀アパートについてはこれくらいにしまして，最近吉原先生や西嶋さんは欧米を回って来られたことですし，矢橋さんはしばしば出張されているのですから，あちらの様子をお話し願いたいと思うのですが。

西嶋　私もパリーのユネスコ本部の建築を見ましたが，1957年の秋でしたからまだ工事中でした。この建築はニューヨークの国連本部が世界政治の中心であるのに対して，文化の中心を自負するフランスが猛烈な対抗意識を燃やして建てたもので，古いパリの真中にぬっと立ったこの建築のシャープな姿はなかなか印象的ですね。

矢橋　設計は誰でしたかね。

西嶋　アメリカのマルセル・ブロイヤー，フランスのベルナール・ゼルフェス，イタリアのピエル・ネルヴィの共同設計で，ウオルター・グロピウスや，ル・コルビュジェなども関係しています。設計もこのように国際的ですが，全世界に亘る現代芸術家たちによる壁画，彫刻庭園の制作がこの場合大きな特色でしょうね。

司会　その芸術について吉原先生何かご感想を。

吉原　世界中のモダンアーチストが参加しているといった感じですね。いろいろと話題になっているようですが，講堂の内部ホールにあるピカソの壁画など立派なものですね。いろいろな形をした人物が，デホルメされて画かれているのですが，いいものですね。ただちょっと照明が暗いのが惜しいですね。本館の入口の方にヘンリー・ムーアの大理石の彫刻，これは台石の上に四つの抽象的な裸婦の彫刻を置いたものですが，これなども立派ですね。それから講堂の横にあるミロの壁ですね。これは2枚のタイルの塀でT字形に配置されています。

矢橋　大きさはどのくらいですか。

吉原　大きい方が（15m×2m）位，小さい方が（7m×2m）位で，それぞれ〝太陽の壁〟〝月の壁〟と呼ばれているようです。タイルに絵を画いて焼いたもので継目はありますが，成功していますね。

諫早　イサム・ノグチの庭園はどんなですか。

吉原　日本から庭師を連れて行き，石や木を持って行って造っています。岩が中心になっていて，中央に池をもち，桂離宮のなぎさのように小石を並べたりしていますが，なかなか話題になっています。

西嶋　私，ヴェニスで見たのですが，大理石で作った壁……いや壁画というより，大理石そのものの地模様を光を透して見せるのです。具体的に申しますと，壁面に沢山の電灯が仕組まれていて，これを大理石でカバーしているのです。そして，その部屋の電灯を消しますと，ステンドグラスのような感じで，光の地模様が大理石の上に浮き出るのです。これなど，イタリーだからできた芸当だと思うのです。矢橋さん，このように光を透すためには，石の種類にもよるでしょうが，どのくらいの厚さにするのでしょうか。

矢橋　大体厚さ4分くらいで僅かに光を透しますね。

香川県庁舎，東京都庁舎など

司会　では，庭の話が出ましたところで，目を国内に向けまして，その庭が問題になっている香川県庁舎などについて諫早次長どうでしょうか。

諫早　私，学会の時に高松へ行ったので見て来たのですが，コンクリートの打放しの庁舎の一階ピロッティに続く庭は，築山と池と石が日本的造形的に配置され，非常によくできていると思いました。あの池の中の巨大な石は，丹下さんと知事の2人が石山で見つけてはこんで来たそうですね。巨石をポカッと割った鋭い角と肌を生かして組み石として立っている，これが素ぼくな打放しの建物とよく調和していて面白いですね。ところでやはり同じ丹下さんの作品ですが，例の東京都庁舎の壁画について何か。

小西　岡本太郎さんのテラカッタ絵ですね。「建設」という題名がついていました。やはり都庁舎として都民の近代都市建設の意欲を表現されたのでしょうね。新建築の6月号に岡本太郎さんが「純粋芸術と建築の結合」

という題で書いておられますね。はっきりは覚えていないのですが，建築と純粋芸術の協力という時に，芸術は単なる装飾ではないのであって本質的な協力ということは相互の徹底的な自己主張の討論によって，建築の合理性，機能性に対して，芸術の非合理性をつきつける。そして，芸術が純粋でありながら高度なハーモニーをもつ生活空間がつくられるのだというような意見だと思うのですが。

池田　私は建築家とか芸術家とかいって分けて考えるのがおかしいと思います。これは煉瓦積が日本に入って来た時からの誤謬で，建築家とか画家とか彫刻家とかが別々にやっているから，先のような話しになるのであって，エジプトやアッシリヤにおける寺院建築や宮殿建築以来，これは本来は一緒のものですよ。ローマ時代なんかを見ると個人の住宅も壁は全部絵で覆われていた。漆喰壁の上に Tempera, oil などで直接に画かれているようですね。

司会　ギリシャ建築などを見ると，Parthenon をつくるのに単に Athena を入れるべき家として考えるのでなくて，彼等の崇拝する対象は Parthenon 全体であって，できるものなら一つの大理石からこれを彫り出したいというのがその願いであったろうといわれていますね。後世ヨーロッパ人が，建築，彫刻，絵画を姉妹芸術と呼ぶに至った根本観念は，すなわちこういったところに端を発しているわけですね。

小西　現代建築になって，徹底的に合理性と機能性を追求したために，建築に絵画彫刻などが取入れられるのが少くなった。その反動として近年再び芸術意識が呼びもどされたということでしょうかね。

司会　メキシコの壁画運動というのですか，ともかく政治革命後に1920年頃から興った芸術革命はすばらしいですね。メキシコの民族運動に端を発しているだけに，民族と民衆のなまなましい現実をすさまじい迫力で描いて，あらゆる公共建築を絵画で埋めつくしているそうですね。もちろん現在は親米的になっていますから，自ら土くささというものはなくなりつつあるのでしょうが，ともかく，当時20才台の建築家のグループがその先頭に立って建築運動を推進して行ったこと，そして例の有名な大学都市における図書館など当時27才の青年建築家オゴールマンによって設計され，しかもファサード全面が彼自身の手になるモザイクの壁画で覆われているなどは，正に壮観ですね。

ところで街角の芸術というようなことについて何か。

街角の芸術

諫早　公団も段々と大団地開発をやるようになってきましたが，そのコンミュニティ・センターには野外彫刻などで飾りたいものです。今建設中の香里ニュータウンのセンターには，都市美協会の方から彫刻を寄附していただくことになっています。

吉原　なるべく新しい，いいものをやって貰わないとかえって目障りになりますよ。

諫早　街の中心にはどうかと思うようなものがありますね。

小西　守口にありますね。

矢橋　今度東京の白木屋の角にヴィエンナーレでグランプリをとったグレコの彫刻を——これは富永惣一さんが持って帰ってこられたそうですが——坂倉さんの設計の台の上に置くのですが，これなどはいいですね。卵型をした台で高さは像ともに10尺以上になります。三越のライオンに対抗しようというつもりでしょうが，ライオンよりずっといいですね。

諫早　街の環境に合ったもの，建築に合ったものでなくてはならないが，日本の街は雑然としていて，街全体から彫刻を生かすようなふんいきになっていないですね。

池田　街のふんいきをよくしないと駄目ですね。看板が多すぎますよ。

元吉　額縁が悪いようですよ。もっともっと環境をよくしなくては駄目ですよ。

諫早　中之島で野外彫刻展をやりますが，私よく見に行くのですが良いものがありますね。

吉原　梅田駅前に二科会が宣伝のために展覧会前日に彫刻を並べたことがありますが，駅前が非常に面白くなりましたね。彫刻もいいですが，団地内のアクセサリーを美術家にやらせるとずっと楽しくなるでしょうね。それも常識を破ったようなものの方が面白いでしょう。建築家がその場所をみつけることですね。

諫早　幼児遊園地用のプレイスカルプチヤーもいろいろある。団地名の標識なども美術家に協力して貰ってやるとよいと思いますね。

元吉　そのようなものをやる余裕が出てきたということですな——。

矢橋　絵画きや彫刻家にもっと仕事を与えることですね。

西嶋　そのためには，ある程度の予算を，前もって見込んでおくことが必要ですよ。フランスでは工事費の1%は装飾のために使うようにという法律があるそうです。ユネスコの場合は3%になっているとか聞きました。

元吉　日本ではいわゆる大家というものが，こういうことにはのってきませんね。新しい建築はそういったものを受け入れるようにできていますがね。

吉原　新しい美術家が要求されているわけでしょう。

司会　ではこの辺で，どうもありがとうございました。

伊奈の タイル 衛生陶器

衛陶マーク

良質と量産を誇る

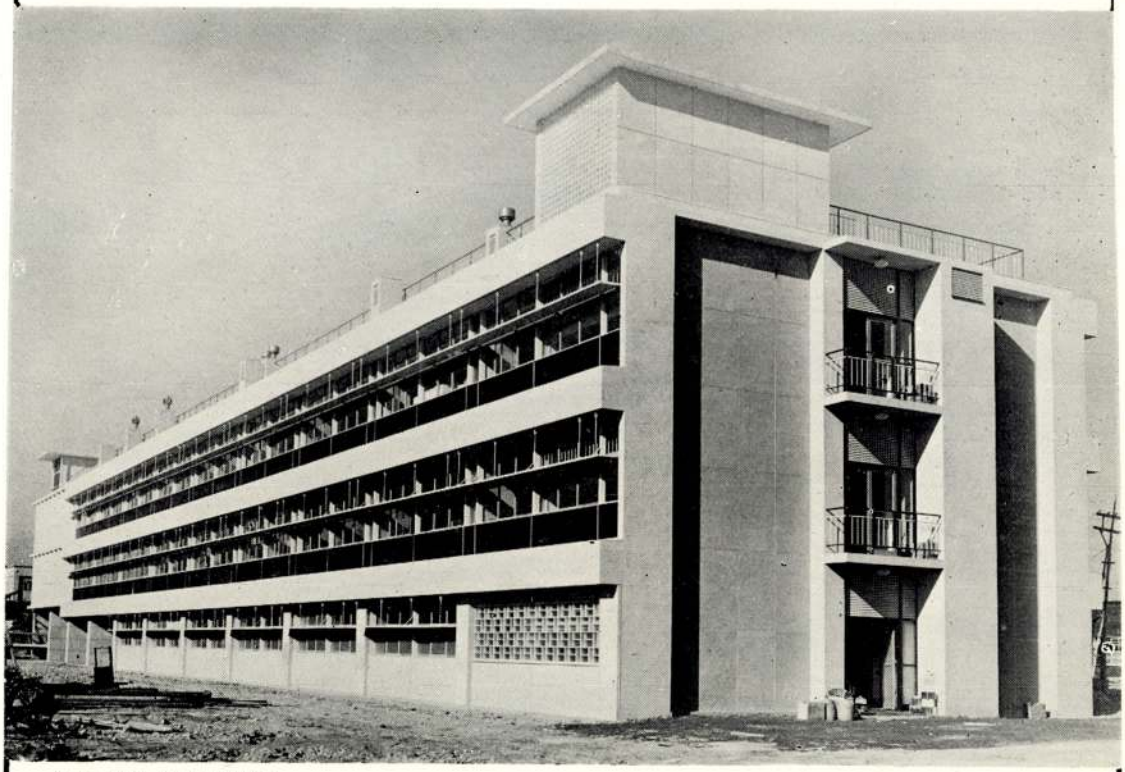
カタログ送呈

許可番号　第6428号

タイルマーク

IS

衛生陶器は JIS 表示の伊奈の製品を



名古屋市大基礎医学教室
設計・市営繕課
施工・大成建設
納品・CC130

伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電　(代) 7 0 0
東京事務所　東京都中央区西八丁堀2—8　電㈱5261—2・5921

NHN

あなたの忠実な…

ドアーボーイ!

型状優美
故障絶無

日・米・英・独、各国特許

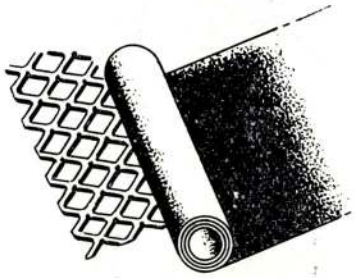


ニッカナ
ドアーチエック

日本金具製作所　製造元　ダイハツ工業株式會社

タムラ　最高の品質・新しい建築資材

壁下地材



日東ラスボード
日東ボード用プラスター
リブプレックス
ヨツメリブラス
ヤハズラス
ワイヤーラス
軽量鉄骨ラス張
フエルト・ルーフイング

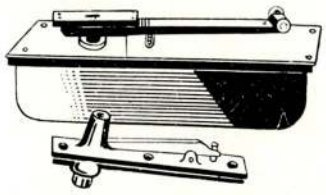
創業明治24年
貿易・木材・建材

田村商會建材部

本店　神戸市生田区栄町二丁目三九(安田火災ビル)　電話神戸③局0591—3・5092—3・0498
支店　東京都中央区八重洲一丁目一西河岸橋西詰　電話東京㊿局6181・6182

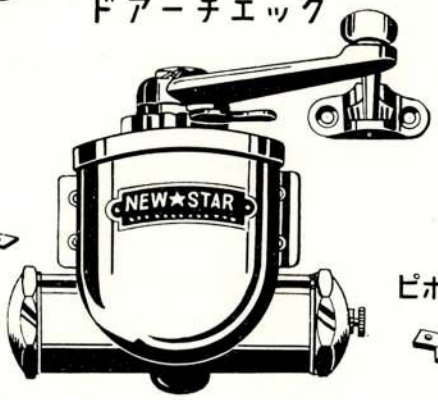
NEW★STAR

創業大正八年

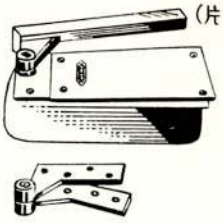


フロアーヒンヂ（両開キ）

ドアーチエック

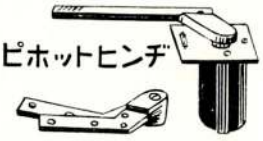


フロアーヒンヂ（片開キ）





ラバトリーヒンヂ



ピホットヒンヂ

輸出　本邦唯一

ニューヨーク・ロスアンゼルス・カラカス・バンクーバー・ロッテルダム・マニラ・シンガポール・香港等へ毎月輸出致しております。

日本ドアーチエック製造株式会社

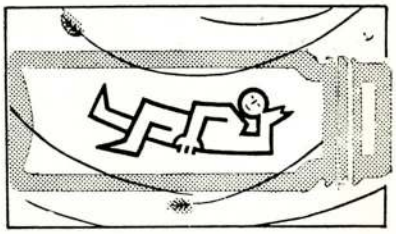
取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町3丁目11番地　電話大阪(72)代表6666－9
東京支店　東京都千代田区神田錦町1丁目23　電話東京(29) 1920・4920
福岡出張所　福岡市舟津町1番地　電話福岡(4) 2372・3312
名古屋出張所　名古屋市中区下園町1丁目5番地　電話名古屋(23) 7361

Golden BOARD

第3の材質

ゴールデンボード



魔法ビンの中の住心地……
冬暖かく夏冷しい理想的建材

ゴールデン インシュレーション

ゴールデン ハードボード

日本ハードボード工業株式會社

本社　名古屋市中区広小路通六丁目三番地

（代理店）　伊藤忠商事株式会社・安宅産業株式会社
三菱商事株式会社・住友商事株式会社

ハガキで御一報下さい。カタログお送り致します。

生きる建築・魂ある文化材

四ツ橋 カモア

断熱防音にスロール
下地不用のヤハズラス

アルマイト吸音板・化粧ベニヤ・ビニール製品・木毛板・フレキシブルシート

壁に張る－
天井用に－ 大建ウォールボード

液体のクギ 建築用 木工用 セメダイン

プラスチック
新建材各種 ナショナル雨とい

大阪・四ツ橋
株式会社 山本建材社
電話 (54) 1861―5 / 2131・2233
西区・立花通－すまいの用材店－電(53)2843

書評1　「現代建築を創るもの」　川添　登著



彰国社刊・300円・215頁・B6版

戦後の日本建築を真向から論じて将来の方向を，設計者の立場にまで立入って，しめそうとする労作である。

第1章は，世界建築の動向から説き起す。「インターナショナリズムは各種の民族主義の波にもまれて，形式的にも，内容的にも大きな変化を必要とした。P. 54」「現代建築の重要な課題は，世界性と民族性とを，機械と人間とを……和解させることである。（しかし）いかなる建築も世界性を犠牲にして，地方性を満たすのでは現代の要求に応えられない。P. 57」ここでいう世界性には機械の進歩もある。しかしそれ以外に，「民衆は日常の物質的，経験的な行為から，次第に世界史を把握する。P. 83」建築家は「この基礎のもとに，国民的な生産体系，建築技術，素材の中に，真の『伝統』を発見しようとする。P. 84」以上は全体を通じての主張でもある。

第2章では，日本の近代建築の歩みが述べられ，第3章で，将来の方向が論じられる。とくに第3章「生産的人間としての建築家」「建築の価値を生むもの」の2節は著者がジャーナリズムの中心にある人だけに新進建築家群の中から摑みだした，現代の意慾として傾聴に値する。個々の内容については，異論もあろうが，現代という困難な問題に対して，評価の座標系を一つ提示したことは，著者の労を多とすべきであろう。

難点は読みづらいことである。この本を読む大部分の建築家は，おそらく，多忙の余暇を惜しみながらであろう。その場合，読みづらさは，説得力の無さに，はね返える危険があるから。とくに，多岐にわたる論理の展開速度が，部分的に異り，飛躍とも思える箇所があるため，容易に理解し難い点もあった。

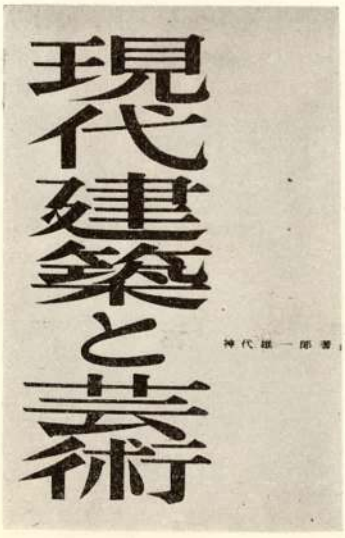
しかし，論旨の大要だけ読んでも深い関心をそそる本である。著者の計画される続刊を期待する。

（京都工芸繊維大学講師　相川浩）

書評2　「現代建築と芸術」　神代雄一郎著

芸術としての建築とほかの諸芸術—絵画，彫刻，生花などの関係を，現在の問題として述べた短編集。しかし，それぞれに大きな事柄を，簡潔，大胆に並べたことには，著者の目的があった。第1は，現代建築と諸芸術との，かかわりが，どうあるべきか，ということ。第2には，その前提として，建築および諸芸術がどこに向うべきか，ということ。この二つを具体的な例と，鋭い観察によって，活気に満ちた記述の中に暗示しようとしている。

彰国社刊・280円・188頁・B6版



第1章では，建築とほかの芸術とがそれぞれ独自の発展をしてきたこと。その事実と必然性。その結果として考えられる両者の関係。すなわち，中途半端な妥協でなく「対決しあい，強い迫力と効果を生む」べきことが述べられる。

第2章では，上記の短編が，第3章では再び，建築と芸術の「対決」の条件が，作者の緊張した「前衛精神」にこそ生れると述べられる。

また全体を通じて，記述の前面には出ていないが，芸術は今後，民衆と直接，密接な結びつきを求めねばならないとする。たとえば，床の間を追われ，美術館で人を集めえなくなった，生花や彫刻が，進んで人の集りの中に入ってくる時，「芸術の社会的綜合」があらためて，新しい形で求められよう。その場合，何かの意味で背景となる建築との関係が問題になる，と。

しかし，建築と諸芸術の「分裂でなくて綜合の方向をひろめたい。P.187」と願って書かれた本である以上，綜合の仕方が中心課題であろう。それについて，文中に散見する「対決，調和，妥協，アクセサリーに過ぎぬ」など，どうして，そういう結果になったか，単に作者の心掛けで決るのか，もう少し書いて慾しかった。

面白く読ませながら，感受性を豊かにしてくれる。もっと多く書かれ読まれるべき本の一つと考える。

（京都工芸繊維大学講師　相川浩）

建材審査委員会活動報告

昭和33年度における建材審査委員会の活動についてご報告を申上げる。本委員会は各種の建築材料を，申請に応じて審査し，優良と認めたものに優良証明書を発行しもって優秀な建築材料の普及助成をはかることを目的としているが，これは同時に設計あるいは施工にたづさわるものにとって，好箇の指針となるであろうことを信じている。

本年度における審査結果を総括すると，前年度に申請を受付けて審査が本年度まで持ち越されたもの7件のうち，優良証明書を発行，または発行に決定したもの5件不合格のもの2件，となっており，本年度に申請を受付けたもの11件のうち，優良証明書を発行，または発行に決定したもの3件，不合格のもの2件，審査中止のもの1件，現在審査中のもの5件となっている。審査の結果優良証明書を発行，または発行に決定したものは，1.アサヒラス，2.焼成ヒルコン（蛭石の焼成したもの），3.ゴーレックス（防水剤），4.ハッポウラス，5.スプレッドサテン（塗料），6.ポロン（撥水剤），7.ヘトロンボート（合成樹脂板），8.アロンフローリング（塩化ビニール床材料），となっている。

以上の材料を審査の結果，いづれも優良と認めたわけであるが，もとより建築材料の審査は極めて困難な問題を内蔵している。例を「ラス」にとれば，まず優良なラスとは何かということが問題となってくる。常識的にはモルタルのつきが良く，塗り上りが美しく，亀裂を生ぜず，耐久力があるというようなことであろうが，あるラスは腰が強くモルタルが落ちないので下地板およびアスファルフェルトを必要としないとか，モルタルがいやでも厚くつくので耐火的な壁ができるとか，あるいは強度が大で鉄筋コンクリート版に匹敵する強さの塗壁ができるなどいろいろの特徴をもったものがある。このようにラスの優良性というものも簡単に判定することはできないのであって，「このような箇所に使用する」として優良であるという結論になるわけである。したがって本委員会としてもこの点は充分考慮して，これこれの使い方をすれば優良であるというふうに，なるべく具体的に，使用するものが誤解することのないような表現法をとるようにつとめている。

またこれら建築材料の試験には相当な時日と専門的な設備と技術を必要とすることはいうまでもない。耐薬品性，耐候性，耐久性などの調査研究など，専門的な設備と長時日にわたる実験を必要とするのであるが，本委員会では審査の都度，これを小委員会に付託し，それぞれ専門の小委員の方々にこれらの実験をお願いしているので，そのなみなみならぬご労苦に対して衷心よりお礼を申し上げる次第である。また審査の過程においては，施工の実情，施工後の成績，生産工程などをも詳細に調査し，場合によっては試験的に審査材料を使用して，見本的に施工をし，長時日にわたって比較検討するなどの方法もとっている。

このように万全を期して審査をした結果，優良証明書を発行しているのであるが，その審査はなかなか困難であり，また優良証明書発行後，「事，志と異る」場合すらあって，われわれ委員として誠に苦境に立ち，われわれの努力が果して何かの役に立っているのだろうかとの疑問さえわいてくる。しかし，今日のように後から後から新しい建築材料が生れ，それらを使うことが適当であるかどうかについて，何らかの指針が必要とされる現況において，本委員会の活動も決して無駄ではないと思い，今後ともできうるかぎりの努力を続けていきたいと思う次第である。

本委員会として，願わくは会員諸子も建材審査委員会についての関心を高められ，あらゆる材料についての問合せ，研究依頼等を申し出られて，大いに利用していただくとともに，われわれ委員会の活動についても忌憚なきご意見をきかせていただくようお願いをして，本委員会の活動報告とする次第である。

（建材審査委員長 **置塩　章**）

出版委員会活動報告

① 「床の仕上」の出版に一年間を費してしまいました

② 出版委員会では何のお役も今日まではたしていませんが，近く災害委員会で編集の「鉄骨構造計算と実例」が出版されます。

③ 「床の仕上」に引きつづいて壁，天井におよんでみたいと思っています。

④ 建築協会存在の意義を高からしめるよき企画を進めたいと思っています。　（出版委員長 **高橋　慶夫**）

法　規　委　員　会　活　動　報　告

法規委員会においては，昭和33年９月５日第１回の会合を行って，本年度の検討題目について協議した。席上，法規に違反する建築が跡を絶たないが，これは法規が実情に合わない点があるためとも見られるので，現行の制度をどのように改めれば，違反の軽減に役立つかというテーマを採り上げるべきであるという意見も出たが，結局，この問題をも含めて，建築行政の合理化を計るため建築基準法を始めとし，建築士法，建設業法等をも対象として，検討を加え，現行規定の強化または緩和策を考え，かたがた法の運用，啓蒙面についても研究するということにきまった。そしてこのテーマを検討する方針として，まず重要な問題に焦点を絞り，これを堀り下げて検討することにきめ，まず具体的に何を採り上げるかを次回に協議することにした。

第２回の会合は昭和33年10月17日に行われ，前回にきめた重要課題の撰択を行ったが，その結果，建築基準法第55条のいわゆる空地割合の規定と取組むことになった。空地割合の規定は非常に重要な規定であると同時にいろいろ問題点をはらんでいることはご承知のとおりである。なお席上，山田委員より，大阪市の地盤沈下防止対策の一環としての冷房用地下水使用防止条例案に関する説明があり，参考までに本委員会の意見を求められたのであるが，本委員会としては，条例制定の趣旨に賛同するが，案の内容に立入った意見は差控えることにした。

第３回の会議は昭和33年11月20日に開かれ，前回にきめた空地割合の規定を中心とする討議が行われた。

たまたま，これまで何回か足踏み状態を続けた建築基準法の大巾改正の動きが次第に活発となり，次の通常国会に提案される見通しが濃くなってきているので，これともにらみ合せ，当局に対し，タイムリーに要望書を提出すべきであるとして，空地割合の規定の改正に対する具体的な意見書案の取まとめ作業を行った。すなわち，当時の建設省の改正案では，住居，準工業，工業の３地域内において原則的に30m²天引きする現行制度を廃止しようとする意図が察知せられたので，これをさらに拡大し，実情に即する扱いとするために，右に掲げるような要望書案を作った。

この要望書案は，本協会理事会の議決を経て，昭和33和11月29日建設大臣宛提出せられた。

建築基準法改正案は，現在閣議決定を経て，国会に提出されようとする段階にあるが，最終的な法案について仄聞するところでは，空地制限の規定の緩和に関する当初の考え方が幾分後退し，いわゆる 30m² 天引の廃止も全面的には行わず，土地の状況によりやむを得ない場合で，特定行政庁が建設大臣の承認を得て指定する区域内に限定されるもようであり，しかもその他の事項に関しては一切現状維持となっているので，本委員会が立案した要望書の趣旨も日の目を見る可能性は少いわけであるが，さらに将来に残された課題として，再検討せられる機会もあろうかと思われる。なお委員会は現在のところ法政正案の成立待ちといったところである。

（34.2.9　法規委員長　**恒岡俊行**）

要　望　書

建築基準法の改正に関し要望の件

建築基準法の改正に関して下記のとおり要望いたします。

1．建築基準法第55条第１項に対する緩和規定として下記趣旨の条項を新設すること

地方公共団体は土地の状況によりやむを得ないと認める場合は，建設大臣の承認を得て，条例で区域を限り，第55条第１項の規定による制限を緩和することができる。

理　由

建築行政当局の多年のご努力にかかわらず，違反建築が跡を絶たないことは誠に慨嘆にたえないところであります。違反建築のうちでもとくに悪質のものは無届のものでありまして，その原因は種々あると思いますが，空地制限に抵触するために手続のできないものが非常に多く，しかも地区的に集中して起る状態であります。

よってこの制限を地方の条例で例えば次のような緩和を行うときは，相当数の無届建築を正規のルートに乗せることができ，構造，防火など重要な建築指導を行うことができます。

1．商業地域内で過小敷地（100m² 未満）の密集しているところでは「7/10」を「8/10」に緩和する。

2．住居地域または準工業地域内で業務と住居が併用されている建物が密集しているところでは「6/10」を「7/10」に緩和する。　　以　上

上記要望申し上げます。

昭和　年　月　日

社団法人日本建築協会会長　尾崎久助

建設大臣　遠藤三郎殿

昭和33年度における事業委員会活動報告と新年度の抱負について

昨年4月鷲尾前委員長の後を引続いで，私が委員長の委嘱を受け，副委員長の尾亀清四郎氏ほか総員20名，若い方の多い委員会を結成して，毎月1回以上会合して協議を重ね，見学会，講演会，映画会，展示会，懇親会などの事業の企画実施に当り，ここに1年を経過した次第である。この間次に申し述べるような小委員会を設け，委員のかたがたにそれぞれ主査ならびに小委員をお願いして事業活動をはじめたが，担当のかたがたや，事務局のなみなみならぬご尽力によって，大体に所期の目的を達したものと思う。

1．新建築見学会（主査　山本義樹氏）

京阪神地方の会員にもっとも期待さるるもので，10回の見学会を催したが，学会，士会共催による新大阪ビル，読売テレビ，士会と共催による住友生命ビル，西長堀のマンモスアパート，ならびに関西テレビの見学会は人気を集め多数の参加者があったが，とくに新大阪ビルにおいては約300名の参加を見る盛会であった。異色のものとしては，11月5日に最近完成した新歌舞伎座と大歌舞伎を見る会を催したが，劇場の都合で参加者を50名に制限するのやむなきにいたり，多数申込のかたがたに対し抽せんによって参加者を決定したような次第で誠に心残りであった。この3月には三井ビルと大阪東映会館を見学した。

さて，新建築見学会については，従来関係各方面にお願いして，年2回新建築調査表を提出していただき半年ごとの新建築見学の計画をたてる資料としているが，なお一層会員のご要望に応えて，今後は竣工直前の建築のみならず，新工法により施工中のものも見学することにしたい。また，建築によってはこれまでのように竣工直前の建築を，工事関係者の説明により一順する程度の見学会でなしに，設計，施工，設備等専門別グループに分れて見学し，詳細な説明によって今後のよりよき参考となるようにしたい。つぎに，時間が許すなれば前に実行したことのあるように，見学会の後有志による座談会を催して，見学した建築についての感想を述べたり，意見の交換をしたら，たがいに稗益するところが多いことと思う。時には竣工後半年あるいは1カ年を経過した際，使用者，設計者，施工者ならびに第三者を混えた集りをえて，使用中の建物についての座談会を催してみるのも，よい試みではないかと思っている。新年度においてはなお構想を新にして実行につとめたいと考えている。

2．工場見学会（主査　山本茂氏）

工場見学会は建材工場を主としているが，工場の方からバスの提供を受けて見学にいく場合が多いが，時には参加のご通知があって不参する方があったり，参加者がはなはだ少人数で先方さんに申しわけなく思うことがある。それで33年の当初から見学会ごとに参加のひとびとからアンケートをとり，会員のご希望に添うた見学会を企画し，実施したつもりである。われわれ専門家が日常使用している建材はもちろん，新製品ならばなおさらに，製品の組成，材質，性状，大きさ寸法，製造工程等について，工場において実地見学して十分な智識をえたならば，今後その材料を使用する上に，大いにうるところがあると思う。33年度においては10回の見学会を催したが，とりわけ魅力のあったのは，9月15日近畿車輛工場のビジネス特急電車（こだま号）を見る会を催したことであった。申込者が殺到して断り切れずに困ったが，見学制限の人数を超過する72名のかたがたが参加，驚嘆に値する新鋭車輛を隈なく見学して誠に有益であった。本年に入って2月には旭硝子尼崎工場，3月には伏見の福正宗酒蔵と伊丹の東洋リノリューム工場の見学会を催すことにした。今後もアンケートをとり，多数見学者のご希望とご意見を基にした，ためになる見学会を企画実施する考えである。

3．古建築見学会（主査　井上　滉氏）

古建築見学会の企画については，当初京大の川上貢助教授のご指導の下に十分な資料を基に計画をたて日曜日を利用実施している。岡田建築事務所の岡田孝男氏，大阪市大の浅野清博士，奈良文化財研究所の杉山信三氏その他古建築に造詣の深い先生方の懇切なご説明を受け，四囲の風光と相まって楽しい趣のある見学会を実施してきた。昨年4月の京都大徳寺の茶室を見る会にはじまり，春秋の好季に4回，ほかに桂離宮と修学院離宮の拝観，これは毎年春秋の恒例の行事となり，会員から大変喜ばれているが，昨年は桂離宮10回，修学院離宮6回の拝観をおこなった。新年度においても新しい企画の下に春の花，秋の紅葉を探ねつつ，心ゆくまで京都，奈良その他の由緒深き古建築を観賞する機会を作り，会員のご参加を歓迎することにしたい。

4．新しい建材説明会（主査　矢野豊作氏）

各種説明会開催に関する内規が，昨年5月にできたので，なるべく広く建築材料，機械工具，または工法などについて，会員の便益を図り有意義な説明会を開催することにしている。33年度においては，プラスチックと木材の合成材および富士波長尺トタン板とラスシートの説明会を催したが，両会共相当の出席者があり盛会であった。新しい建材説明会としては，32年度においては塗料について催したが，そのご第2回は建築加工板をとりあげ着々準備中であるが，昨年は開催に到らず新年度を迎えたが，近く説明会を催す予定である。

5. 各種説明会（主査　内藤一真氏）

新しい建材説明会の項でのべたが，新しい建材のほかに，新しい機械工具，新しい工法などとくに会員の関心をひく説明会を実施し，また時には，実地見学会をかねておこないたいと思っている。この3月25日最近の地下工法（ペデスタルとコンポーザー）およびダイケンボードの説明会を催すことにしている。

6. 若い会員の集い（主査　三品哲夫氏）

若い会員がたがいに手を握って自分の本務の余暇をさいて，大いに協会のため働き，勉強もし合い，技術的にも，人間的にも向上していかれることによって，協会の隆昌発展が期せられるものと思う。私は若い会員あっての協会であるといいたい。その意味において事業委員会はとくに若い会員の集いを催して，その親睦と向上を図ることにしている。雑誌「建築と社会」においても，青年建築家号を特集しているのも，こんなところに理由がある。33年度においては，ゲストを囲んでの座談会，または見学会，研究会等和やかな楽しい会合を4回催した。席上膝を交えて，腹蔵なく意見をのべ，遠慮なくものをきくことにしている。本年に入って1月8日新春の集いとして，海外にいった青年建築家（京大の六車熙氏，東畑建築事務所の池田武彦氏）を中心とした会を催したが，58名の出席者があり有意義な会合であった。新年度においてはさらさらに研究を重ねて，若い会員の好んでご出席していただく，楽しくためになる会を催したいと思う。

7. 午餐会，懇親会

午餐会は以前には毎月催していたが，若い会員の出席が少く，年かさの常連ばかりの会合の弊があって，現在は特別の場合だけ催している。昨年6月24日竹腰前会長を囲む感謝晩餐会のほかに，10月13日建築会館開館記念午餐会を催して，中井市長の講演をきいた。本年にはいって1月12日新年午餐会を開催して，黒部峡谷その他の映画を観賞した。懇親会は毎年2回の定めであるが，夏の懇親会をとりやめ，忘年懇親会を盛大に催すことにした。旧臘17日あべのの唐崎寮で催したが，参加者が記録破りの230名という会場は立錐の余地なき盛況であった。例年のとおり関係先から多額の寄附金やかずかずの寄贈品をいただいたので，福引に，のど自慢，かくし芸などにぎにぎしく大成功裡に終宴することができた。この3月30日は協会の創立記念日に当るので，午餐会と有名人の講演をお願いすることに決め交渉中である。新年度も33年度と同様の方針であるが，記念午餐会においては趣向をこらすことによって，多数会員のご出席を促したいと思っている。次回は会員の余技展，写真コンクール，または競技設計の入選作品の展示会などを同時に催すこととし，いまから準備にかかることにした。

8. 講演会，懇談会

講演会においては，昨年9月13日学会，士会と共催による京大坂静雄博士の「ドイツの建物について」の1回，懇談会は4月17日大阪日ソ協会と建築4団体共催の「ソ連建築家を囲む」懇談会の1回で，はなはだ催しが少かった。新年度においては，著名建築家ばかりでなく，一般有名人を招いて，講演会や懇談会を催すことを計画し実行したい。

9. 文化映画会（主査　森田孝雄氏）

文化映画会については，会員の保有しておられる建築関係（施工の記録，あるいは諸外国の風物等）のムービおよびスライドのリストを作成し，ときどき貸与を願って観賞会を催すことを企画したが，なかなか協力を得られずまだ実現に到らない。新年度においては，よき映画を求めて，ときどき観賞会を開きたいと思っている。

10. 建築写真コンクール（主査　村上秀夫氏）

建築写真コンクールについては，募集規定を作り昭和32年1月末の〆切で，第1回の募集をしたのがはじまりで，33年度は4月末〆切で第3回の募集を行ったが，応募者がわずか8名で，作品28点の内5点を採用した。新年度は年1回とし6月末〆切で，第4回の募集をすることとし，優秀な作品は雑誌「建築と社会」の表紙にもちいることに決ったので，多数会員が立派な作品をどしどし応募されるよう望んでいる。

11. メートル実施の促進運動（主査　井上滉氏）

メートル法は本年1月より実施されているが，昨年よりこれに対処して小委員会を設け，よりよい研究中である。目下日本建築学会近畿支部でモデュール委員会を作り検討しているので，これに呼応して1日も早く完全実施に漕ぎつけるよう協力せねばならぬと思う。

× × ×

以上小委員会の33年度における活動報告と新年度の抱負について概説したが，現在事業委員会で実施している事業は，協会の本部を主としたもので，各支部を対象としたものではない。1昨年名古屋支部へ出張して原子力の講演会を催し，会員の増加を呼びかけたが，新年度においては，地方支部へ出かけて講演会にかぎらず種々の催しをして，地方会員の便益を図りもって地方における会勢の発展に寄与せねばならぬと思う。また，一般社界に対しても講演会，展覧会などの催しをして，建築に関する智識の啓蒙普及に努めたい。さて，事業委員会は8つの委員会のうちでもっとも会員に直結した多種多様の事業を担当している。本委員会の活動いかは，協会の繁栄に多大の影響があると申しても過言でない。新年度は委員を5名増員して25名となり，若い元気発剌とした方ばかりの集りであるから，なお一層魅力のある，しかも有益な事業を企画し，活発に実行して会員諸君の附託に応え，建築界はもとより一般社会にも貢献せねばならぬと意気込んでいる。幸に大方会員諸君のご鞭撻とご援助を切望する。

（事業委員長　**岩崎甚太郎**）

編　集　委　員　会　活　動　報　告

佐野前委員長に指名されて，編集委員長をお引受けしてから，ようやく一年近くたった。

指名された当時，引受けても大役がつとまるかどうかまよった。しかし，最近数年間の会誌を通覧して，〝建築と社会〟誌の一つの形と道ができているし，この分なら，ロボットでもやれるかもしれないという幻想をうけた。

昨年，前委員長の指導と引きつぎを受けつつ，青年建築家特集と八月号をまとめる頃，とにかくおよそ二年間の案をたてた。その間に事務局から，編集一カ月繰り上げがでて（ある月の号は，その月の一日には会員の手許に届くようにする。すなわちその前月の25日くらいには刷り上がること，つまり原稿締切りはその前々月の下旬最終となる）同時に本年の正月号をご覧のように特別の特集となったのにすくわれて，とにかく一カ月繰り上げて進んできている。

二年の案画とともに，従来固定されている幹事については毎号専門の方にお願いすることにして，その都度編集委員でない方でも適当な方にご無理願って成案して，編集委員会にかけてやってきた。

今までのところとかく勇気づけられてやったもの，編集委でたたかれたものほどよくできたかもしれない。編集委でもんだものほど熱が入っていると思われる。

ここで考えられることは，協会と〝建築と社会〟という会誌とのつながりである。会誌の本文はほんとうは，理事の巻頭言，各委員会の事業上の連絡と報告，会員の声，建材協会の報告などで，作品作風欄や記事は，これらをにぎわすものであり，広告欄は業界，材料界のニュースの提供の場であるとの考えもできるのである。折角会誌を出すなら，もちろん会員に役立つものをつけ加え，建築界の動きを知り，啓蒙，反省の場とすべきだと思う。学会誌でもなく，市販を目的とした雑誌でもなく，協会の目的にかなったものでなければならない。

かりに雑誌がよくなったといっても，もし，その部分だけがよくなったのならば，協会の活動が盛んになり，目的が達せられつつあるということの証明にはならない。

だから記事はもっと協会活動を示して会員の会誌であることにならねばならない。発行日の厳守も必要だと思う。私としてなおお引受けした期間がある。その間に協会活動の動きや会員の声をもっと発表し，また広告主へももっとP.Rしてほんとに広告主が，広告費を協会誌のために払って下さる価値づけをしてゆきたいと思う。

それにはやっぱり，理事，評議員の方々はもちろん，何といっても会員諸君の力づよい発言と批判を待つしか方法がない。ご叱咤を期待します。

また寄稿をいただく各位には，極めて短い期間に勝手なお願いをしておりますが，幸いそれによって会誌をかざることができますので，ここで厚く御礼申上げます。

なお編集理事，同委員の方々には毎月ご無理な奉仕を願っておりますが，今後よろしくご鞭撻とご指導を願います。

—34.2.15—（編集委員長　**塚本猛次**）

住　宅　委　員　会　活　動　報　告

前年度より引続事業として進行中の，カラースライド「家の出来上るまで」が概ね完成した。これは鉄筋コンクリート造の住宅を，整地工事から竣工までの工事過程を，カラー写真に撮影し，専門委員によって各種の用向きに編集したものである。詳細については近く発表する予定であるが，一般大衆にP.R.する材料であり，建築の学生に対しては要領の良い教材となり，また会員各位が研究資料として広く利用していただける内容を持っております。

次に今年度の委員会として，住宅に関する技術的および住い方の資料を，広く欧米各国の建築家と連絡を取って集める計画を立て，試みにスエーデン，デンマーク，イスラエルなどに働きかけたところ，彼らもこの計画をよろこび，積極的な協力の申し出があったが，相当経費を必要とする事業となる公算が大であるから，先般の委員長会議に提案して，何がしかの予算が与えられるよう協力方を要請すると同時に，具体的な事業計画の樹立に着手する段階となった。

特にイスラエルのSHIKUN住宅会社のレポートは本委員会で飜訳し，広く関係方面に頒布することにした。

（住宅委員長　**西嶋徳太郎**）

教　育　委　員　会　活　動　報　告

本委員会では，建築教育に関する調査・研究を行い。技術者の技能向上・知識の普及に資するため講演・講習会，その他の事業を企画・実施している。

本年度は昨年より開催している事業を継続実施することとした。

新しい事業としては前委員会より企画中の〝空気調和設備と電気設備〟を講習会として開催した。以下事業の概要を報告する。

講　習　会

第3回左官工事講習会

7月15・17日（2日間・8時間）131名受講

於大阪建設会館

第2回現場管理実務講習会

10月2日～11月29日（25日間・50時間）79名受講

於大阪建設会館

第5回鉄筋コンクリート技能講座

10月6日～14日（6日間・12時間）81名受講

於大阪建設会館

10月20日～21日　実習　於大阪生コンクリート㈱工場

第1回空気調和と電気設備講習会

空気調和設備　11月17日～19日（3日間・18時間）

電気設備　11月21日～24日（2日間・14時間）

122名受講　於大阪建設会館

第4回工高生デザインコンクール

工業高等学校建築科生徒を対象として，その設計技能の向上奨励に資する目的で，昭和30年より毎年9月20日〆切で全国の工業高等学校から応募をみている。本年のコンクールに関する事項は次のとおりであった。

- 設計課題　公園内に建つ公衆休憩所
- 応募数　26校　87点
- 審査会　10月18日正午～5時　岡橋委員長外4審査員で審査の結果，入選10作品を選んだ。（入選作品・建築と社会39集・12月号・P40～P43に掲載）
- 表彰式　11月7日2時～3時30分　入選者6名の出席があり表彰状・記念品の授与・審査概評・座談会を行い，終って岡橋委員長案内で住友生命ビルを見学した。

現場実習の指導

現場実習の実質的な効果を意義づけるためには，一定の方針で指導されることが必要であるとの観点から，昨年〝現場実習指導要領〟を作成した。各関係者のご協力を得て一応の成果をみたが，本年は昨年の受入側・学校側の要望を採り上げ，指導要領の内容に検討を加え昨年に倣い関係先に配布するとともに建築と社会7月号P78に掲載して協力をお願いした。こんごも研究・調査を行いたいと思っている。

造型に関する座談会

数年前から本委員会に小委員会を設けて，造型に関して研究してきた。本年も座談会を催して問題点を抽出することになり，8月24日3時～7時30分の長時間に亘って〝構造と意匠〟のテーマでそれぞれの関係者がキタンない意見の交換を行った。

（教育委員長　**奥島正一**）

災　害　委　員　会　活　動　報　告

本委員会は，「建築に関する構造・地震・風・水・火・工事現場の災害の調査研究をなし，災害の予防対策について普及宣伝をおこなう」ことを事業活動の範囲としている。本年度は昨年度よりの引継の事業，(1)土質試験の標準仕様書・簡易地耐力の調査方法。(2)杭耐力の試験法。(3)実際に役立つ鉄骨計算便覧，の3件と，新に企画した，(1)地震について。(2)建築現場の災害予防について。(3)風・水害の災害調査について，を事業としてそれぞれ調査・研究を行った。とりわけ鉄骨構造の計算と実例（実際に役立つ鉄骨計算便覧・改題）は昨年より企画の検討を，新年度からは石崎潑雄氏を幹事として原稿の調整，実例図面の検討など進捗を図り，昭和34年5月ごろには発刊の予定で現在印刷中である。本図書をテキストにした講習会を地方会員を主にして企画中である。本年の事業一つ一つについては現在研究の段階で報告までには達していないが，来年度委員会に引継いでそれぞれの成果を期待したい。

（災害委員長　**馬場善雄**）

会　　合　（2月分）

通常総会

26日　4時20分～5時　於会館集会室

出席者　尾崎会長外13名

議　事　1.監事1名，評議員35名選挙の件。

評議員懇談会（技術部門）

11日　正午～1時半　於会館会議室

出席者　滝本副議長外7評議員

評議員改選に伴う技術部門選出評議員候補者推薦の件について懇談。

理事会

11日　4時～5時半　於会館会議室

出席者　尾崎会長，東畑副会長外12理事

議　事（1）通常総会開催の件。

（2）常務理事任期満了に関する件。

（3）その他。

（イ）新建材展示会後援の件。

（ロ）創立記念日行事の件。

（ハ）会館張り出し看板取付の件。

（4）入退会者承認の件。

（5）報告事項。

臨時理事会

20日　3時～4時半　於会館会議室

出席者　尾崎会長，鴻池副会長外7理事

5月大阪府知事表彰の候補者推薦の件。

部会「工程研究会」

7日　1時半～3時半　於会館会議室

出席者　尾崎会長外各部幹事及委員14氏

「工程研究会」を新設し，適正工期の検討方法についての方針を決定した。

12日　3時半～4時半　於会館集会室

出席者　越田幹事，北山委員外5委員

建築主体工事の工期を判断する要素に関して意見の交換が行われた。なお委員の増員を決定した。

委員長連絡会

11日　3時～4時　於会館会議室

出席者　岩崎，塚本，西嶋，恒岡，奥島，高橋各委員長

塚本編集委員長から「建築と社会」の編集方針その他，西嶋住宅委員長から事業予算増額の希望などが述べられ，意見の交換が行われた。

事業委員会

小委員会（若い会員の集い）

小委員会（各種説明会）

2日　6時～7時半　於会館会議室

出席者　三品，内藤両主査外3委員

両委員会とも今後の事業企画について審議。

委員会

9日　5時半～7時　於会館集会室

出席者　岩崎，尾亀正副委員長外8委員

議事（1）3月の事業企画について。

（イ）見学会。（ロ）各種説明会

（2）「若い会員の集い」の企画について。

（3）次年度委員の推薦について。

（4）ハードボードの検討に関して，新建材説明小委員会と出版委員会と連絡に関する件



小委員会（各種説明会）

21日　正午～1時半　於会館会議室

出席者　内藤主査，井上委員　説明会社　3社

3月25日開催予定の「最近の基礎工法と新しい建材の説明会」の実施について打合。

住宅委員会

9日　3時～5時　於会館会議室

出席者　西鳩委員長外5委員

議　事（1）資料費を来年度予算に請求の件。

（2）エレサレムのシンクン住宅会社の住宅政策について。

（3）スライド「家のできるまで」試写会開催の件。

（4）学会支部の住宅研究分科会と提携の件。

編集委員会

幹　事　会

14日　3時～4時　於会館会議室

出席者　塚本委員長，川名幹事

6月「都市計画特集」号の企画立案審議。

委　員　会

14日　4時～6時半　於会館会議室

出席者　塚本委員長外9委員

議　事（1）3月「共同住宅特集」号経過報告

（2）4月「様式・デザイン特集」号経過報告

（3）5月「学校特集，八幡製鉄戸畑工場特集」号経過報告

（4）6月「都市計画特集」号企画審議

（5）明治，大正時代の建物資料の整備について

（6）7月「青年建築家」の募集要項について

特許　防火シヤッター全般
小俣式
電動式～箱型・ウオーム・スパー
手動式～自動・鎖
オートマチック
株式会社 小俣製作所大阪出張所
（旧田中シヤッター）
大阪市北区若松町30　TEL ㉞9016
本社及工場・埼玉県与野町
東京事務所及工場・東京都北区田端町

災害委員会

小委員会（鉄骨構造計算書）

12日　3時半～5時半　於会館会議室

出席者　石崎幹事外7委員

「鉄骨構造計算と実例」の編集，日程などにつき審議

23日　4時～6時半　於会館会議室

出席者　石崎幹事外4委員

「鉄骨構造計算と実例」のレイアウト，出版費，定価などについて審議。

座　談　会

「日本の現代建築の形成過程について」の座談会

18日　4時～7時　於北浜北水

出席者　司会鳥田氏外5氏

会誌4月「様式・デザイン特集」号企画として開催

見　学　会

旭硝子K.K.尼崎工場見学会

28日　1時～5時　参加者45名

＝特許＝
氣光式通風器 製造販売
南団式レチスター
大阪市西区江戸堀上通1の5
田辺工業株式会社
電話土佐堀㊾7437—9
特許第一五一三六号
カタログ進呈

各種陶管・大正便所・S.P.石綿パイプ・モルタル製敷ブロック・腰掛ブロック・スペンサー
セメント煉瓦・流司洗濯槽・塵芥箱・空気抜・ヒューム管
各種セメント製品・コンクリート製品製造・販売
三舟建材商會
大阪市住吉区上住吉町三一番地
電話㊲2420番

社団法人 関西建材協会2月分会報

各部門別部会 2月下記の通り開催

鋼材，仮設，組積工事6日，金属並に建具金物工具9日，硝子，合成樹脂部11日，木工家具，装飾部16日，タイル石工事左官部17日，防水部18日，建物保全19日，屋根設備部23日，内装部24日

以上各部会は34年度評議員半数改選候補推薦。岡山展と説明会，新名簿発行，建材時報協力，会名改称，会費改正其他協議した後，各部共特別会員出席を乞い約1時間余座談会を催した。

大阪展示場委員会（10日午後3～5時）

高田委員長外5名出席。入口問題，看板掲揚，特別展示新プラン，展示品交替の件等協議する。

各部長会議（12日1～3時）

青木副会長，室谷，笠原，正副理事長外各部長出席。記念事業並に総会につき協議。

理事会（12日3～5時）

青木副会長，久保監事外17名出席，34年度役員半数改選創立10周年記念事業，建材会館建設問題，会名再検討（アンケートの件）等協議諸報告を了す。

講演会（14日正午～2.30於損害保険協会）

民法家族制度と政治経済につき大川光三弁護士（参議院議員）を招き午餐と講演会開催約30人出席。

講師大川光三氏（弁護士，参議院議員）は皇室の婚姻制度より説き起し結婚離婚，内縁問題や家族制度と債権債務，遺族財産分配，贈与等に関する件。

ビルマ，インド方面事情とネール氏との会見談岸首相の政治方針，厚生年金法提案内容等政治の話や設計，施工，建材三味一体と本年経済界等の話に興味深く予定時間延長有意義に終った。

× × × × ×

3日 大和常務理事は本会顧問神戸大学伴博士と会館問題につき敷島ビル建物検分並に菅原顧問弁護士と協議

7日 日本建築協会連合部会開催建材部として万年スレート，田島応用化工出席。

11日 高橋理輪禍常務理事見舞参上。

16日 鳥取士会並に関係業者110名展示場見学。

21日 青木副会長，大和常務理事は中村会長面会，記念事業に関する件並に今回東京建材展示場大阪分室設置反対意見について協議。

21日 高原岡山建築士会長来会，常務理事と天満屋建築展と産業会館説明会打合せ。

25日 午後室谷理事長，大和常務理事は会長訪問上京中につき木村総務部長と面接，東京展示分室開設反対意見表示と全会員に共鳴を求める方法等懇談した。

岡山県建築課堀係長，岡崎事務員来会，出品打合せ本会事務局員と市内廻る。

尚**福岡県**建築課吉田技師来会，福岡建築士会々誌の広告募集協力打合せ，

福岡展示場委員会開催通知発送。

26日 会費改正細則一部変更通知，新名簿申込について注意事項全会員に発送。

—会員動勢—

○代表者更迭

味の素KKでは井谷龍太大阪支店長は本社栄転の後任として生盛貞彦氏が取締役大阪支店長に就任

○電話変更

KK岩住鉄工所 ㊼5123～7に変更

ジャパナイトKK ㊸5201～6に変更

大日本セルロイドKK ㉗3151・4151代表に変更

昭和アルミニウムKK 堺③1181代表に変更

○電話増設

サンエス石膏KK大阪営業所 ㊹2142

藤本建材KK ㊼1515

藤森建材KK大阪出張所 ⑭3798

○社名変更

竹原産業KKは，竹原化成工業KKに

新入会員紹介

社名・代表者	取扱品	住所	電話	紹介者
山宗化学KK大阪出張所 所長 杉本精義	ヴィンゾール(A.E剤) C.P.S(型枠の剝離剤) 他	大阪市西区江戸堀下通2の38（西船場ビル）	⑭7715・2803	事務局
山善機械器具KK 取締役社長 山本猛夫	化成品の建材品全般	大阪市西区立売堀北通3	㊸7531～7	事務局
KK秋山商店 秋山清次	ゴーライ壁地 富士山印 麻掛地 畳材料一式	大阪市東区瓦町3の15	㉓1168・4391	事務局

大阪展示場 大阪市東区北浜3丁目 近畿建築会館1階と地階 展示小間100余あり。

福岡展示場 福岡市万行寺前町14（博多駅より5分 松下ビル横入る櫛田神社正門通）電③1225～6 出品62社 休祭日除き 9～5時 どなたでも御自由に御立寄り御覧下さい，御用は常駐係員へ御命じ下さい。

広島展示場 広島市鉄砲町……今夏開設目標で進捗中。

新発売！

ベネシャン ブラインド 百葉

装飾と実用性を誇る…

カタログ贈呈

88cm×91cm… 700円
88cm×121cm… 800円
88cm×152cm… 900円
121cm×152cm…1300円
152cm×152cm…1600円
182cm×152cm…2000円

別註寸法の場合は一～二割高です

株式会社 ライト製作所
大阪市城東区野江東3（京阪野江駅前）
TEL 代表㉝1751～4・3638
東京・広島・和歌山

田中式 スカイライト

スチールサッシュ
スチールシャッター
オペレーター
スチールドアー

ベンチレーター

田中工業㈱大阪出張所

設計施工

大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2ノ89 電話㊽0545
本社 東京都墨田区吾嬬町東4ノ122 電話 城東㊽0870・0970
錦糸工場 東京都墨田区錦糸町1ノ25 電話本所㊸0790・5133
小倉工場 小倉市赤坂上の宿37 電話小倉0653・2833
川崎出張所 神奈川県川崎市東渡田3ノ43 電話 川崎②4540
札幌出張所 北海道札幌市北三条東7ノ4 電話 札幌③0515
盛岡出張所 岩手県盛岡市木伏179 電話 盛岡2554
名古屋代理店 名古屋市西区西菊井町2ノ12岡田建材店 電話 西㊷0121

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事

専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(34)207～8・4836～7

電気工事設計施工
電気冷蔵庫・電気洗濯機
修理販売

工藤電気株式会社

大阪市北区野崎町八〇
電話・大阪㊱2891—5番
工場　大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話　淀川㊼3477・3478
営業所　東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

大阪市東区北浜二丁目六九
電話　北浜㉓5273—5・5451—2
営業所　東京・札幌・沖縄・福岡

電気工事
設計・施工

朝陽電気株式会社

取締役社長　山本博三

本社　大阪市北区中之島三丁目三　朝日ビル7階
電話　大阪局㉓9531（大代表）
営業所　大阪市西区土佐堀通リ四丁目十一番地
電話　大阪局㊹5201番（代表）～3
出張所　京都・福岡

電気工事全般設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長　今村騰

本社　大阪市北区梅ケ枝町二五番地
電話　大阪㉞8131代表～4　㊱7263
営業所　東京・新宮・御坊

電気工事設計施工
三菱電機・冷凍機工事特約店

株式会社　野上工業所

取締役社長　野上清二郎

本社　大阪市東区北浜三丁目四七　電話北浜㉓770～3
支店　福岡市上東町十五　電話東③5010
支店　松阪市本町　電話2480～2
出張所　東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分・四日市

電気工事設計施工

株式会社　**ヤマト電気商会**

取締役社長　山本龍太郎

本社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪㉞代3056
東京営業所　東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館607号室　電話東京㊾7464
出張所　名古屋・四日市・福山・福岡

電気工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納傳三

本社　大阪市大淀区浦江北2丁目51
電話㊺5148・6460・6646
分室　大阪市北区絹笠町50（堂ビル3階）
電話㊱3862・1141
支店　東京都千代田区飯田町2—15（飯田橋ビル4階）電話㉝8520・8527～9
出張所　名古屋・光

電気工事全般設計施工

株式会社　**三興社**

取締役社長　坪井大（タケシ）

本社　大阪市北区絹笠町50番地（堂ビル703号室）
電話　大阪㊱2138代表・5018
支店　東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話　兜町㊼1478・1479・1470番
出張所　大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工

株式会社　**松重電機商店**

取締役社長　松本芳太郎

大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話　北浜㉓6951（代表）～3㉓8121

電気設備工事・設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話　大阪㉝5143・5373
機器工場　大阪市城東区野江西之町三丁目一一三
資材倉庫　電話　大阪㉝2193・2134

暖冷房・水道・衛生設備
設計施工
山田工業株式会社
取締役社長　山田文次
本社　大阪市西区京町堀上通1丁目7
電㊹代2613・2061
営業所　神戸市生田区北長狭通7丁目1の1
電④1778・4386
出張所　名古屋市中区梅ケ枝町2の3　電⑨1765
〃　東京都北区上十条1の10　電⑨1②2346
〃　広島市西魚屋町31　電②1375

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工
株式会社 **三晃商会**
本社　大阪市北区堂島北町一四　㉞代表7031
出張所　東京都港区芝琴平町四〇　㊿9278
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820
福井市宝永上町一〇五　1596
広島市石見屋町五五　②1938
福岡市養巴町二二　④1158

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ループドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)
斎久工業株式会社大阪支店
大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話大阪㉖代表4496～8・4993～4番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話28局6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢本局②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話　福井2436
高松出張所　高松市二番丁九　電話　高松5195

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生
株式会社 **斎藤省三商店**
東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店　札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話　札幌②0010・0956　③4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号　電話中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売
三機工業大阪支店
大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社　東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島
工場　川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工
須賀工業株式会社
大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺{代表1171番 / 代表1351番}
東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話㊸代表7121
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓代表7856
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル　電話⑤1989・2255
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町　電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置
株式会社
西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話福島㊺3415(代)
東京事務所　東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話三田㊺5281(代)

空気調和装置・設計施工
株式会社 **建材社**
大阪支店
大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話北浜㉓6041(代)
本社及東京支店　東京都中央区八重州三丁目七
営業所　名古屋市中区西万町二丁目一

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工
株式会社 **大阪城口研究所**
代表取締役　城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話大阪㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話京都⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸④5892

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工
株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**
取締役社長　菅谷三郎
本店　大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話大阪㊹代表{5231番 / 8231番}
支店　東京・名古屋
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・福岡
熊本・札幌・仙台・新潟・金沢・福井

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設計施工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電話北浜㉓7641（大代）
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社
大阪支店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電話大阪㉞局8356（代表）
本社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
支店 東京・名古屋 出張所 九州
工場 東京都足立区下沼田町360番地

煖冷房・水道衛生工事
設計施工

株式会社 **栄興商会**

取締役社長 中山俊人
本社 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電話福島㊺3391～5番
支店 東京都新宿区荒木町一九番地
電話㉟2177～8番
出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三
電話元町④3035番

煖房・冷房水道・衛生
温湿度調整装置
設計施工

株式会社 **朝日工業社**

大阪市北区中之島4－39 電㊹6671～5
東京支店 東京都港区芝浜松町2－7 電㊾7341～5
北海道出張所 札幌市北四条西15丁目 電②2203・③5374・5969
仙台出張所 仙台市元寺小路（五城ビル） 電②8061・③9261
名古屋出張所 名古屋市中区東陽町6－5 電㉔1270・1484
広島出張所 広島市中町3 電③7949
福岡出張所 福岡市薬研町3 電④0788・⑤0296

温湿度調整装置、煖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話大阪㉞（代表）0977
0978～9・0970
本社 東京都千代田区丸ノ内2－10
電話㉘2631－5
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話7332
名古屋出張所 名古屋市東区東門前町3－6
電話⑨2893

温湿度調整・煖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川進男
本社 京都市中京区両替町通リ姉小路上ル
電話②2290・5532・6945
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1－37（天満橋北詰）
電話㉟8829
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話7503・3665
津営業所 津市栄町2－111 電話3610

PAINTING CONTRACTOR

塗装工事請負

株式会社 **林塗装店**

TEL. 大阪㉕1756—7・東京㉙1335

暖・冷房・空気温湿度調整装置 設計施工
各種送排風機・エロヒンヒーター・キャビネットヒーター
冷却塔・各種レヂスター・アネモスタット類製作

藤本鉄工株式会社

本社並工場 大阪市旭区赤川町三丁目二八 電話㊾1264－6
梅田営業所 大阪市北区神明町五〇 電話㉞1144－5
名古屋出張所 名古屋市東区駿河町一丁目三 電話⑨4594・5118
寝屋川工場 寝屋川市大字太間一九五 電話（寝屋川）0404

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本店 大阪市西区南堀江上通一丁目三一
電話新町㊸3426～7

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大阪支店

大阪市北区曽根崎新地三丁目五十三ノ一
（市電桜橋停留所前）電話大阪㉞1274～6
支店・徳島・神戸・姫路・東京

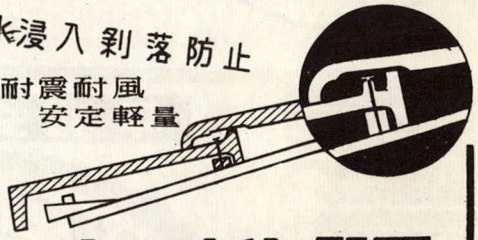
鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所
株式会社 鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33　電話㊲0098・5837・8729

雨風に強く
緩勾配に最適
大和洋瓦（だいわ）
超軽量荷重（坪当37貫）和型より安い
発売元
大仏組　大仏瓦・各種和洋瓦 工事請負一式
本店　京都市東山区今熊野池田町九　⑥3555
大阪営業所　大阪市東区内淡路町一丁目　㊹975

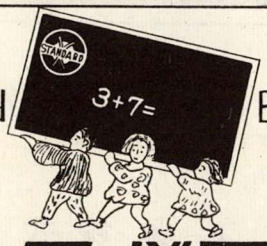
陶管・ベンチレーター
株式会社 三幸商会
大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電話 大阪 ㉞3145
ヒューム管

コペンハーゲンリブ
商月報無料送呈
井田ペンキ
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一、〇一七番地 湊町駅貨物八号門前
電話 (53) 4890・(54) 0808~9

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

大阪市浪速区元町二丁目七四三 電話(64)五〇六六
ナニワ瓦株式会社
ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾配最適軽量 水止付(空葺)瓦

特許植物性　型枠離剝塗料
サンヒット
関西代理店　株式会社 金剛商會
大阪市西淀川区野里町1231　阪神国道電車　野里電停前
製造元 東京 坂巻サンヒット商会　電 淀川㊼0417・4091

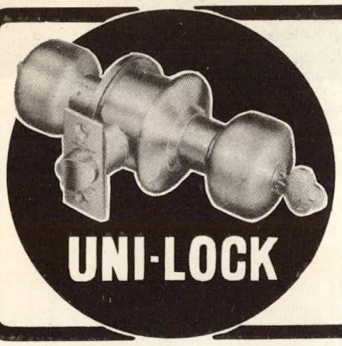
タイル 衛生陶器
販売と施工
奉仕感謝の店
株式会社 川岸窯業
大阪市西区靱南通二の二五（市電靱南通電停前）
電話㊹2571・2764番



Standard　Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地 電話天王寺(74)4692番

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店

株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交又点
電話大阪㉞2403・3904



建築界待望の新扉錠……！

ゴールユニロック

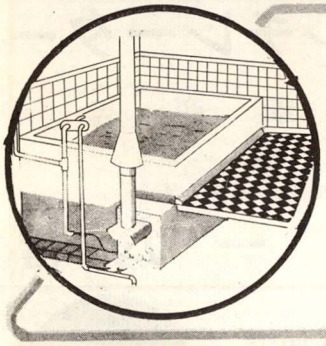
GOAL

日本住宅公団・公営住宅御指定

株式會社 谷山製作所

大阪市東淀川区三津屋北通四丁目 電話(37)3117・5871・7724

シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠



田中のガス風呂

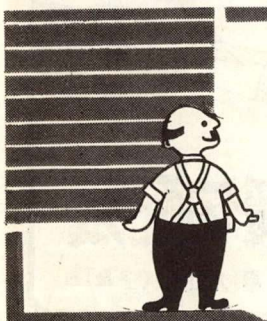
清

大阪ガス会社指定

各種銅鉄風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・
ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町1丁目742 但シ賑橋電停前 電話㊹5313・8128



平和式

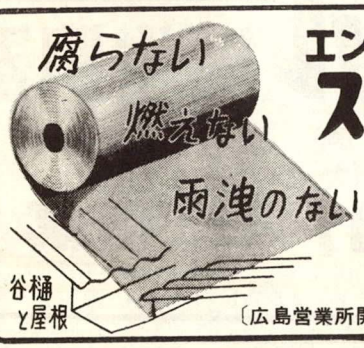
親切・丁寧 ご御照会

軽量シャッター

株式会社 平和シャッター製作所

大阪工場 大阪市浪速区河原町2丁目 電㊹5750・8444

東京工場 東京都太田区糀谷町4丁目 電㊼0160・1733



エンドレス（長尺もの）

スタンダードメタル

PATENT Standard

谷樋・屋根に 是非どうぞ

スタンダードーメタルの大島化学
エバーブライトの大島化学（アルミ箔ルーフイング）
オーシマライトの大島化学（ポリエステル樹脂積層板）

大島応用化学工業㈱

本社工場 大阪市城東区野江東ノ町4丁目 電話城東㉝3679・4481・8471
第二工場 大阪市城東区古市中通2丁目 電話城東㉝8813
支店 新居浜市西原町 電話2327・2938・3255
営業所 名古屋市 電(中)7025・広島市 電㊸7582 出張所 四日市市 電2065

〔広島営業所開設〕

石綿セメント製品の最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

（硬質石綿板）

Asbesto. Barrier

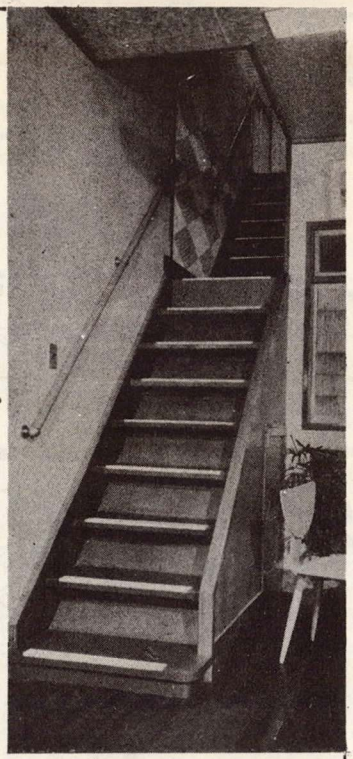
建物内外壁、間仕切、天井扉
電気室、発電所、配電室、製鋼
ガラス工場の壁、製糖、製油
製薬工場の床スカート壁など
に最適

泉石綿工業株式会社

呈カタログ

大阪市北区北同心町1丁目11
電話堀川㉟3442・4078

リブ付塗装合板
美装パネル
吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
二重色調浮出盃
カラーボード
織物の壁貼材料
オーツカクロース
線條塗装合板
ラインボード
ビニール合板
ビニライト
立体塗装合板
カーベライト
九つの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

大阪市浪速区幸町通3丁目20 **浪速合板** 電話 新町(53) 2201-3番

工場 大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

木毛セメント板



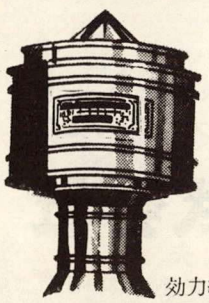
東邦商会
本社 大阪市東住吉区桑津町3丁目59 電話大阪⑭1296～7
出張所 和歌山市新堀6丁目13 電話和歌山②0298・9435

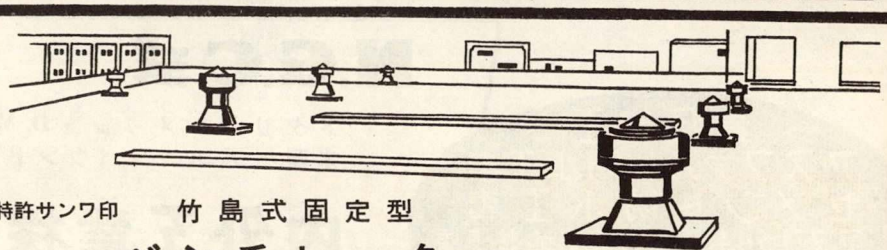
Acoustic Tex 吸音テックス



株式会社 **室谷商店**
本社 神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル TEL 三宮③0881～3
支店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階 TEL大阪㊱2021・3486・1141

燃えない建築資材
耐火ボード
タイガー印
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店 大阪市西区土佐堀通1一1(大同ビル) 電話(44)3694・0131
本社 東京都丸ノ内・三菱東九号館四号 電話 東京(28)2391(代表)
九州営業所 福岡市相生町1一1 電話西(2)7420



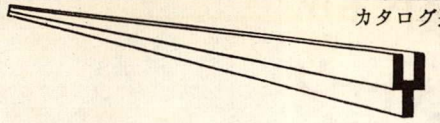


特許サンワ印 竹島式固定型
ベンチレーター
全国各地有名金物店に有り
効力絶対責任付
回転式の三倍強
カタログ送呈
製造元 発売 **三和金物株式会社**
大阪市南区南綿屋町 電話(27)4755—7

（ＪＩＳ）製作工場

スチール.サッシュ
スチール.ドア
スチール.シャッター


NS型


LS型

カタログ進呈

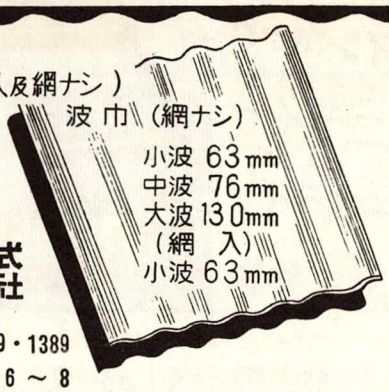
パテ切リ不要ノ　〝サッシュバー〟

栄進鋼業株式會社
本社及工場　大阪市城東区野江西之町2丁目2
電話城東㉝8261～3

出張所 福岡 連絡所 名古屋 広島 長崎 富山

光り 波型ガラス（網入及網ナシ）

ダイニチライト
ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板



製造元　大日本硝子工業株式会社

大阪支店　大阪市北区玉江町2—4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹3389・1389
本　社　東京都中央区京橋3—6　電話㉘6926～8

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルタル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　電話豊崎㊲1333番

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト
モルタル工事

N.G.C式

メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

内外工業株式会社
脇山静夫
本社　大阪市阿倍野区旭町一ノ五一　電話㊸3434～6
工場　大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

N.G.インシュライト断熱材製造発売元

日本で初めての **年限仕様**

Ⓐ アスタイト防水

地区	組合員名	住所	電話
近畿（順不同）	(株)久保商店	大阪市北区真砂町5	北 ㉞0207～8・4836～7
	(株)木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5ノ35	土佐堀㊸5408・5486
	(株)明正社	大阪市北区樋ノ上町45	北 ㉞8157～9
	(株)井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1ノ7	土佐堀①8531
	(株)大和商会	大阪市南区高津町4番丁73	戎 ㊷1588・1905・6687
	(株)石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通り1ノ31	豊崎㉗3340・3505
	石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	湊川⑤2140・2697
	タテバヤシ商店	京都市下京区四条大宮南入学校前	壬生㊽4468
	田島応用化工㈱大阪出張所	大阪市西区京町堀上通1ノ14	土佐堀㊸1773～5・809～10
東海	(資)岡田建材店	名古屋市西区西菊井町2ノ12	西 ㊽2057・0121
	(株)名建商会	名古屋市中区宮出町41ノ2	中 ㉔1329・2817・2106
	高橋建材店	名古屋市中区村木町1ノ12	本局 ㉙3295
北陸	北川工業株式会社	金沢市西側町8	金沢②4552～3
	北川工業(株)富山営業所	富山市奥田新町28	富山②2218 ③1014
	小島工務店	高岡市大坪旭町2丁目32ノ3	高岡 2463
	小島工務店富山営業所	富山市神通町3区1003	富山 8221
中国	青盛建材株式会社	広島市鉄砲町108	中 ②2281～4
	青盛建材(株)岡山営業所	岡山市東田町3	岡山②7911・8169
	(有)小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	岡山②4272
	(株)浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道 2760
	(株)浜原豊商店 防府支店	防府市大林寺	防府 1037
四国	古市断熱工業株式会社	高松市天神前220	高松③4239
	正和商事株式会社	松山市1番町21	松山 525・1159・2159
九州	青盛建材(株)福岡営業所	福岡市万行寺前町14	東 ③1225～6
	暁建材工業株式会社	福岡市薬院町65	中 ④4326
	高稲工業株式会社	長崎市大黒町45	長崎②9228

建設省阪建22号認可　　出資金510万

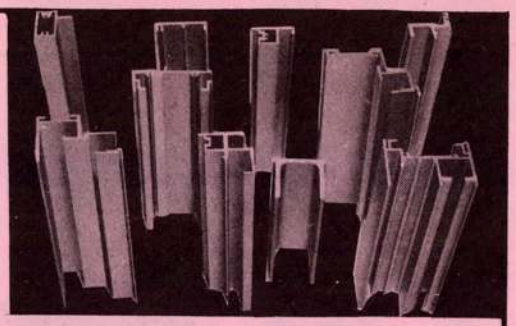
三星 西日本アスファルト事業協同組合

大阪市西区京町堀上通一の一四　TEL ㊹ 代表1773
東京連絡所 東京都足立区小台町六三三（田島応用内）　TEL ㉑ 代表1181
北陸・東海・近畿・中国・四国・九州

昭和アルミの

押出型材

アルミニウムの押出型材は複雑な型状のものが容易に作れ製品コストを下げ、軽く、美しく、錆びず、合金によって鉄鋼に匹敵する強度を持ちます。最近極めて広範囲に使用されています。
アルミニウム工業に於て伝統を誇る当社は最新式押出機により管、棒、線、その他各種の型材を生産しています。



昭和アルミニウム株式会社

本　　社　堺市海山町6の224
東京営業所　東京都中央区日本橋堀留町1の12
T E L　堺3—1181(大代表)　大阪(67)3522(代表)

軽量鉄骨
設計・施工

新鋼建設工業株式会社

取締役社長　吉田信武

本社　大阪市西区新町通2丁目25　電話 ㊸ 609・6575
工場　神戸市東灘区本庄町青木古堂町53　電話 神戸 ⑧ 616
広島県御調郡向島町立花3010　電話尾道2868 向島西19

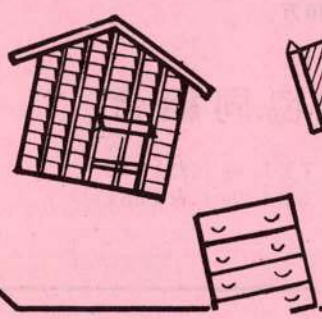
● リーフレットの用意があります　ご請求下さい　● 模造品が一部市場に出ていますからご注意下さい

特許C型カーテンレール

A—10

東京装備工業株式会社　東京都中央区新川1-6 TEL 55|0771-5

住宅や家具につく白アリや害虫を退治します、その上「アリノン」は
くされ・かびにも特効があります。



白アリに　アリノン

山宗化学株式会社　東京都中央区八丁堀2丁目3番地 電話(55) 5292・3634・0729
大阪市西区江戸堀下通2～38西船場ビル 電話土佐堀(44) 7715・2803

アスファルト防水の材料と工事は

（アイウエオ順）

◀製造業社

協和建材工業 k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(37) 6002・857
k.k. 工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(66) 8861～2
k.k. 工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(97) 4460・8288
大恵工業 k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(47) 3131～2
田島応用化工 k.k. 大阪出張所	大阪市西区京町堀上通1丁目14	(44) 809～10・1773～5
東亜工業 k.k.	大阪市天王寺区堀越町2丁目1	(77) 915
日瀝化学工業 k.k. 大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(39) 824～5・2045

◀販売業社

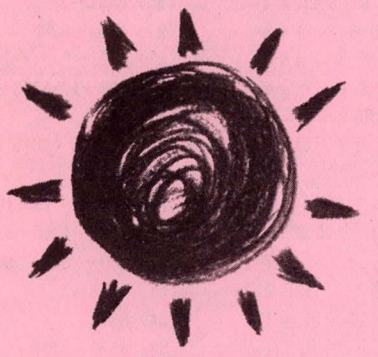
浅野物産 k.k. 大阪支店	大阪市東区瓦町2(三和ビル)	(23) 1731代・2931代
池田商事 k.k.	大阪市東区道修町1丁目11(加藤ビル)	(23) 1345・1346・3381
内田商会	大阪市北区万才町47	(36) 900・2841・2966
梅本石油 k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(54) 3785～7
枝松商会	大阪市北区道本町41	(34) 8643
大阪朝日瀝青 k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(53) 4520・8401
三友アスファルト k.k.	大阪市天王寺区堀越町2	(77) 915
川崎物産 k.k. 大阪支店	大阪市北区絹笠町50（堂ビル二階）	(36) 774
中西瀝青産業 k.k. 大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(34) 4305
k.k. 長野商店	大阪市北区中之島6丁目8	(44) 853・5196
日本建設興業 k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(23) 2771～2
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目35	(44) 5223～4
村井工業所	大阪市生野区生野田島町94	(73) 2514
山文商事 k.k.	大阪市西区土佐堀1丁目13	(44) 0255代・5392代

◀工事業社

旭化建工業 k.k.	大阪市北区茶屋町38	(37) 6555～7
k.k. 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(44) 3520・4564・1005
k.k. 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(37) 3340・3505
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(37) 1333
大島応用化学工業 k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(33) 3679・4481・8471
カナヱ商店	大阪市北区空心町1丁目30	(35) 2922
共栄瀝青工業 k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(94) 5561～2
k.k. 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(44) 5408・5486
k.k. 久保商店	大阪市北区真砂町5	(34) 207～8・4836～7
清水興業 k.k.	大阪市北区鶴野町34	(37) 1383・2933・9377
k.k. 大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(64) 1588・1905
友田工業株式会社	大阪市都島区都島中通6丁目41	(35) 4779・0997
内外工業 k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(64) 3434～6
日新工業 k.k. 大阪支店	大阪市西区新町北通1丁目40	(53) 5281～3
日本瀝青工業 k.k. 大阪営業所	大阪市北区富田町40	(34) 1804
k.k. 双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(37) 3375
松本瀝青工業 k.k. 大阪支店	大阪市都島区都島本通7丁目45	(35) 9231
マルヱス工業 k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(45) 2360・2030
k.k. 明正社	大阪市北区樋ノ上町45	(34) 8157～9
米田工業所	大阪市天王寺区南玉造町43	(75) 7271
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	湊川（5）2697
k.k. 中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	湊川（5）4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	元町（4）6930
中村瀝青工業株式会社	神戸市生田区北長狭通6神繊共栄ビル	元町（4）5884
有限会社 小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	（2）4272
k.k. 浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道2760
青盛建材 k.k.	広島市鉄砲町108	中（2）2881～2
古市断熱工業 k.k.	高松市天神前220	高松 4239
正和商事 k.k.	松山市一番町	松山525・1159・2159
k.k. 山本商会	松山市茅町2丁目95	松山 2717

▶賛助会員

丸善石油 k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(27) 1251(代)



パールカラー

美しい

軽量構造

新しいALUMINUM時代をむかえるには

不二のFR型（レディメード）アルミサッシで

軽い

アルミサッシ・アルミドア・アルミスパンドレル・アルミサッシ・アルミドア・アルミスパンドレル

錆びない

経済的

営業品目
アルミサッシ
アルミドア
アルミスパンドレル
スチールサッシ
スチールドア
スチールシャッター

不二サッシ
株式会社 不二製作所

本　　社：川崎市中丸子135番地　電話　72—4261(代)
東京事務所：東京都中央区銀座西6～5　電話　57—5526(代)
大阪支店：大阪市西淀川区御幣島町中3～4　電話　47—1454
営　業　所：福岡・名古屋・金沢・仙台・札幌　工場：川崎・大阪

広告目次 (50音順)

ア アスファルト同業会関西支部 11
青山鋼材kk ……14
浅海電気kk …… 2
kk 朝日工業社…… 4
伊奈製陶kk ……中挟
泉石綿工業kk …… 6
井田商事kk …… 5
kk 岩住鉄工所……15
岩元工業kk ……14
kk 栄興商会…… 4
栄進鋼業kk …… 8
kk 荏原製作所……表紙 4
オリエンタルメタル製造kk 前付
大阪建材工業kk ……20
kk 大阪城口研究所…… 3
kk 大阪電気暖房商会…… 3
大阪耐酸工業所 …… 8
大島応用化学工業kk …… 6
kk 奥村重兵衛商店……32
奥山化工業kk ……18
織本特殊構造研究所 ……16
カ 樫野石灰工業kk …… 4
kk 川岸窯業…… 5
川口ゴム工業kk ……前付
河津装飾kk ……前付
kk 関西機械建材社……19
関西ペイント…… 目次対抗面
工藤電気kk …… 2
kk 久保商店…… 1
kk ケントク……20
kk 建材社…… 3
kk 工英社……表紙 2
kk 小俣製作所……65
kk 金剛商会…… 5
サ 斎久工業kk …… 3
kk 斎藤省三商店…… 3
三機工業kk …… 3
kk 三幸商会…… 5
kk 三興社…… 2
kk 三晃商会…… 3
三宝電機kk …… 2
kk 三和シヤッター製作所…前付
三和金物kk …… 7
敷島金物kk ……目次対抗面裏
彰 国 社 ……52
昭和アルミニウム kk……10
kk 新興建材工業所……17
須賀工業kk …… 3
住友金属工業kk ……表紙 3
鈴木シヤタア商会 …… 5
セメダインkk ……前付
タ 田島応用化工kk ……表紙 4
田中工業kk …… 1
kk 田中風呂製作所…… 6
田辺工業kk ……65
田村商会建材部 ……中挟
kk 谷山製作所…… 6
第一工業kk …… 4
大日本硝子工業kk …… 8
大日鋼業kk ……19
大 仏 組 …… 5
高砂熱学工業kk …… 4
kk 武智工務所……32
中央電気工業kk …… 2
朝陽電気kk …… 2
東邦商会 …… 7
東京鋼板工業kk ……14
東京装備工業kk ……10
東洋キヤリア工業kk …… 4
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……目次対抗面
ナ ナニワ瓦kk …… 5
内外工業kk …… 8
内外土木建材社 ……15
中本電気kk …… 2
中之島製鋼kk ……前付
浪速合板 …… 7
浪速建材工業kk ……19
日本管工業kk …… 4
kk 日本金具製作所……中挟
日本サッシュ協会補助会員 前付
kk 日本シヤッター製作所 …表紙 3
日本製板加工kk ……15
日本セメント防水剤製造所 ……表紙 3
日本ドアーチエック製造KK ……中挟
日本ハードボード工業kk …中挟
日宝軽石kk ……15
日瀝化学工業kk ……前付
西日本アスファルト事業協同組合…… 9
kk 西原衛生工業所…… 3
kk 野上工業所…… 2
ハ kk 林塗装店…… 4
kk 汎建製作所……16
kk 日立製作所……表紙 2
kk 平川鉄工所……前付
フタバ黒板 …… 5
藤本鉄工kk …… 4
福屋工業kk …… 4
藤森建材kk ……前付
kk 不二製作所……12
kk 平和シヤッター製作所…… 6
豊国セメントkk ……14
マ kk 松重電機商店…… 2
水谷ペイントkk ……64
kk 美素工業所……目次対抗面裏
kk 三高製作所……16
kk 三谷製作所……前付
kk 峰岸商店……18
三舟建材商会 ……65
kk 室谷商店…… 7
ヤ 山田工業kk …… 3
山宗化学kk ……10
kk 山本建材社……中挟
kk ヤマト電気商会…… 2
kk 油脂化工社……表紙 3
kk 吉田芳雄商店…… 5
吉野石膏kk …… 7
ラ kk ライト製作所…… 1

特別広告関係 (順不同)

kk 大林組…… 4
日本板硝子 kk…… 5
kk 鈴木シヤタア商会…… 6
kk 矢橋大理石商店…… 6
稲田kk …… 7
大阪市南区大宝寺西之町35
電㊡0040・1566
住江織物kk …… 7
kk 三晃商会…… 8
kk 平田タイル…… 8
kk 上野製作所…… 8
大阪市天王寺区東門町53 電㊡0408
高砂熱学工業kk 大阪支店…… 9
kk 大阪電気商会大阪暖房商会 9
工藤電気kk …… 9
大阪建材工業kk ……10
大阪窯業セメントkk ……10
大阪生コンクリートkk ……10

アルミニウム
ステンレス　サッシュ・ドアー
スチールシヤッター

東京鋼板工業株式会社

本社及工場　東京都荒川区尾久町5ノ1000
電話 ㊽ 8131～6
大阪支店　大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル3階）
電話 ㉞ 0621・0628
名古屋支店　名古屋市中区大池町24（丸菱ビル）㉙3048・4593
代理店　広島・福岡・富山・札幌

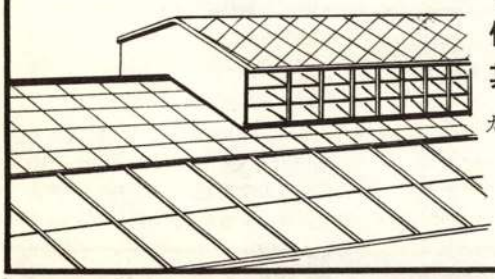
豊国セメント株式会社

本社　福岡県苅田町
事務所　小倉・大阪・東京

岩元式

スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター

サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工

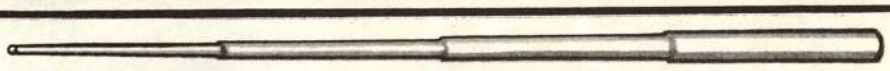




カタログ進呈

岩元工業株式会社
本社　大阪市東成区東今里町4の40
電話 ㊽ 0616・0617

段付テーパー
テーパーパイプ





アラヤの新製品
異形特殊パイプ

建築・家具・電気のデラックス　デザインに

アラヤ特殊パイプは本邦唯一の製法による電縫管で（ステンレス・軽合金・引抜鋼管も製作可能）下記の様な特長をもっております

1. 長尺にても真直ぐな製品が出来ます
2. 表面地肌が非常に美しい
3. 従ってメッキ及び塗装が非常に楽に行われます
4. 製品価格が非常に安い

カタログ・値段表送呈。見本御希望の方は（8本1組）¥370一要

異形直線パイプ



製造元　新家工業株式会社
発売元　青山鋼材株式会社 パイプ課
大阪市西淀川区野里町1239ノ8
電話大阪（47）0012・0013・0014・3760

ヒルコン

耐火 断熱 保温 保冷 防音
吸音 結露 防止 に

焼成蛭石

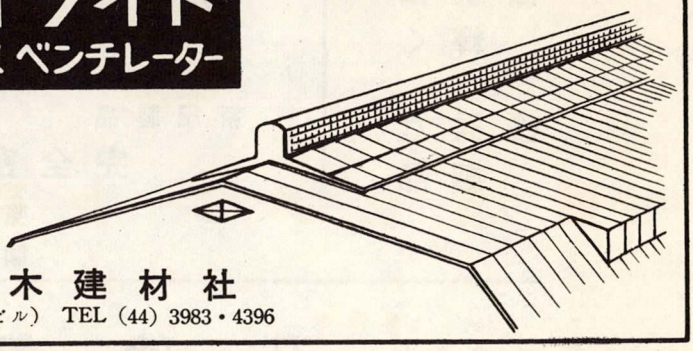
㊝日宝蛭石株式会社

大阪市東区高麗橋3～7 TEL(23) 1601.1704.5627.5628.淀川工場・大阪市東淀川区豊里菅原町119 TEL(38) 3101

40年の伝統と経験を誇る

内外式 スカイライト
コンチニアス ベンチレーター

体育館アーケードに最適



ベンチレーター（筒型各種）
バーチカルベンチレーター（電動式）
波型硝子屋根完全葺
設計施工

株式会社 内外土木建材社
大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル） TEL (44) 3983・4396

岩住のサッシ・ドアー

弊社製品の総てに

オートメーションに依る
錆止メ塗装は
実施致しまして
期しています

ボンデライトを
焼付塗装を
完全防錆を
是非御採用の程願上ます

株式会社 岩住鐵工所
大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地 電話淀川(47)代表5123・3000

ヘキタイト

JIS 日本工業規格 No.A 5404

防火、防熱、防音、吸音、保温、保冷

（軽量木毛セメント板）

	SIZE		
中細木毛	3′×6′	10mm	12mm	15mm
		18mm	25mm	50mm
極細木毛	3′×6′	10mm	12mm	15mm
		18mm	25mm	

製造元
日本製板加工株式会社
大阪出張所
大阪市北区高垣町8'0（やよひビル）
電話大阪（代）㊱178・4161番

三高式 サッシュ.ドアー.シャッター
オペレーター
ドアーハンガー
TRADE MARK
M.T.K.S
株式会社 三高製作所
本社工場 大阪市東淀川区西中島町7－69
電 話 大 阪 37－1 7 5 4（代 表）

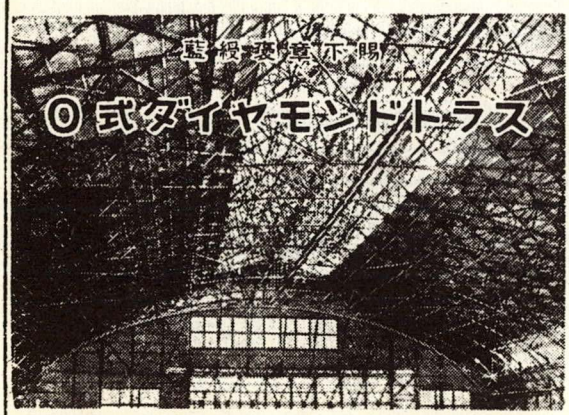
伝統に輝く
優秀な製品

スチール サッシュ
スチール シャッター
スチール ドアー

新規製品
完全密閉片引き窓
気密度極めて高く
開閉軽快・堅牢・低価

株式会社 汎建製作所
大阪市此花区恩貴島北之町11 電話 此花 ㊻ 2903・4461

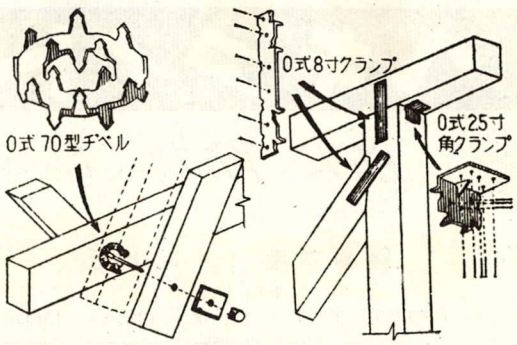
鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS



設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈

考案 織本建築設計計算事務所

官公庁御採用 耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた2階梁に
PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売 織本特殊構造研究所
東京都中央区日本橋蠣殻町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

SK

特殊壁材製造と左官材料専門卸



★セメント防水剤は世界的水準のJIS合格品のご使用を！

シンケン
防水剤・急結剤

★劇場・洋室・学校講堂・公会堂の内壁に防音・保温の

いすゞかべ

★近代建築の和洋室内壁に防音・保温・落ちぬ塗壁材

チエリーウオール

★純日本趣味の塗り良い優雅な壁……

錦上壁

★セメント・石灰・プラスターの着色に純鉱物性不変色の…

チエリーカラー

★セメントの（アク）でお困りの場合に

シンケン セメント(アク)止剤

水溶性特殊接着剤〝シンケン糊〟桜印酸化黄
ラスヒゲコ・末広布連其の他特殊材料製造発売

（カタログを各地有名建材店にお申込み下さい）

株式会社 新興建材工業所

黄綬褒章受賞

特許 奥山式 熱工法 冷工法 綜合防水層

カッパー防水帯

C.F #38

COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK

カッパーメッシュ
コーパータイト

耐酸耐油工事
アスファルト工事一般

製造元 奥山化工業株式會社

東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話 銀座 57 2703 4・2370・4064・0264

ボッシュ電動式ハンマー



カタログ本誌名記入
お申越次第進呈

強力・堅牢・高能率

穿孔・削切兼用・(電灯線使用)

コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。

独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店

株式会社 峰岸商店

大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話 土佐堀 ㊹ 0842・2181



第二工場

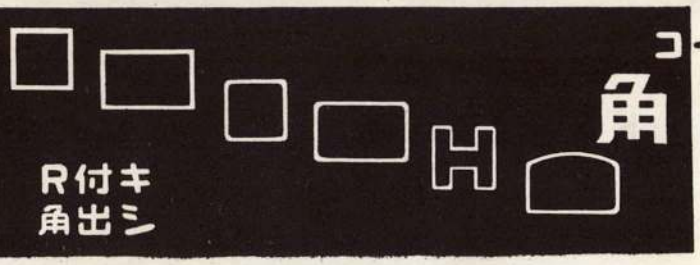
浪建式
スチールサッシュ・ドアー
シャッター・オペレーター
パーカライジングの処理工場完成
―製造販売―

NANIWA
大正十四年
創業

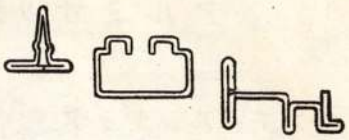
日満ゴムタイル
全國總代理店
責任施工

浪速建材工業株式会社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉛1171～3番
第二工場・大阪市城東区茨田横堤町四一番地　電話城東㉛6153・6824番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㉘4611番
福岡営業所・福岡市天神町三番地（サンビル内）　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番



コールドロールによる
角パイプ
特殊軽量形鋼



呈カタログ　日本特殊形鋼株式会社
発売元
大日鋼業株式会社
大阪市西区立売堀北通七丁目二一
電　話（54）1721・1722・1723

KKK
●伝統の技術
●製品の優美
●工事の確実
●工期の正確
●価格の適正

（カタログ進呈乞御一報）

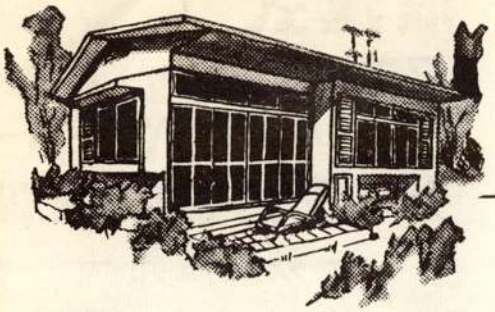


スチールシャッター
ライトシャッター
軽便シャッター
特殊機械扉

押上式
捲上式
横引式

株式会社 関西機械建材社

本社及第一工場　大阪市東淀川区野中北通二丁目三五　電話三（39）1864 2397
第二工場　大阪市城東区野江西之町二丁目二　電話城東㉝8263
名古屋出張所　名古屋市中区東陽町十一丁目十六　電話名古屋㉔0372
広島出張所　広島市小網町三九　電話広島(3)1250
福岡出張所　福岡市上州崎町二五　電話福岡(3)6326



家を建てたら：
ツヤ出しケントク

——板の間・廊下に——→

新築に

水拭きではすぐに黒ずみニス・ラッカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

ケントク

白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ポンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通 1—14　KKケントク　電話㊴1658・1416
0864～6

スチールサッシ・ドアー

アルミサッシ・ドアー

スチールシヤッター・オペレーター

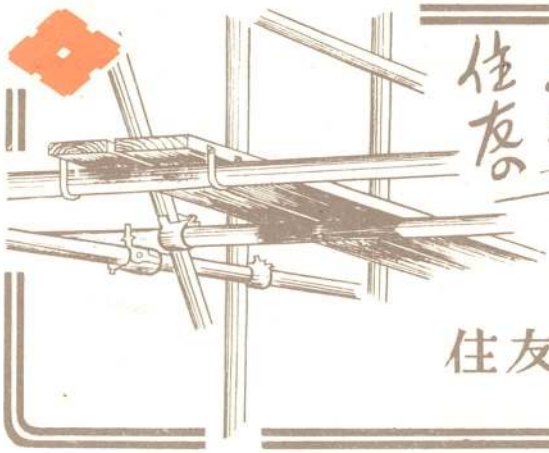


（弊社堺工場）

建

大阪建材工業株式會社

営業所	大阪市南区九郎右衛門町二十一番地	電話	㊼836～839番
工事部	仝　所	電話	㊼7127・7047番
本社工場	堺市松屋町一丁目六番地	電話堺	②3323～3327番
経理部分室	大阪市南区久左衛門町7番地	電話	㊼830番
泉尾工場	大阪市大正区泉尾浜通四丁目六番地	電話	㊺223番
出張所	名古屋・金沢		



住友の建材足場用鋼管

1．組立や解体が簡単で速くできます。
2．強くて軽く、安全確実な足場ができます。
3．腐蝕せず永年使用できる為、木材足場より経済的です。
4．工事場が整然としてスマートで、都市の美観を損じません。

住友金属工業株式会社
大阪市東区瓦町4丁目31
東京都千代田区丸ノ内（新丸ビル）

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

ウォータイトB号

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28—1　電　話　宝　塚　2153
大阪連絡所　大阪市東区船越町2—31（船越ビル）
電話㊾2626・7056（ビル代表）
工　　場　尼崎市難波本町1—34　電話大阪㊽8544（代表）
出張所電話　東京（43）0874　仙台（3）0721　名古屋（32）1331
ウォータイト式防水工事代行店電話　高山工業 東京（25）0161～3・安藤工事 福岡（3）5765・大三工業 高松6710

型仕様書贈呈

特許神田式

あらゆるシャッターの専門メーカー

株式会社 日本シャッター製作所

日本シャッター

本社工場　大阪市東淀川区田川通6丁目38（電）代37—8565・東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159（電）047—5350
名古屋支店　名古屋市中区宮出町23（電）24—4811・九州工場　福岡市榎田町1268（電）2—6708

紫綬褒章に輝く

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

八幡メタルホームKK推奨品

責任・施工・請負

株式会社 油脂化工社

取締役社長　矢中龍次郎

本　　社　東京都品川区二葉町1—441　電話荏原㊽1715
大阪営業所　大阪市東成区西今里町2—48　電話㊾4765・0063

昭和二十四年三月十九日
第三種郵便物認可
昭和三十四年四月二十日印刷
昭和三十四年四月廿五日発行（毎月廿五日発行）

エハラ・ターボ冷凍機
ねのくちポンプ



株式會社
荏原製作所

明るい床材
三星プラスタイル
（3.2耗厚）

三星アスファルトタイル
（3.2耗厚）
三星Pタイル
（2耗厚）
三星マチスタイル
（3.2耗厚）
三星ソフトタイル
（3.2耗厚）

★　各製品毎のカタログ見本御請求下さい

三星ルーフィングの
田島応用化工株式会社

東京・東京都足立区小台町633　TEL王子(91)代表1181
大阪・大阪市西区京町堀上通1～14　TEL土佐堀(44)代表1773

売価　一部　金百八十円（送料共）

御入会の御申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人日本建築協会　大阪市東区北浜3—37　電話北浜㉓9648・9649・9640
振替口座大阪39975番